内外市場ニ於ケル本邦輸出玩具ノ取引状況 上

商工省貿易局

581
300
581-300
1200501522450

ヱト 3G 78

（昭和六年通報第十九號）（印刷ヲ以テ謄寫ニ代フ）

昭和六年七月

内外市場ニ於ケル

本邦輸出玩具ノ取引狀況

（上卷）

商工省貿易局

緒言

一、本調査ハ上、下二巻トシ上卷ハ昭和四年中神奈川、靜岡、愛知、京都、大阪ノ二府三縣ニ夫々照會シ囘答ヲ得タル報告並ニ同年末更ニ調査係員商工屬齋藤宰ノ調査セル報告ニ基キタルモノニシテ之ヲ執務參考ノ爲メニ編纂セルモノトス。

一、本書統計中昭和三年ヨリ得ラレサリシモノノアルハ昭和四年末係員出張中得タル資料ニ依ルモノトス。

一、本書中意見ニ亘ルモノハ筆者ノ意見トス。

一、本調書下卷ハ專ラ貿易通信員並商品陳列所及海外公館ノ報告ヲ編纂セリ從テ編纂ノ都合上省略セシ所アリ。

昭和六年七月

商工省貿易局

發行所寄贈本

581-30

目次

第一章 總論……一

一、沿革 二、生産概況 三、輸出概況 四、輸入概況 五、輸出玩具ノ種類及時季 六、取引事情ノ概況 七、海外競爭狀況 八、結論

第二章 生産及輸出入狀況……一四

第一節 品種別生産狀況……一四

（一） セルロイド玩具……一四

（イ）、セルロイドノ起源 （ロ）、セルロイド生地生産狀況 （ハ）、本邦ニ於ケルセルロイド玩具ノ沿革 （ニ）、セルロイド玩具生産地帶及生産狀況

（二） 金屬玩具……二四

（イ）、生産工程 （ロ）、原料需給關係 （ハ）、ブリキ印刷業者 （ニ）、生産狀況

（三） 陶磁器玩具生産狀況……三一

（四） ゴム製玩具ノ生産狀況……三三

（五） 木製玩具生産狀況……三五

（六） 紙製玩具生産狀況……三八

第二節　輸出狀況……三九
（一）品種別國別輸出狀況……四〇
（二）港別輸出狀況……五四
（三）其他ノ輸出狀況……五六
第三節　輸入狀況……五七
第三章　取引事情……六一
第一節　取引條件及商慣習……六一
第二節　契約取極ノ場所及方法……六二
第三節　仕入方法ノ一般……六三
第四節　商品受渡ノ時期及場所……六四
第五節　代金支拂ノ時期及方法……六五
第六節　數量及品質檢查ノ方法、時期、場所……六六
第七節　危險負擔ノ關係及**クレーム**……六七
第八節　貸倒等ノ危險率……六八
第九節　包裝方法……六八
第十節　價格及其構成內容……六九
第十一節　取引上ノ機關及組合並團體……七〇
第十二節　金融關係……八三
第十三節　倉庫關係……八五
第十四節　運輸狀態……八六
第四章　各府縣別取引狀況……八七
（一）東京府……八七
（二）神奈川縣……九二
（三）靜岡縣……一〇〇
（四）愛知縣……一〇三
（五）京都府……一〇八
（六）大阪府……一一二
（上卷終）

第一章　總　論

一、沿　革

本邦玩具ハ古代我國文化ノ程度極メテ低キ時代ニハ全ク手工業ニ屬スル木製玩具或ハ土製又ハ竹、藁細工ノ如キ極メテ幼稚ナル玩具ヲ生產シ、次テ我機械工業、化學工業ノ進步ニ伴ヒ或ハ護謨、金屬、木製ノ玩具ノ生產ヲ見、次テ**セルロイド**工業ノ勃興ニ伴ヒ**セルロイド**ヲ原料トシテ玩具ヲ製作スルニ至リ、遂ニ木製、陶磁器製、土製ヲ凌キ更ニ金屬玩具ノ領域ヲ浸シテ全ク**セルロイド**玩具全盛時代ヲ現出スルニ至レリ、而シテ歐洲戰時斯界好況ニ伴ヒ本品ノ所謂粗製濫造時代ヲ形作リ一時ハ海外ニ於ケル信用ヲ失墜スルニ至リシモ、一面輸出檢查ノ實施セラルルト共ニ、他面當業者モ相互ニ戒メ以テ品質ノ向上ヲ計リタル結果ハ再ヒ我**セルロイド**玩具ノ海外ニ於ケル需要ヲ喚起シ、多年**セルロイド**玩具ノ爲メニ壓迫セラレタリシ金屬玩具モ、近時原料ノ吟味新奇ナル**デザイン**ノ考案等ニヨリテ漸ク獨逸品ニ對抗シ得ルニ至レリ、然モ近年ニ於テハ**セルロイド**玩具ト金屬玩具ト結合シタル玩具ヲ作リ出シ、以テ相當ニ海外ニ販路ト需要ヲ增大シツツアルハ洵ニ吾人ノ意ヲ强フスルモノアリト謂フ可シ。

二、生產概況

本邦玩具ノ生產ハ工場統計ニ據レハ各種玩具ヲ通シテ昭和四年度ニ於テハ合計約六百十萬六千圓ニ達シ、內金屬玩具九十八萬五千圓、陶磁器玩具八萬二千圓、護謨製玩具二百三十一萬八千圓、**セルロイド**玩具二百二萬五千圓、木製玩

具四十八萬九千圓、紙製玩具二十萬五千圓ヲ算ス、然レトモ右工場統計ニ表ハレシ數字ハ職工五人以上ノ所謂工場法ノ適用ヲ受クルモノノミニツキテノ生産ナルヲ以テ、本品ノ如キ家内工業ノ多數ヲ占ムルモノハ以テ直チニ本邦ニ於ケル玩具ノ總生産トハナシ難キ事情ニアリ、仍テ實際ハ之レ以上相當ノ額ヲ生産シ居ルモノニシテ恐ラクハ千萬圓ヲ超過スルモノト思考セラル。

今右工場統計ノ表示スル所ニヨリテ本品ノ過去十ケ年ニ遡リ其ノ消長ヲ檢スルニ、大正九年ハ各種玩具ヲ通シテ六百三十九萬圓ヲ示シ最高記錄ヲ示シタルモ、其翌十年ヨリハ生産著シク減退ヲ示シ三百七十二萬圓ニ下リ更ニ十一年ニハ最少記錄ノ三百三十一萬圓ヲ示シ、爾來幾分ツツ增額ヲ示シ恢復ノ步調ヲ辿リ最近昭和四年ニ至リテハ六百十萬圓ヲ算スルニ至レリ。

次ニ各種類別ニツキテ見ルニ金屬玩具ノ最モ生産ノ多額ヲ示シタルハ大正十年ノ百四十五萬六千圓ヲ最高記錄トシ、爾來逐年減退シ同十二年九萬四千圓ハ最少産額ヲ示シタルモノニシテ、最近昭和四年ニハ九十八萬五千圓ニ達シ、同三年ニ比シ十六萬圓ノ增加ヲ示シ頗ル好況ヲ示セリ、本品ノ主産地ハ東京府ヲ第一位トシ大阪之レニ次キ、其他埼玉、長野、愛知、京都各府縣ニ夫々若干ノ生産アリ。

陶磁器玩具ハ大正十年ヲ最高トシ三十三萬三千圓ヲ産シ翌十一年ハ著シキ減退ヲ示シ、僅カニ八萬五千圓ニシテ最少記錄ヲ示セリ、爾後幾分恢復シ、昭和元年ニハ十九萬六千圓ニ達シタルモ翌年ハ再ヒ九萬圓ニ激減スルニ至レリ、更ニ最近昭和四年ハ僅ニ八萬圓ヲ算スルノミトス、本品ハ愛知縣ヲ主タル産地トシ京都府福岡縣之ニ次キ、其他三重、佐賀、石川ノ各縣ニモ幾分ノ生産アリ。

護謨製玩具ハ大正十四年ノ三百四十三萬七千圓ヲ最高記錄トシ、爾來餘リ生産增加ヲ示サス、昭和四年ニハ二百三十一萬圓ニ達シタルモ本品ノ最盛時ヨリ百十萬圓ノ減退ナリ、本品ノ産地ハ主トシテ東京府トシ、大阪、兵庫、之レニ亞キ、其他石川、埼玉、新潟、千葉、茨城ノ順位トス。

セルロイド製玩具ハ大正九年ノ二百八十三萬五千圓ヲ最高記錄トシ、爾後著シク減退ヲ示シタルカ最近昭和四年ニ至リテハ二百二萬五千圓ヲ算シ幾分恢復ヲ示シタルモノトス、本品ハ從來東京府ヲ第一位トシ大阪府之レニ次ク、尙極メテ少量ハ德島縣ニ於テモ生産セラル。

木製玩具ハ餘リ生産增加ヲ示サス殊ニ大正十一年ハ最少額ノ産出ニシテ、僅ニ六萬二千圓ノ微々タルモノナリシモ、爾後幾分增産シ、昭和四年ニハ四十八萬九千圓ヲ示シ頗ル好況ヲ示セリ、本品ノ主産地ハ愛知縣ヲ初メトシ東京、富山、神奈川、茨城、廣島ノ各府縣トス。

紙製玩具ハ大正十年ハ僅ニ六萬四千圓ナリシモ同十二年ニハ最高記錄三十八萬六千圓ヲ産シタルモ、翌年再ヒ生産激減シ、其後逐次增額シ昭和元年ニハ三十二萬圓ヲ算シ好況ナリシモ、最近昭和四年ニハ再ヒ減退シ二十萬五千圓ヲ算スルノミトス、主ナル産地ハ愛知縣ヲ第一位トシ大阪、東京ノ二府之レニ次ク。

三、輸出概況

本邦輸出玩具カ大藏省貿易年表ニ現レシハ、明治二十九年ノ三十萬七千圓ヲ最初トシ、爾來三十八年ニ至ル迄ハ常ニ最高五六十萬圓ヲ往來シ居リシモ、同三十九年ハ百萬圓ヲ突破スルニ至レリ、爾後二三年間ハ多少ノ不振ヲ呈シタルモ同四十三年ニハ百四十九萬圓ヲ算シ、續イテ大正元年ニハ二百萬圓ヲ超ヘ同四年ニハ四百萬圓ヲ突破シ、其後逐年增進ノ步調ヲ辿リ、終ニ大正九年ニハ二千萬圓ノ最高記錄ヲ示スニ至リタリ、其後再ヒ一般財界ノ不振ト共ニ輸出額

減退ヲ示スニ至リタリシモ、最近昭和四年ニハ百三十八萬圓ノ輸出ヲ見幾分好況ニ向ヒツツアルモノノ如シ。

次ニ品種別輸出狀況ヲ査スルニ、最近ニ於ケル傾向ハ**セルロイド**玩具ヲ太宗トシ、常ニ約三十萬圓ノ輸出ヲ示シ、金屬玩具之レニ亞キ約十四萬圓ヲ算シ、**ゴム**製玩具モ稍々之ト同額ニ近キ輸出ヲ見、其他布帛製、木製、陶磁器玩具ノ順序トス、更ニ相手國別輸出狀況ヲ見ルニ各品種別ニヨリテ輸出方面ヲ多少異ニスト雖モ、大體ニ於テ輸出數量ノ多キハ北米合衆國トシ、常ニ總輸出額ノ三割以上ヲ占メ優勢ヲ示ス、歐洲ニ於テハ英吉利第一位ヲ占メ、米國ニ次キツツアリ、亞細亞方面ニ於テハ英領印度ヲ主ナル華客トシ、其他支那、蘭領印度ノ順序トス。

而シテ更ニ品別ニ之レヲ考察スルニ、**セルロイド**玩具ハ米國ヲ主タル販路トシ、常ニ四割近ク輸出ヲ見、英吉利、英領印度、南米方面亦有力ナル販路トス、**ゴム**製玩具ノ主ナル販路ハ英領印度ニシテ總輸出額ノ約三割ヲ占ム、大體ニ於テ**ゴム**製玩具ハ亞細亞方面ニ多ク輸出セラルル傾キアリ、之レ畢竟スルニ、本邦製**ゴム**玩具ハ歐米方面ノ製品ノ意匠採色ノ點ニ於テ稍々劣レル點多キニ歸スルナルヘシ。

次キニ最近著シク本邦玩具中改善セラレ輸出好況ヲ示シツツアルハ、金屬玩具ニシテ採色、構造、品質、着想等ノ點ヨリ殆ト獨逸品ニ遜色ナク、海外ニ於テ優ニ競爭シテ遜色ヲ見ス、殊ニ最近ハ**セルロイド**玩具ト結合セシメタル玩具ヲ考案シ、以テ相當大量ニ歐米ニ輸出セラレ、或ハ本邦品ノ考案ヲ反ツテ海外ニ於テ模倣スルカ如キ傾向ヲ示シツツアルハ、斯業ノ爲意ヲ强フスルニ足ルモノアリト謂フ可シ。

次ニ木製玩具ニ於テハ殆ント他ノ**セルロイド**、金屬玩具ニ壓倒セラレ、著シキ進步發展ノ跡ヲ認メス、從テ特ニ記述スル程ノ事モナク唯僅カニ我輸出玩具ノ一部分ヲ占ムルニ止マルノミ。

其他布帛製玩具ノ如キ日本人獨特ノ手工業ニヨル纖細ナル玩具ハ相當ニ海外ニ需要ヲ喚起シツツアリ、更ニ港別輸出狀況ヲ見ルニ各種玩具ヲ通シテ共ニ横濱港ヲ第一位トシ、總輸出額ノ常ニ五割强ヲ占メ神戸港約三割、大阪港ハ僅ニ一割弱ノ輸出ニ止マレリ、尙詳細ニ亘リテハ各論ニ於テ述ヘントス。

四、輸入概況

本品ノ輸入概況ヲ見ルニ大藏省統計表ニハ明治三十三年七萬八千圓ノ輸入ヲ見タルヲ最初トスト雖、恐ラク其レ以前ニ若干ノ輸入アリシモノト推知セラル、爾後兩三年間ハ常ニ約四十萬圓程度ノ輸入ヲ見タルモ明治三十七年日露戰爭開始セラレシ時ニハ約半減ヲ見タリ、更ニ同三十八年以降ハ漸次輸入增加シ、同四十年ニハ終ニ十萬圓ヲ突破シ、同四十三年ニハ最高記錄ヲ示スニ至リ、爾來我國化學工業ノ進步ニ伴ヒ**セルロイド**玩具ノ隆盛トナリ從ツテ輸入玩具ニ影響ヲ與ヘ、大正三年ニハ僅ニ三萬八千圓ノ輸入ヲ見ルニ止マリ、爾後大藏省貿易統計表ヨリモ削除セラルルニ至リ詳細ヲ知ルニ難キモ、未タ各大都市ニ於ケル店頭ニ若干ノ輸入玩具ノ陳列販賣セラルルヲ見ルヲ以テ、高級特種玩具ニ於テハ未タ若干ノ輸入ヲ爲シ居ルモノト推察セラル。

五、輸出玩具ノ種類及時季

輸出玩具ノ種類ハ別項ニ揭クル如ク、**セルロイド**玩具第一位ヲ占メ金屬玩具之レニ次キ、護謨製、陶磁器製、木製、紙製ノ順位トス、而シテ各品種中ニモ幾多ノ種類ノ相違アリ例ヘハ**セルロイド**玩具中ニモ人形又ハ動物其他ノ玩具ニ分レ金屬玩具ニ於テモ**センマイ**仕掛ノモノ、又然ラサルモノ、又ハ**セルロイド**玩具ト結合セルモノ等トニ分レ、其他護謨製又ハ陶磁器製、布帛製、木製、紙製等ニ於テモ亦種々雜多ニ區別セラル、而シテ**セルロイド**製玩具トシテハ、何レ

ノ方面ニモ人形ハ賣行良好ニシテ本品ノ大部分ヲ占ムル所トシ、金屬製玩具ニ於テハゼンマイ仕掛ケノモノ多ク最近ニ於テハゼンマイ仕掛ケニ更ラニセルロイド人形ヲ結合セルモノ需要多シ、ゴム製玩具又人形ニ於テハ毬、風船ノ如キ需要多ク動物モ之ニ次キ賣行良シ、陶磁器玩具ニ於テハ眠人形最モ賣行アリ、其他綿布帛製ニ於テハ雛類ノ需用多ク、木製玩具ニ於テハ木馬、自動車等賣行良好トス。

玩具ハ例年六月ヲ以テ輸出旺盛ノ時季トシ、其ノ前後ノ月ハ最モ多忙ヲ極ムルヲ普通トス。

更ラニ輸出セラルル地方ニヨリテ多少ノ相違アルハ勿論、需要セラルル時季ニ從ツテモ亦多少ノ相違アルモノナルモ、北米合衆國ノ如キハ大略左記ノ如シ。

時季	種類
華盛頓誕生祭(二月二十二日)	紙、斧、槌、櫻木、紙製玩具
ヴアレンタイ(二月十四日)	假面、文房具、
セント・パトリツク(三月十七日)	愛蘭旗、**シヤムロツク**、青色帽子、蛇、花、**パイプ**、
イースター祭(三月三十一日)	雛ノ類、兎、家鴨、張**ボテ**、振廻鳥、
獨立祭(七月四日)	米國旗、呼子、帽子、
ハロイン祭(十一月一日)	黑猫、化瓜、南瓜提灯、小田提灯、凡テ樺色ノモノ
サンクスギービング(十一月最終ノ木曜日)	七面鳥、
クリスマスイブ(十二月二十四日)	**サンタークロース**、**ストツキング**、
ニウーイヤイブ(十二月三十一日)	紙帽、角笛、鳴子、

尚比律賓**マニラ**ニ於ケル**カーニバル**祭ニハ本邦紙製玩具ノ中、紙製ノ**ダンス**用帽子又ハ假裝用ノ紙製ノ品ヲ多ク需用セラル。

六、取引事情ノ概況

本品ノ主タル取引關係業者ハ製造業者、問屋、輸出業者ニシテ多クハ手工業品タル關係上、其ノ製造業者約何人トハ一概ニ斷言シ難シト雖モ東京、京都、大阪、兵庫、靜岡ノ各府縣ニツキ調査セシ處ニヨレハ約四百名問屋約四十軒ヲ算ス。

本品ハ極メテ小サキ家内工業ノモノ大部分ヲ占メ居ルカ故ニ、各種玩具製造家ハ金融上ニ餘裕ナキヲ通例トシ、多クハ經濟上問屋筋ヨリ資金ノ流通ヲ受ク從ツテ問屋ノ專屬工場ノ如キ觀ヲ呈スルモノ多數ヲ算ス、僅ニ二三ノ**セルロイド**玩具製造會社ニ於テハ獨立資本ノ下ニ經營製造セルモノアリト雖モ極メテ僅少ニ止ル。

前述セル如ク輸出港ハ横濱ヲ第一位トシ居ルコトハ生產地ト地理的ニ接近シ居ルカ爲メニシテ、即チ東京ヲ背景トシテ横濱港ノ輸出額ノ多額ナルニ起因シ、加之輸出業モ亦横濱ヲ第一トシ神戶、大阪、之レニ次ク、又前述ノ如ク獨立ニテ經營スル斯業者ハ極メテ微々タルモノナレハ問屋ノ海外ニ直輸スルモノアリト雖モ、元來本品ノ如キ雜貨ハ外國商館ヲ看過スルコトヲ得ス、一般雜貨取扱ノ貿易商館ニ於テ取扱フヲ便トス、之レ一面ニ於テ金融上ノ便取引上ノ不安ヲ招カサル商策ニヨルモノト認メラル、然レトモ他面本邦在留(大阪川口)支那商ヲ通シ支那、印度、南洋方面ニ輸出セラルルモノ多額ヲ占ムルハ、主トシテ多年是等地方ニ於ケル商權ヲ把握セル支那人ノ力ヲ借ラスンハ到底能ハサル根強キ地盤ヲ彼支那人カ占有シ居ルニ因ルモノトシ、盛ンニ我問屋ニ於テハ是等支那人ヲ利用シツツアルモノト知ル。

其取引條件及商慣習ハ關係筋合ト種類トカ廣汎ナルヲ以テ種々ナル差別ヲ生スルモ、概シテ注文生産多ク從ツテ本品ノ**ストツク**モナキ次第ナリ、取引單位ハ個、打、哥、組、等アリ標準物ハ無キモ**セルロイドノ**如キハ檢査規定ノ設置アリ。

支那人トノ取引ハ在留支那人（大阪川口）カ我問屋ニテ現品ニヨリテ口頭ヲ以テ豫約スル場合多シ、又内地商人ノ見本ヲ持參シ支那ニ渡航シテ豫約シ、後川口ノ客棧ニテ契約ヲ取交スコトトス、其他本邦内地商ト需要地ニ於ケル輸入商トノ一般取引ハ電報又ハ手紙ヲ以テス、注文書ニハ注文數量價格發送日、支拂期限方法其他取引ニ必要ナル諸條件ヲ記入スルコトトス、概シテ對外方面ハ信用狀ヲ要求シ然ラサル時ハ短期ノ荷爲替ヲ組ム場合多シ、玩具輸出本邦商館ハ大低相手先ト代理店關係ヲ結ヒ居ルコト多ク、輸出業者ノ口錢又ハ利益ハ三分乃至五分ヲ普通トス。問屋並輸出業者カ取引セル場合對外關係ニ於テハ、本邦人ハ本邦系銀行在留外國商館ハ外國系銀行ト取引ヲナス。

七、海外競爭狀況

本邦輸出玩具カ近時各地ニ於テ相當ニ活躍シ居ルハ、全ク歐洲大戰勃發ニ起因スルモノニシテ、夫レ以前歐米ニ活躍セル獨逸製玩具カ全ク其ノ供給ヲ杜絶スルニ至リタルニ乘シ、我玩具カ其ノ販路ヲ擴張スルニ至リタルモノニシテ、斯ル好機會ニ際會セル我玩具工業ハ此ノ際著シキ進歩發展ヲ見ルニ至リ、各製造諸工場ハ何レモ増資又ハ職工ノ増員設備ノ改善擴張ニヨリ著シク進展ヲ見ルニ至リシナリ、斯クモ急激ニ進展シタル本邦品ハ諸外國至ル所ニ各國品特ニ獨逸品ヲ驅馳シ盡シ、一般諸外國ニ脅威ヲ與ヘタルカ、一面斯ル好況ハ我輸出玩具ノ粗製濫造ヲ釀成スルニ至リ、其ノ結果折角獲得シタル海外市場ニ於テ本邦輸出玩具ノ名聲ヲ尠カラス傷ケタリ、斯クテ歐洲大戰終熄スルヤ忽チ本邦輸出玩具ハ海外各地ニ於テ戰後急激ニ恢復シタル獨逸玩具ノ激烈ナル競爭ニ遭ヒ、加之新興致須國ノ如キ侮リ難キ競爭ヲ見ルニ至リ、此等諸國ノ爲ニ漸次海外販路ヲ蠶食セラレ次第ニ窮地陷ルニ至レリ、今各主要國ニ於ケル玩具ノ輸入狀況ヲ通覽シ本邦品トノ競爭狀況ヲ概說スヘシ。

一、支　那

最近三ケ年間ニ於ケル支那輸入玩具ハ一九二八年ニ於テハ本邦ヨリノ輸入ハ總輸入額ノ四十八**パーセント**六十一萬五千海關兩ニシテ、之レニ次イテ米國ノ二十六萬二千海關兩英國ノ二十三萬七千海關兩獨逸ノ二十萬六千海關兩ヲ最モ主タルモノトシ、之レニ依リ考フルニ同年度ニ於テハ日本ハ斷然他ヲ拔キ米國、英國、獨逸ノ順位トス、一九二七年ニ於テハ日本ハ總輸入額ノ五十一**パーセント**五十七萬六千海關兩ニシテ英國ノ十五萬三千海關兩ヲ第二位トシ、米國ノ十三萬三千海關兩獨逸ノ十二萬二千海關兩ノ順位トシ、一九二六年ニ於テハ日本ハ總輸入額ノ四十二**パーセント**六十九萬二千海關兩ヲ占メ米國ノ二十二萬二千海關兩獨逸ノ二十萬四千海關兩英國ノ十九萬九千海關兩ヲ示ス。由是觀此、支那市場ニ於テハ本邦玩具ト競爭ノ立場ニアルハ常ニ之等米、英、獨ノ三國ト認ムルコトヲ得可ク、而シテ獨逸ハ常ニ米國ノ爲メニ壓迫ヲ蒙リ、而モ英國ノ次位ニアルヲ看取スルコトヲ得ヘシ。

二、印　度

印度ニ於ケル本品ノ輸入ハ歐洲大戰以前ニ於テハ年々三百萬留比ヲ算シ當時ノ輸出國トシテハ英國最モ多ク全輸入高ノ約四割ヲ占メ、次テ獨逸二割五分本邦並墺國一割内外ナリシカ戰時中獨逸品、墺國品ノ輸入杜絶シ本邦品英國品大部

分ヲ占メタルモ戰爭終結ト共ニ獨逸品ノ復活著シク一九二三年度ニハ本邦ヨリノ輸入高八十九萬留比ニ對シ、獨逸ヨリハ二百六十萬留比ヲ算シタリ、之レカ原因ニ就キテハ戰前獨逸ハ印度市場ニ確實ナル地盤ヲ保有シ其ノ製品ノ如キモ一頭地ヲ拔クモノアリシカハ、戰後其復活ト共ニ需要翕然トシテ獨逸品ニ趨キシモノナリ、然ルニ其ノ後獨逸玩具カ粗製濫造ニ傾キタルカ爲メ獨逸品ニ對スル聲價曩日ノ如クナラスシテ、漸次本邦品英國品ノ擡頭ヲ見ルニ至レリ、即チ一九二八年四月ヨリ一九二九年三月ニ至ル間ニ於テハ輸入總高六百六十七萬留比ニシテ、內獨逸ハ百六十七萬二千留比、英國ハ百六十四萬留比、日本ハ百六十四萬七千留比ニシテ大差ナク米國ハ百四十萬八千留比ノ順位ヲ示セリ。

三、蘭領印度

蘭領印度ニ輸入セラルル玩具ノ供給國ハ本邦ヲ第一位トシ獨逸第二位トス、之ニ次テ和蘭、米國、英國ノ順序トス。

一九二六年頃ニ於テハ獨逸玩具ハ第一位ニシテ本邦品ハ第二位ニアリシモ爾來本邦製玩具ノ價額ノ低廉ナルト多數住民ノ嗜好ニ適應セルトニ因リテ逐年獨逸品ヲ壓迫シ、終ニ一九二八年ニハ玩具總輸入高百三十一萬六千盾中日本品ハ五十九萬三千盾即約四割五歩ヲ占メ、獨逸品ハ五十一萬六千盾約三割九分ヲ占ムルニ止マル。更ニ一九二九年玩具總輸入額ハ百四十七萬八千盾ニシテ、中日本品ハ前年ヨリ二十二萬盾ノ增加ヲ示シ、八十一萬六千盾(五割五分)、獨逸ハ四十七萬八千盾(三割二分)、和蘭ハ七萬四千盾(約五分)ニシテ、依然トシテ日本ハ優勢ノ地歩ヲ占メ居レリ。

四、米國

米國ハ一ケ年四百五十萬弗前後ノ玩具輸入ヲ見、而モ歐洲大戰後數年間ハ漸減ノ傾向ヲ示シツツアリシカ、最近兩三年ハ再ヒ逐年增加ノ傾向ヲ示シ居レリ。

而シテ一九二八年ニ於ケル米國ヘノ國別輸入表ヲ見ルニ一九二八年ノ總輸入額四百二十五萬八千弗中獨逸ハ斷然他ノ諸外國ヲ凌駕シ、三百十五萬弗ニシテ日本ハ之ニ次キ四十萬弗ヲ占メ第二位ニ在リ、一九二九年中ニ於テハ米國玩具輸入額ハ五百十二萬九千弗ニシテ內獨逸ハ依然トシテ諸國ヲ壓倒シ、二百四十萬六千弗即四割六分ヲ占メ第一位ニアリ、本邦玩具ハ第二位ニシテ百三十二萬一千弗約二割三分ヲ占ム、更ニ一九三〇年(十月迄)ノ玩具總輸入ハ三百九十一萬七千弗ヲ示ス、何レニシテモ米國ヘノ玩具輸入競爭國トシテ獨逸ハ極メテ優勢ノ地歩ヲ占メ居ルコトヲ推知スルニ難カラス、其他本邦品ニ次テハ英國品。佛國品又第三位ノ地位ヲ爭ヒ居ルモノノ如シ。

五、亞爾然丁

南米亞爾然丁ニハ年々邦貨ニシテ約三百萬圓ノ玩具輸入ヲ見、而モ年々輸入額ノ增加ノ傾向ヲ示シ居レリ、一九二七年ニ於テハ二百四十九萬六千金**ペソ**(邦貨約五百十四萬圓)ノ內獨逸ハ七割强卽チ百七十六萬七千金**ペソ**(約三百六十四萬一千圓)、北米合衆國二十四萬九千金**ペソ**(約五十一萬三千圓)約一割之ニ次キ日本ハ十七萬七千金**ペソ**約三萬六千圓(約六分)、英吉利ハ幾分下リテ十二萬金**ペソ**約二萬四千圓(約五分)ヲ占ムルニ止マル、而モ獨逸ハ嶄然他ヲ凌駕シ每年ノ輸入額ノ約半額以上ヲ占メ頗ル優勢ヲ示シ居レリ。

六、濠洲

濠洲ハ歐洲大戰前本邦玩具ノ輸入ハ約七萬圓ニ過キサリシモ戰時中ヨリ著シキ增大ヲ示シ一九一八年ハ最高記錄ヲ示シ百八十五萬圓ニ上リタルモ、次年度ヨリ著シク減退ヲ示シ一九一九年ニハ六十四萬圓ニ減スル至リ、爾來年々本邦品ノ輸入ハ漸減スルニ至リ一九二一年ニハ僅ニ三十五萬圓ニ下リ、最近一九二九年ニハ幾分恢復シ四十八萬九千圓ヲ算シタルモ、一九三〇年ハ幾分不振ニシテ五萬九千圓ノ減退ヲ來タシ四十二萬九千圓ヲ示ス、而シテ濠洲ヘノ本邦玩具ノ輸入減退ハ主トシテ競爭各國品ノ侵入ニ因ルモノニシテ、最近英國品ノ同國ヘノ輸入ハ逐年增加ノ傾向ヲ示セリ、勿論獨逸品ノ優勢ハ言ヲ俟タストス、但シ戰後一時非常ノ勢ヲ以テ活躍進展セル獨逸品ハ最近ニ於テハ幾分ノ衰勢ヲ現ハセリ、米國製玩具ハ一進一退ヲ示シ著シキ發展ヲ見ス、之ヲ要スルニ獨逸玩具ハ常ニ總輸入額ノ四割强ヲ占メ第一位ニアリ英本國三割强ヲ占メ日本ハ一割五分見當、北米合衆國八分ノ比率トス、其他佛國、致須國アルモ何レモ振ハス。

七、結論

惟フニ本邦玩具ハ歐洲大戰ノ勃發ト共ニ從來世界各地ニ於テ商權ヲ把握シ居リタル獨逸ノ販路ヲ遺憾ナク浸蝕シ、近クハ支那、蘭領印度、英領印度ノ亞細亞各地ニ我商權ヲ扶殖シ擴張シ、遠クハ歐羅巴、南北亞米利加、濠洲ノ各方面ニ迄非常ナル進展ヲ極メタルモノモノアリシモ、其ノ反面ニ於テハ所謂粗製濫造ニ陷リ、世界各地ニ於テ聲望ヲ失墜シタルカノ如キ憾ミ尠シトセス。

斯クテ歐洲大戰ノ終熄ヲ告クルヤ戰後ノ獨逸ハ經濟界ノ回復ニ急速ノ速度ヲ以テ挽回策ヲ講シ、著々トシテ各商品ノ戰時中奪取セラレシ販路回復ニ努メタレハ、本邦品ハ海外至ル所ニ於テ獨逸品ト猛烈ナル競爭ヲ開始スルニ至リ、海外各市場ニ於テ常ニ本邦品ハ獨逸品ノ壓迫ヲ蒙ルニ至レリ、即本邦品ハ印度市場ニ於テハ英、獨兩國ノ壓迫ヲ蒙リ第三位ノ地位ニ置カレ北米合衆國ニ於テモ亦獨逸品ノ下位ニ立チ、濠洲ニ於テハ獨、英ノ壓迫ヲ受ケ僅ニ支那、蘭領印度ノ方面ニ於テノミ優勢ヲ持シ居ル有樣ナリ。

前述セル如ク歐洲大戰中及其後ハ本邦輸出玩具ハ極メテ粗製品多ク、海外各市場ニ於テ聲價ヲ失墜シ牽ヒテハ輸出減退ヲ招致スルニ至リタレハ、遂ニ當業者間ニ檢查制度ノ必要ヲ認メ曩ニハ昭和二年**セルロイド**玩具工業組合設立セラレ、最近昭和六年ニハ大阪**ゴム**工業組合可設立セラレ共ニ製品ノ檢査ヲ勵行シ、粗製濫造ヲ防止スルニ勉ムルト雖モ、未タ金屬製、木製等ノ如キニハ何等協同組織ニヨル檢査組合ノ如キ組織無キヲ以テ、往々ニシテ本邦品ノ聲望ヲ失墜スヘキ粗製品ノ輸出ヲ見ルヲ免レサルモノニシテ、斯カル機關ハ極メテ必要ノモノト認メラルル次第ナレハ我當業者ノ一考ヲ要トス。

玩具工業ハ他ノ諸工業ニ比シ頗ル不統一ノ工業品タルヲ以テ、其ノ生產設備ニ於テ今後幾多ノ改善ヲ必要トス可キ鈌點多カラン、之等缺點ニ關シテハ充分研究シ以テ改善ヲ希望スル次第ナリ。

又原料ノ精選、供給、色彩ノ配合、器具機械即チ設計ノ改良ニヨリテ能率ノ增進等凡テ合理的ニ研究シ、科學的ニ經濟的ニ生產技術ノ研究ヲ怠ラス小工場、小資本家ハ專ラ冗費ヲ削除シ、以テ同業者相呼應連絡シ生產能率ノ增加ヲ期ス可ク又販賣組織ノ改善當業者間ニ於ケル自殺的價格ノ競爭、粗製濫造ノ防止取引上ノ缺陷ノ改善ニ努メ、製造業者輸出業者間ニ於テ互ニ海外事情ヲ調査研究シ以テ品質ノ向上價格ノ低廉ヲ講シ、今後ニ於ケル商權ノ維持進展ニ充分

ノ對策ヲ講スルヲ緊要事トス。

第二章　生産及輸出入狀況

第一節　品種別生産狀況

（一）セルロイド玩具

（イ）セルロイドノ起原

セルロイドハ一八六九年（明治二年）米國**ニュー、ジャーシー**州ノ印刷業者**ジョン、ウエスレー、ハイアツト**氏（J. W. Hyatt）兄弟カ撞球戯用ノ毬ノ代用品トシテ發明セラレ製造所トシテ米國紐育市附近ノ**ニューワーク**（Newark）ニ米國**セルロイド**製造工場（The American Cilluloid Mfg. Co.）ヲ設立シタルヲ斯業ノ濫觴トス。

（ロ）セルロイド生地生産狀況

セルロイド生地ハ相當ニ舊キ歴史ヲ有シ、而モ海外ニモ明治三十五、六年頃ヨリ開始セラレタルモ統計ノ示ス處ニヨレハ、明治四十四年ニ於テハ日本**セルロイド**會社ノミニテ生産僅ニ三十萬八千餘斤ヲ産シタルカ、翌大正元年ハ同社ノ生産高ハ五十二萬八千餘斤ニ上リ更ニ堺**セルロイド**會社ノ生地二十三萬八千餘斤ノ産出ヲ見合計七十六萬六千餘斤ヲ産セリ、爾來大正三年迄ノ間ハ右兩社ノ生地合計七、八十萬圓ノ生産ナリシカ、大正五年ニハ加工業者ノ需要漸增シ

早クモ百六十八萬六千餘斤ヲ産スルニ至レリ、斯クシテ大正七年ニハ三百萬斤臺ニ上リ、終ニ同八年ニハ前記兩會社ノ合併ヲ見ルニ至リ、大正十年頃ニハ當時一般財界大變動ニ伴レ其ノ生産ヲ半減シ僅カニ百五十萬斤臺ナリシモ、爾後一般ノ景氣回復ト共ニ生地ノ需要ハ漸次生産增加シ、同十四年ニ至リテハ大日本**セルロイド**會社以外ニ小規模ノ生地工場ノ製品出現シ各社合計六百八十三萬餘斤ヲ算スルニ至リタリ、翌昭和元年ハ一般加工業不振ノ爲メ僅ニ五百九十五萬斤ノ生産ナリシカ、爾來生産增加シ最近昭和三年ニハ八百三十三萬六千餘斤ノ最高記錄ヲ算シ、前年ノ六百五十三萬八千斤ニ比シ二割七分四厘ノ增加ヲ示シタリ。

本邦産**セルロイド**生地生産高　（專賣局調査ニ據ル）

年次	日本**セルロイド**會社	堺**セルロイド**會社	其他			合計
			大阪	東京	計	
明治四十四年	三〇八、五三三斤	—斤	—斤	—斤	—斤	三〇八、五三三斤
大正元年	五二八、一三八	二三八、六六〇	—	—	—	七六六、七九八
同二年	四六六、六〇三	三四三、五四七	—	—	—	八一〇、一五〇
同三年	四三二、四六二	三六四、一五六	—	—	—	七九六、六一八
同四年	—	八七七、二一三	—	—	—	八七七、二一三
同五年	—	一、六八六、〇五二	—	—	—	一、六八六、〇五二
同六年	四七八、〇四三	一、一九〇、五七三	—	—	—	一、六六八、六一六

	大日本セルロイド會社					
同　七　年	一、〇五五、三二四	二、一六一、五五四	—	—	—	三、二一六、八七八
同　八　年	—	三、三四五、三四〇	—	—	—	三、三四五、三四〇
同　九　年	—	二、三四〇、〇二九	—	—	—	—
同　十　年	—	一、五九一、九二八	—	—	—	—
同　十一年	—	二、四二九、七九一	—	—	—	—
同　十二年	—	三、七九四、九六七	—	—	—	—
同　十三年	—	四、五七四、九一〇	—	—	—	—
同　十四年	—	四、六四八、八六〇	一、二〇三、二五一	九八六、一二五	二、一八九、三七六	六、八三八、二三六
昭和元年	—	三、七七〇、三一七	一、一九五、八六五	九九〇、六九一	二、一八六、六五五	五、九五六、八七三
同　二　年	—	三、九四五、二三三	一、三七三、〇二〇	一、二三〇、四九七	二、五九三、五一七	六、五三八、七五〇
同　三　年	—	五、二三四、六四五	一、五二四、五八八	一、五七七、五九二	三、一〇二、一二八	八、三三六、八二五

各社ノ樟腦使用量ヨリ其生産高ヲ調査セシモノニシテ倘年度ハ會計年度ニ據ル。

東京府ニ於ケル生地生産狀況

東京府下ニ於ケル新製生地ノ製造業ハ大日本セルロイド株式會社志村工場、藤安藤五郎（東京セルロイド加工所）大成セルロイド株式會社、東京セルロイド株式會社、永峰セルロイド株式會社、ローヤル、セルロイド株式會社、東亞セルロイド株式會社等ヲ主タルモノトシ、昭和三年ニ於テ合計八百七十九萬封度、千九十九萬二千圓ヲ算ス。（組合ノ調査ニヨル）

大阪府下ニ於ケル生産狀況

大阪府下ニ於ケル新製生地ノ製造業者ハ左記九名トス、總生産高八百三十四萬斤（昭和三年）ニシテ、内大日本セルロイド株式會社大部分ヲ占ム、他方再製生地ノ生産高ハ大阪府下約九十五萬九千斤（昭和三年）ヲ産シ、逐年使用範圍ハ擴大セラレツツアリ、今主ナル生産業者ヲ擧クレハ左ノ如シ。

大阪方面新製生地生産會社

大日本セルロイド株式會社	大阪府堺市七道西町三〇
サンセルロイド株式會社	同　同向陽町二二四
國際セルロイド株式會社	同　豊能郡庄内村大字菰江三三二
小山セルロイド株式會社	大阪市住吉區南加賀屋町四三二
大阪セルロイド加工株式會社	同　東成區大今里町五八三
筒中セルロイド株式會社	同　同　鶴橋北之町一ノ三四〇
瀧川セルロイド工業所	同　同　片江町二八
西田セルロイド工業所	同　同　同　四一ノ三
中谷セルロイド工業所	同　同　大今里町五五九

大阪方面ニ於ケル再製生地製造業者ハ大阪**セルロイド**同業組合ノ調査ニ據レハ大阪府下ニ於テ二十四名ニシテ之レヲ地方別ニ見ルトキハ東成區最モ多ク十九名、住吉區、中河内郡各二名、西成區一名トス、然レトモ右ノ外ニ新製生地ノ製造業者ニシテ再製ヲ行ヘルモノアリ。

再製生地ノ右二十四工場ノ職工數ハ男女工合計約百十名ナリト當業者ハ推算シ居レリ、大阪製**セルロイド**生地ハ總生産額ノ約九割五分ハ内地ニ販賣消費セラレ、他ノ五分内外主トシテ支那、關東州、英領印度、露領亞細亞ニ輸出サレツツアリ。

東京方面ニ於ケル新製生地ノ製造業者

大日本**セルロイド**株式會社志村工場	東京府下志村
東京**セルロイド**株式會社	同　府下寺島町
大成**セルロイド**株式會社	同　府下南葛飾郡奥土村上平井
永峰**セルロイド**株式會社	同　府下龜戸町一丁目百二十三番
ローヤルセルロイド株式會社	日本橋區馬喰町三丁目十三番

再製生地工場トシテハ左ノ如シ。

東亞**セルロイド**株式會社	北豊島郡日暮里町谷中本一四〇

(神奈川縣鶴見工場)

尚參考トシテ**セルロイド**生地輸入額ヲ表示セハ左ノ如シ。

セルロイド生地輸入額

年次	數量	價額
明治二十九年	七四、〇六七斤	一三四、五五三圓
同　三十年	九一、一八〇	一七四、五五四
同　三十一年	二一五、二八六	四〇六、六七三
同　三十二年	一三二、〇一三	二四四、二六三
同　三十三年	二四一、六〇七	四四二、〇五〇
同　三十四年	二〇三、〇八三	三八三、五一七
同　三十五年	一五三、三一四	二七五、九三七
同　三十六年	一八九、五五八	二三九、五〇〇
同　三十七年	一四八、六〇七	二三二、六四四
同　三十八年	二九八、六八八	五二四、七五一
同　三十九年	五〇六、三四二	八四七、九〇五
同　四十年	一九九、七四五	三三六、四八三
同　四十一年	四四五、八九四	七五〇、九五二
同　四十二年	四〇一、五〇五	六二二、七三二

同　四十三年	四七五、五三七	六五三、三六一
同　四十四年	五〇二、三五七	六七四、七四六
大正　元　年	三七五、五四〇	四九二、八七六
同　二　年	一五九、六七七	二〇〇、六六六
同　三　年	二九、五二三	二二、九三三
同　四　年	八、六九八	九、七九九
同　五　年	一九二	二七九
同　六　年	五三	六〇
同　七　年	七〇	八四
同　八　年	六〇	九八

備考　以下大日本貿易年表ニ掲示セラレサルヲ以テ明示シ難シ。

（ハ）本邦ニ於ケルセルロイド玩具ノ沿革

本品ノ沿革ハ二方面ヨリ觀察スルコトヲ得、即チ一、東京方面、二、大阪方面ノ二樣トス。

東京方面ニ於ケル端緒ハ明治二十七年東京永峰清次郎氏ニヨリ、初メテ輸入玩具ノセルイド吹上玉ヲ見テ種々苦心研究ノ結果漸ク出來上リシモ、最初ハ未タ眞鍮型ヲ用ヒス製出セルモノナリシカ後改良シテ此ノ型ヲ使用シ能率ヲ增加スルニ至リタリ、同氏ニ次イテ奥田立實氏獨逸製ノ護謨玉ト稱スルセルロイド茨班生地ノ玉ヲ入手シ、之レカ製造ヲ企テ約二ヶ月ヲ經テ獨逸品ニ比シ遜色ナキ精巧品ヲ造リ出スヲ得タリ、之レヲハミ玉ト稱シテ市販スルニ至リタリ、爾來兩者ノ製品ハ年ト共ニ需要增加シ、明治三十一年ハ支那ヘ、三十五年ニハ南洋ヘノ輸出ノ途開カルルニ至レリ、後三十六年頃ニハ兩氏共ニ各別ニセルロイドノ彩色法ヲ會得シ、次テ永蜂氏ハ四十四年ニ蒸氣加工ノ端ヲ開クニ至リ本品ノ技術、販路共ニ新生面開拓セラルルニ至レリ、然レトモ比較的製造業隆盛ニ赴カス二十年間ニ製造戸數僅カニ數戸ヲ算スルノミナリキ。

然ルニ大正三年寺本圭助氏歐洲遊學中セルロイド玩具工業ノ發達ヲ踏査シ歸朝スルヤ、東京府下亀戸ニローヤル商會加工場ヲ設立シ、專ラ玩具雜貨ノ製造ヲ開始シ、最初ハ二、三吋位ノ起上リ、ガラ類ヲ作リ、續イテ動物、軍人、玉乘等續々製造スルニ至リ海外ニ輸出スルニ至レリ。

之レヨリ後數ケ月ニシテ淺草ノ千種稔氏ハ東京府下四ツ木ニ一大セルロイド工場ヲ設立シ新製生地及玩具、雜貨、小間物ノ加工ヲ初メ殊ニ玩具ニ全力ヲ注キタリ、爾來各所ニ新設工場相踵イテ設立セラルルニ至レリ。

大阪方面ニ於ケル發端ハ明治四十四年小山定號氏カ舊天王寺村阿倍野ニ工場ヲ新設シ、セルロイド櫛、パイプ、其他ノ製品ノ製造ヲ開始シタルヲ初メトス、當時ハ是等製品ハ殆ント支那、印度、南洋ニ輸出セラレシモノニシテ、種類ハ三吋ヨリ八吋マテノ鳥、獸、小兒等ニシテ、殊ニ女兒最モ多カリキ而シテ其ノ製造法ハ極メテ幼稚ナルモノニシテ型ノ如キモ專ラ片面ツツ造ル半面型押法ニヨリ一個ノ玩具ヲ製スルニハ兩面組合セタルモノナリキ、從ツテ生産能率極メテ微々タルモノナリシカハ價格モ頗ル高價ナリシト謂フ。

然シ乍ラ木製、金屬製ニ比シ色彩ノ美麗ナルト重量ノ輕キ爲メ一般ニ嗜好セラレ相當ノ賣行ヨク、大正二年ニ至リ蒸氣吹込法採用セラレタリ、一面製造家モ漸次增加ヲ示シ大阪ニハ前記小山ノ外冬木セルロイド工業所、前田セルロイ

ド工業所、堺市ニハ東洋セルロイド工業所等相踵イテ設立セラレ又筒井利七、中川健介ノ兩氏ハ筒中セルロイド加工所ヲ設立シタリ、斯クテ大阪ノ斯業ハ漸次發達ノ氣運ニ赴キタリ。

（二）セルロイド玩具生産地帯及生産狀況

セルロイド加工業ハ主トシテ東京及大阪ニ在リ其ノ盛時ニアリテハ名古屋、横濱ニ於テモ之レニ從事スルモノ多カリシモ、歐洲大戰終熄後一般財界ノ不況以來一二ヲ除ク外ハ大部分他ニ轉業スルニ至レリ、現今ハ殆ント東京ト大阪ニ限ラレ其他徳島縣ニ僅ニ生産アルノミ、東京方面ニ於テハ戰時好況時ハ從業者激增シ、一時一千餘名ヲ算シタルモ不況以來休業廢業スルモノ續出シ、殊ニ副業的小企業者ニアリテハ殆ント其跡ヲ絕ツニ至レリ、大正七年同業組合員四三四、同八年六〇四、同九年七一八名ニシテ實際製造ニ從事スルモノ玩具ニ於テハ盛時三〇〇名ト稱セラレタルモ、爾後幾多ノ消長アリシカ最近ニ至リテハ東京セルロイド同業組合（大正五年一月設立認可）ハ昭和五年三五四名ノ組合員ヲ有シ、專ラセルロイド生地製造、同販賣、同再製原料賣買、同製品販賣、同仲介、同製作加工ノ各營業者ヲ以テ組織セラレ、組合地區東京市、荏原外四郡內製造額又ハ販賣額ハ六百七十六萬圓ニ達シ、一方大阪セルロイド同業組合ハ三八二名ノ組合員ヲ擁シ大阪府一圓ヲ組合地區トシ年製造販賣額一千二百九十九萬圓ニ及フ。

昭和四年ニ於ケルセルロイド玩具ノ地方別生産額ヲ示セハ左ノ如シ。

東京府	一、八九三、六五〇圓
大阪府	一二五、〇〇〇
徳島縣	六、九六四
合計	二、〇二五、六一四

前記徳島縣ノ生産ハ海部郡三岐田町戎谷利平（一名丈ケ）トス。

生産品ハ主ニ四吋以下ノ玩具ニシテ之ハ檢査ヲ要セサル關係上實際數量ハ正確ヲ期シ難シト雖大體ニ於テハ平均一ケ月一萬五千打、價格七百五十圓位ヨリ一千二百圓位マテノ生産アルモノトス。

今累年ニ於ケル本品ノ生産額ヲ擧クレハ左ノ如シ。

（工場統計表ニ據ル）

年次	産額
大正九年	二、八三五、七五五圓
同十年	四四五、六九七
同十一年	七一四、二一〇
同十二年	四五五、八八一
同十三年	一、二〇七、七〇四
同十四年	九八七、六四五
昭和元年	一、九七一、八六二
同二年	一、五三九、三三五
同三年	一、七二四、四〇四
同四年	二、〇二五、六一四

セルロイド玩具最近五ヶ年府縣別生産額（單位圓）

（工場統計表ニ據ル）

地方別	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年
東京府	一、八九三、六五〇	一、四八六、一三五	一、三三三、三三五	一、六六八、三六二	六〇二、八四五
神奈川縣	—	九、八〇〇	—	—	—
京都府	—	—	—	三、五〇〇	—
愛知縣	—	—	—	—	四、八〇〇
大阪府	一三五、〇〇〇	二二〇、四六九	一八一、〇〇〇	二六五、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
徳島縣	六、九六四	一八、〇〇〇	四五、〇〇〇	二五、〇〇〇	三〇、〇〇〇
計	二、〇三五、六一四	一、七三四、四〇四	一、五五九、三三五	一、九六一、八六二	九八七、六四五

（二）金屬玩具

イ、生産工程

金屬玩具ハ主トシテ自動車、汽車、自轉車等ノ陸上乘物ヲ初メ、水物即チ汽船、短艇等ノ如キモノナルモ其他種類極メテ多ク從ツテ製造工程モ種々異ナル所アルモ代表的製品ノ製作工程ヲ述ヘンニ大略左ノ順序ニヨルモノトス。

印刷、拔物、纒、仕上（檢査）

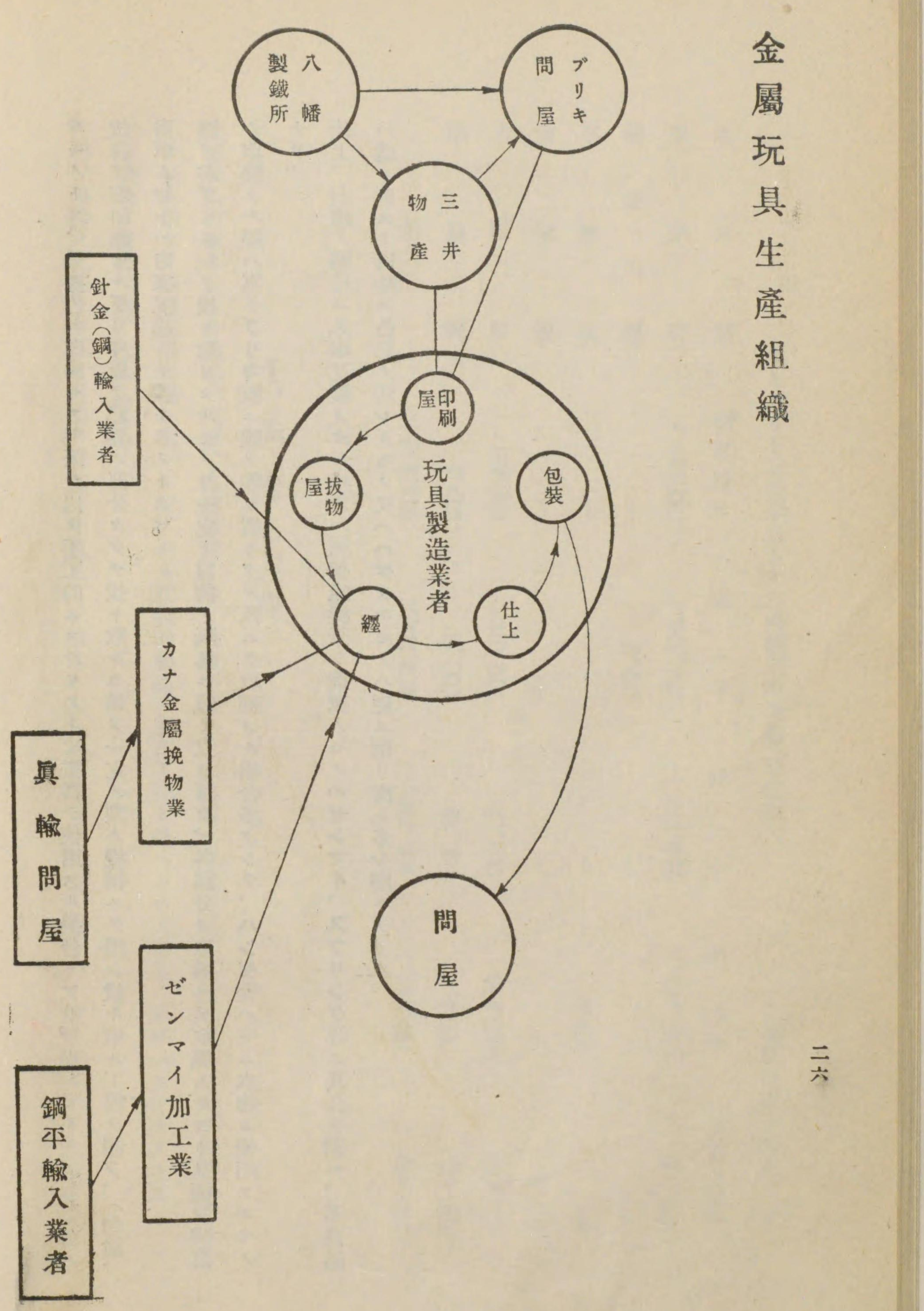
印刷、原料タル**ブリキ**板ヲ目的ノ玩具ニ仕組ム可ク適當ノ大サニ截斷シ、同樣ノ色彩ニテ印刷機ニヨリテ印刷着色スルモノトス、又採色ハ印刷セス毛筆ヲ以テ手工的ニスルモノト吹掛器ヲ使用スル場合トアリ。

拔物、右印刷セル**ブリキ**板ヲ必要ノ部分タケヲ拔キ取ルカ爲メ一定ノ型ノ機械ニテ壓シ拔キ取ル工程ヲ謂フ、（勿論、歯車ノ如キハ自家工場ニテ拔キモノトス）。

纒、右**ブリキ**板ヲ拔キ取リタルモノヲ一定ノ目的ノ玩具ニ組ミ立ツ可ク、各部分ヲ取揃ヘテ取纒ムルコトヲ謂フ、其ノ取纒メル際ハ專ラ**ブリキ**板ニ豫メ作リ置キタル爪ニテ取纒メル場合多クシテ、**ハンダ**等ハ主ニ水物ニ使用スルモノナリ。

仕上、右樣ノ順序ニテ取リ纒メタルモノハ一個宛檢査シ機械ノモノハ**ゼンマイ**、**スプリング**等ノ具合ヲ調ヘ、不良品ハ造リ直スト同時ニ色彩ノ汚レタモノ又ハ**ハゲ**タルモノハ更ニ塗リ直シ多少磨キヲカク。

金屬玩具生産組織



金屬玩具材料ハブリキ、ゼンマイ、スプリング、ヲ主タル材料トスルモノニシテ各材料ノ需給狀況ヲ述ヘンニ

ロ、原料需給關係

一、ブリキハ現今ハ殆ント内地産モノ使用セラレ稀ニハ米國、英國品ヲ使用スル場合アリ、米國製錻力ハ品質ニ於テ我國産品ニ比シ優ルト雖、英國産錻力ハ品質餘リ良好トハ言ヒ難シ、國産錻力ハ專ラ九州八幡製鐵所ノ製品ヲ使用ス、此ノ外安價ナル内地産ノモノトシテハ横濱市中山錻力製作所ニ於テ輸入薄鐵ニ錫鍍金シタルモノアリ、玩具業者中之ヲ使用シ居ルモアレト其ノ數極メテ少ナシ。

八幡製鐵所産出ノ錻力ハ一般ニハ供給不足ニシテ生産ハ現今ニ於テ毎月千八百噸アレトモ專ラ徳山海軍煉炭所、日本石油、東洋製罐等ニ振向ケラレ三井物産株式會社ハ同所ト一、二年ノ先物契約ヲナシ居ル關係上東京市内ニ於ケル金物商ハ總テ同會社ヨリ購入シ金屬玩具製造業者ハ此等問屋ヨリ購入ス。

二、ゼンマイハゼンマイ加工業者カ鋼平輸入業者ヨリ仕入レ、之レヲ自家ニ於テ細ク或ハ幅廣ニ加工シ以テ之レヲ錻力玩具製造家ニ卸ス。

金屬玩具中ノ人形、動物ハ主トシテ所謂流シ物ト稱シアンチモニー、錫、鉛ノ合金ヲ以テ製造シ、其ノ大ハ約一吋ヨリ二吋位ノモノニシテ年産額關東方面ハ約五、六萬圓ノ生産アリ、内四、五割ハ海外ニ仕向ケラレ居ル模様ナリ、本品ノ東京ニ於ケル專門製造業者ハ次ノ如シ。

東京市深川區常盤町二丁目　森下文吉

八、金屬玩具關係ブリキ印刷業者

東京市本所區龜澤町二ノ一〇	望月長作
同　同　區石原町二ノ一〇	外山善吉
同　同　同町三ノ二五	山田米吉
同　同外手町四四	鈴木謙一郎
同　同　區同町七九	內海正
同　同　區荒井町八	共新堂
同　同　區綠町三ノ北堅川河岸九四	和田英敏
同　同　區龜澤町二ノ六	河村梅三郎
同　同　區橫川町六四	諸岡印刷所
同　向島中ノ郷町一五八	牛山喜義
同　淺草區榮久町二八	向笠印刷所

二、生產狀況

金屬玩具ノ昭和四年ニ於ケル內地生產狀況ヲ見ルニ現時ニ於テハ殆ント東京府ヲ以テ約八割ヲ占メ、大阪府一割强之ニ次キ、其他埼玉、長野、京都、香川、和歌山、千葉、福岡、ノ各縣ニ於テ若干ノ產出ヲ見ル、本品ハ大正十四年及

昭和元年當時ニ於テハ今日ヨリ遙カニ生產地帶廣クシテ現今ヨリ以外ニ靜岡、新潟、香川、福岡ノ數縣ニ亘リ生產セラレ、靜岡縣ノ如キハ大正十四年ニ於テハ其生產額大阪府ノ二倍以上ノ生產ヲ示シ居リタリ、然ルニ爾來同縣ニ於テ斯業漸次衰微シ今日ニ於テハ全ク生產セサルニ至リ、昭和四年ニ至リテハ長野縣、和歌山縣、京都府、香川縣ノ如キ新シキ地方ニ於テ本品ノ生產ヲ見ルニ至リ、其ノ生產額ハ埼玉縣ノ二萬七千圓長野縣ノ一萬九千圓京都府ノ一萬六千圓香川縣ノ一萬五千圓ナリ。

概シテ本品ハ逐年生產額增ノ傾向ヲ辿リ、昭和三年ニ於テハ前年ニ比シ約二萬五千圓ヲ增進ヲ示シタルモ同四年ハ幾分ノ減退シ七十萬圓ノ生產トス、今累年ニ於ケル本品ノ生產額ヲ示セハ左ノ如シ。

（工場統計表ニ據ル）

年次	產額
大正八年	四七九、一二〇圓
同　九年	四八六、〇八八
同　十年	一、四五六、五六二
同　十一年	五九一、八五〇
同　十二年	九四、三六五
同　十三年	五〇六、八七五
同　十四年	七七七、九五九
同　十五年・昭和元年	六八二、九九九
同　二年	七九六、六一九

同　三　年	八二〇、九四一
同　四　年	七〇〇、〇〇〇

更ニ最近五ヶ年ニ於ケル府縣別生產額ヲ示セハ左ノ如シ。

金屬玩具最近五ヶ年府縣別生產額（單位圓）（工場統計表ニヨル）

地方別	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年
茨城縣	四五、〇〇〇	—	四〇、〇〇〇	二六、〇〇〇	三七、〇〇〇
千葉縣	四二〇	一、〇〇〇	五〇〇	—	—
東京府	六六四、〇五五	六六五、三六七	五六二、一七〇	四七六、八四一	三三五、二八〇
京都府	一六、五一〇	四、〇〇〇	—	—	—
大阪府	二三七、七九〇	一四四、七五四	一九三、九四九	九〇、〇〇〇	一一七、五九〇
長野縣	一九、三〇〇	一四、五六〇	—	—	—
靜岡縣	—	—	—	三三、九〇三	二五六、〇八九
埼玉縣	二七、〇〇〇	二三、五五〇	—	一〇、九五〇	一三、五〇〇
愛知縣	—	五、〇〇〇	—	—	—
和歌山縣	五、七九〇	—	—	—	—
新潟縣	—	—	—	五、七〇五	五、五〇〇
香川縣	一五、〇〇〇	二、四五〇	—	六、〇〇〇	—
福岡縣	一二、三〇四	—	—	三三、六〇〇	一四、〇〇〇
計	九八五、三六九	八二〇、九四一	七九六、六一九	六八二、九九九	七七七、九五九

三、陶磁器製玩具ノ生產狀況

陶磁器玩具ノ昭和四年ニ於ケル生產額ヲ見ルニ十三萬餘圓ニシテ內本品產地ハ京都府ノ三萬四千圓ヲ筆頭トシ、愛知縣ノ二萬六千圓、福岡縣ノ一萬六千圓之レニ亞キ、其他、兵庫、石川ノ各縣ニ若干ノ生產ヲ見ル本品ハ從來原料粘土ノ關係上、京都、愛知、福岡ノ各府縣カ主タル生產地帶トス東京府、大阪府ノ如キハ當テ若干ノ生產ヲ見タルモ、現今ニ於テハ殆ント生產セス、這ハ主トシテ是等ノ都市ニ於テ一ハ原料タル陶土豐富ナラサル爲ナルモ、他ノ一般重要諸工業ノ生產增加ニツレ採算上自然斯業ノ衰微ヲ來タセルモノト看ル可シ、要之本品ハ大正十年ノ三十三萬三千圓ヲ頂上トシ逐年衰微シ來リシモ昭和元年ニ至リ幾分恢復シ、同二年ニ再ヒ著シキ減退ヲ示シ僅ニ九萬圓ニ止マリシカ、同三年ニ於テハ稍々擡頭シ二十萬一千圓ヲ算スルニ至リ幾分順調ニ進ミシモ同四年ニハ幾分減退シ十三萬圓ヲ算スルノミトス。

今累年ニ於ケル本品ノ生產額ヲ示セハ左ノ如シ。

（工場統計表ニ據ル）

年次	產額
大正八年	二七一、四六六圓
同九年	二八五、七〇五
同十年	三三三、二七〇
同十一年	八五、〇七五

同十二年	一四一、二七五
同十三年	一三九、〇六四
同十四年	一一〇、二八三
同十五年 昭和元年	一九六、三五六
同二年	九〇、一八三
同三年	二〇一、六三一
同四年	一三〇、〇〇〇

陶磁器玩具最近五ヶ年府縣別生産額（單位圓）（工場統計表ニヨル）

地方別	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年
東京府	—	—	—	八、五〇〇	—
石川縣	一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	一、三〇〇	一、三〇〇
愛知縣	二六、七〇〇	一一八、一一一	六四、八三三	一一〇、六三三	四九、八五四
三重縣	—	五、〇〇〇	—	—	二五、〇〇〇
京都府	三四、三三三	四六、三〇〇	一〇、〇〇〇	四八、〇〇〇	—
大阪府	—	—	—	—	一、〇〇〇
兵庫縣	四、〇九五	三一〇	一、四二〇	六、一四〇	一〇、一三九
島根縣	—	—	一三、九五〇	一〇、五〇〇	—
愛媛縣	—	二〇〇	—	—	—
福岡縣	一六、六〇〇	二八、八〇〇	—	二、三〇四	三、〇〇〇
佐賀縣	—	二、〇〇〇	—	—	—
計	八二、七一七	二〇一、六三一	九〇、一八三	一九六、三五六	一一〇、二八三

四、ゴム製玩具生産状況

ゴム製玩具ノ昭和四年ニ於ケル生産狀況ヲ見ルニ二百三十一萬八千圓ヲ產シ、東京府ノ百三十九萬九千圓ヲ筆頭トシ大阪府ノ五十四萬四千圓之レニ次ク其他兵庫、埼玉、新潟、茨城、石川ノ各縣之レニ次ク、次表ニ示ス如ク本品ハ大正十四年ノ三百四十三萬七千圓ヲ最高記錄トシテ爾來一進一退ノ步調ヲ辿リ各府縣ニ於テモ盛衰甚タシキモノアリテ嘗テハ德島、山口、奈良、岐阜、千葉ノ各縣ニ生產ヲ見タルモ現今ハ殆ント生產ヲ見サルニ至レリ。今累年ニ於ケル本品ノ生產額ヲ示セハ左ノ如シ。

年次	產額（工場統計表ニヨル）
大正九年	二、四〇二、六三九
同十年	一、二九七、一五四
同十一年	一、八〇九、五八一
同十二年	二、二六二、六六六
同十三年	三、三八三、七九七

同　十四年	三、四三七、七八二
同　十五年 昭和元年	二、六九九、九五五
同　二年	三、〇六四、八二九
同　三年	二、五一七、九九五
同　四年	二、三一八、二一五

ゴム製玩具最近五ヶ年府縣別生產額（單位圓）

地方別	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年
茨城縣	一五、七六〇	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一三、〇〇〇	—
埼玉縣	六九、七六〇	四五、八〇〇	四八、九〇〇	—	一二七、五〇〇
千葉縣	—	一四、四一五	七、五〇〇	三、九二〇	四、四五五
東京府	一、三九九、一七九	一、八六六、八四五	二、三五四、一二四	一、八二八、七二六	二、五六九、五三七
新潟縣	四一、七九六	四〇、三一〇	三七、三〇三	三九、八六〇	三九、四三〇
石川縣	二、五〇〇	八六、六二〇	九六、〇〇〇	三二、三三一	三四、三三九
岐阜縣	—	—	—	—	五、五二〇
大阪府	五四四、八五〇	二六五、〇一九	三六二、六四二	三六〇、七六一	四〇四、八六二
兵庫縣	二四四、八五〇	一七八、六〇〇	一三九、三五〇	二二六、七〇〇	二四二、七四九
奈良縣	—	二、三七六	—	—	二〇、四〇〇
廣島縣	八〇	—	—	一〇、一五七	—
山口縣	—	—	一一、〇〇〇	一八五、五〇〇	四一、〇〇〇
德島縣	—	—	—	—	四七、〇〇〇
計	二、三一八、二一五	二、五一七、九九五	三、〇六四、八二九	二、六九九、九五五	三、四三七、七八二

五、木製玩具ノ生產狀況

木製玩具ノ昭和四年ニ於ケル內地生產狀況ヲ查スルニ愛知縣ノ十二萬六千圓ヲ首位トシ、東京府ノ十二萬三千圓之レニ亞キ、富山、神奈川、靜岡ノ諸縣之レニ次ク其他廣島、大阪、宮城、群馬ノ各縣ニモ多少ノ生產ヲ見ル、本品ノ過去十ヶ年ニ於ケル生產額ヲ見ルニ大正十一年ニ於テハ著シク不況ヲ示シ、僅カニ六萬圓ノ生產ニ止マリシモ通例十萬圓以上、二十五萬圓ノ間ニアリシカ最近昭和二年ヨリ著シク增進ヲ示シ、同四年ニハ四十八萬圓ニ增進スルニ至リタリ、之レ本品ノ生產能力ノ增進ト需要ノ擴大セラレタルモノニ因ルモノナル可シ、本品ハ次表ニ示ス如ク其ノ生產地帶逐年擴大ノ傾向ヲ示ス、然レトモ大體ニ於テ本品カ他ノ玩具類例ハ**セルロイド**、金屬玩具ニ比シ着色其他外見ノ體裁ニ於テ幾分劣レルカ如キ感アリ、從ツテ需要セラルル本品ノ種類ハ相當限定セラレ、各種人物、動物及汽車、汽船ノ如キモノトス。

木製玩具最近五ヶ年府縣別生產額（單位圓）　（工場統計表ニヨル）

地方別	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年
北海道	一、二〇〇	—	—	—	—

岩手縣	一、〇〇〇	—	一、八七五	—	七〇〇
宮城縣	一、六〇〇	二、四〇〇	三、六〇〇	三、六〇〇	—
茨城縣	—	三五、五〇〇	—	—	—
群馬縣	—	四九〇	五〇〇	—	—
埼玉縣	—	—	一〇、六五〇	—	—
東京府	三三、八二九	七四、三二五	四〇、四〇一	四一、〇〇〇	三七、八〇〇
神奈川縣	六一、一九〇	三六、七一八	三八、三一〇	三五、八七八	三、三三〇
富山縣	九五、〇六五	五六、一〇〇	五五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一三一、〇〇〇
長野縣	—	—	一三、〇〇〇	—	—
静岡縣	二六、六〇〇	一三、八〇〇	一三、一三〇	一三、〇〇〇	二、〇〇〇
愛知縣	一三六、三一〇	一三八、八六〇	五五、四〇〇	—	八、〇〇〇
大阪府	二一、〇〇〇	一六、五八〇	一六、六九一	一八、〇〇〇	二七、五五五
兵庫縣	—	—	—	—	三一、〇〇〇
奈良縣	—	一三、〇〇〇	九、一〇〇	一一、九五〇	九、七〇〇
廣島縣	一三、二八〇	一三、七〇〇	一九、八〇〇	一一、六〇〇	—
鳥取縣	—	三、〇〇〇	—	—	—
山口縣	九、九六〇	—	—	—	六七〇
愛媛縣	—	六、三〇〇	五、九五〇	六、〇〇九	—
福岡縣	八、七三五	六、九八五	八、三一八	六、七一三	—
大分縣	四、〇〇〇	四、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	—
計	四八九、二七九	四〇九、七四八	二九七、七八五	二五八、六五〇	二四五、九五五

木製玩具累年生産額　（工場統計表ニ據ル）

年次	産額
大正八年	一三六、八六六圓
同　九年	一〇一、六三五
同　十年	一二三、〇二〇
同　十一年	六二、七六〇
同　十二年	一五五、九七〇
同　十三年	二〇八、九二八
同　十四年	二四五、九五五
同　十五年、昭和元年	二五八、六五〇
昭和二年	二九七、七八五
同　三年	四〇九、七四八
同　四年	四八九、二七九

六、紙製玩具生産狀況

紙製玩具ノ昭和四年ニ於ケル生産額ハ二十萬五千五百五十三圓ニシテ、内愛知縣ノ十四萬三千八百圓ヲ首位トシ、神奈川縣ノ二萬圓、東京府ノ一萬三千圓、岡山縣ノ一萬九千圓、東京府ノ一萬三千圓、大阪府ノ七千圓、兵庫縣ノ九百圓ノ順位トス。

本品ハ次表ニ示ス如ク其ノ生産額常ニ一進一退ヲ示シ居ルモノトス、元來本品ノ使用ノ範圍モ限定セラレ居リ、特ニ著シク需要ヲ增進セル事情モナケレハ從テ著シキ進展ヲ見サルモノナル可シ。

本品ノ種類ハ花**ツナギ**、「**デングリ**、假裝用、假面帽子、卷笛、鳴子、張**ボテ**、振リ廻シ鳥、角形提灯、飛行機等ヲ主タルモノトス。

紙製玩具累年生産額　（工場統計表ニ據ル）

年次	産額
大正八年	一六五、七三五圓
同九年	二七八、五九七
同十年	六四、五五〇
同十一年	五〇、四四〇
同十二年	三八六、四七八
同十三年	六三、九〇〇
同十四年	三三二、一〇〇
同十五年 昭和元年	一四九、六三〇
同二年	三一一、二五五
同三年	一八七、二八〇
同四年	二〇五、五五三

紙製玩具最近五ヶ年府縣別生産額　（單位圓）

地方別	昭和四年	同三年	同二年	同元年	大正十四年
東京府	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一八、三八〇	—
神奈川縣	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—
石川縣	—	—	一〇、〇〇〇	—	—
愛知縣	一四三、八九三	一五二、二〇〇	二〇六、三〇〇	一一七、二五〇	二六八、〇〇〇
大阪府	七、二〇〇	一一、五〇〇	四五、九五五	—	六二、七〇〇
兵庫縣	九〇〇	—	—	—	—
岡山縣	一九、〇〇〇	一、三八〇	—	二、〇〇〇	一、四〇〇
廣島縣	—	四、二〇〇	二六、〇〇〇	一三、〇〇〇	—
計	二〇五、五五三	一八七、二八〇	三一一、二五五	一四九、六三〇	三三二、一〇〇

第二節　輸出狀況

輸出玩具ノ種類別輸出狀況ヲ査スルニ、先ツ**セルロイド**玩具ヲ太宗トシ玩具總輸出額一千一百六十九萬九千圓（昭和五年度）**セルロイド**玩具ハ五百五十七萬二千圓、即約四割七分ヲ占メ、金屬製玩具ハ百八十六萬八千圓約一割五分、**ゴム**製玩具ハ二百十六萬一千圓約一割九分トシ、布帛製玩具ハ九十九萬一千圓約八分、木製玩具ハ六十萬圓約五分、陶磁器製粘土玩具ハ僅ニ四十萬五千圓ヲ占ムルノミ、其ノ他ノ玩具ハ二百二十五萬四千圓一割九分ニシテ主トシテ紙製等ノ各種玩具ヲ包含スルモノトス。

一、品種別國別輸出狀況

更ニ各種類別玩具ノ國別輸出狀況ヲ考査スルニ先ツ**セルロイド**玩具ノ輸出額ハ前述セル如ク總輸出額ノ四割七分以上ヲ占メ、其ノ主タル輸出先ハ北米合衆國約三割五分ヲ占メ、歐羅巴各國ノ總需要額ヨリ約四十三萬圓程需要多ク、然モ同國ノ需要ハ逐年增大ヲ示シタルモ、最近ニ至リテハ米國關稅引上ノ悪影響ヲ蒙リ苦境ニ陷リ、歐羅巴方面ニ於テハ英吉利ノ需要最モ多ク全歐羅巴ノ總需要額（昭和四年度）百五十六萬八千圓ノ內四割ハ英國ノ需要トス、獨逸ハ歐洲大戰後諸工業ノ復活ノ結果着々世界ノ各地ニ販路ヲ獲得シ本邦商品ノ輸入セラルル各市場ニ於テ可成深刻ニ本邦品ヲ壓迫シ居ル有樣ナリシモ、最近ニ至リ本邦玩具ノ價格ノ低廉ニシテ、然モ比較的優秀ナルカ爲メ同國ヘノ輸出逐年增加ノ傾向ヲ辿リ居ルハ洵ニ本邦當業者ノ意ヲ强フスルニ足ルモノアリト云フヲ得ヘシ。次表ニ示セル如ク大正十四年ニ於ケル對獨輸出ハ僅カニ一萬五千圓ナリシモ、昭和元年ニ於テハ一躍七萬圓ヲ輸出シ、更ラニ同二年一般單價ノ下落ノ爲メ各地方共ニ需要額減退ヲ示セル時ニ當リ獨逸ノミハ反ツテ增加ノ傾向ヲ示シ、昭和四年ニ於テハ三十二圓二千圓ノ輸入ヲ見頗ル好況ヲ示セリ。

亞細亞方面ニ於テハ英領印度ノ需要最モ多ク年々增大ノ步調ヲ辿リ昭和四年ニ於テハ四十萬八千圓ノ輸出ヲ見前年ニ比シ一割八分ノ增加ヲ示セリ、中華民國ハ大正十三年頃ニ於テハ著シク日貨排斥モ無カリシ結果十萬圓ノ輸出ヲ見タリシモ爾來日貨排斥ト支那內地ノ動亂ノ悪影響ヲ蒙リ逐年減退ノ步調ヲ辿リシカ、最近昭和四年ニハ前年ニ比シ四萬七千圓ノ增加ヲ示シ十萬一千圓ノ輸出ヲ見ル。（以下大日本外國貿易年表ニ據ル）

セルロイド製玩具國別輸出額最近五ヶ年對照表（單位千圓）

國別	昭和四年	同三年	同二年	昭和元年 大正十五年	大正十四年
中華民國	一〇一	五四	五六	九八	八七
關東州	二五	二〇	一五	三二	二三
香港	二四	一三	八	四	六
英領印度	四〇八	三四五	三〇二	二二六	二三〇
海峽殖民地	二一	二一	二六	二六	一九
蘭領印度	一〇七	七二	八五	一九	七八
佛領印度支那	—	—	—	—	二
比律賓諸島	三二	三二	二八	三	三二
暹羅	三一	七	一〇	五	一七
其他亞細亞諸國	六	三	二	—	一
英吉利	六五二	四五三	八一六	七五七	八二六

ゴム製玩具國別輸出額最近五ヶ年對照表（單位千圓）

佛蘭西	一三	七二	三三	二九	一六
獨逸	三二	一九〇	八六	七〇	一五
白耳義	一四	三	八	三	四
伊太利	一六九	五六	五四	二二	一二三
瑞西	一	―	―	―	―
墺地利	一	四	一〇	二	四
和蘭	九一	五一	五三	三二	一九
瑞典	二三	三二	七	三	三
諾威	六	―	―	―	―
西班牙	七一	四四	三六	三二	五
丁抹	一六	二〇	一〇	一六	四
土耳其	三	七	三三	七	一
其他歐洲諸國	三八	二七	五	七	三
北米合衆國	一、九九八	一、五五〇	一、四九〇	二、〇〇三	一、五九九
加奈陀	一七二	一〇六	八七	七〇	四九
墨西哥	八五	一〇一	五五	二一〇	一〇六
玖馬	四一	二二	一八	一八	一一
其他北米諸國	四七	三三	一五	一九	二〇
秘露	三三	二五	八	三二	三三
智利	六三	三三	四一	六八	六二
亞爾然丁	一六三	二二五	二三五	一五四	一七六
伯剌西爾	一四七	一六三	一五九	二一六	一七二
ウルグアイ	三	―	―	―	―
其他南米諸國	一〇〇	七九	四六	五五	三三
埃及	二四	二四	九	一四	一七
喜望峰殖民地及**ナタル**	二一	五四	六〇	八七	八二
東部阿弗利加其他亞弗利加諸國	二四	一〇	四	八	五
濠太剌利	一八四	一九一	一四二	二三八	二四一
新西蘭	三三	二四	二六	三六	三八
布哇	七	一〇	二	一	二
其他諸國	―	―	―	七	―
計	五、五七二	四、二三九	四、〇七七	四、五四五	四、二六五

國別	昭和四年	同三年	同二年	昭和元年 大正十五年	大正十四年
中華民國	二一六	一三八	一〇九	一九七	二五二
關東州	九七	七三	四二	八七	七五
香港	一〇六	五七	九〇	三	三八
英領印度	四六九	五四三	三三三	三九〇	四六三
海峽殖民地	五四	三五	七七	六七	八八
蘭領印度	二〇四	一六五	一六九	九五	一四四
佛領印度支那	六	一五	一八	一五	一三
比律賓諸島	五五	三八	四七	五七	七四
暹羅	三八	一〇	二〇	一〇	一六
其他亞細亞諸國	九	七	二〇	一	六
英吉利	一四六	五七	三	七一	六〇
佛蘭西	二	九	二	一	—
獨逸	一三	三一	一三	一一	四
白耳義	一〇	二	—	—	—
伊太利	一九	二六	七	一	二
墺地利	—	—	五	—	—
和蘭	一九	二六	九	一	三
瑞典	二	五	一	二	—
西班牙	一	—	四	—	—
丁抹	—	六	五	一	三
土耳其	五	三	三	—	—
其他歐羅巴諸國	一〇	—	—	—	—
北米合衆國	三〇六	三一九	一八七	一三七	一五〇
加奈陀	三六	二三	一一	九	一三
墨西哥	二三	二六	一七	一七	一二
玖馬	一〇	五	五	一三	一五
其他北米諸國	一五	一一	一六	一九	一六
秘露	九	一一	九	六	一七
智利	一五	三一	一六	一三	一三
亞爾然丁	八〇	五六	一〇四	一一七	一三七
伯剌西爾	四	一三	七	一一	七
ウルグアイ	三	—	—	—	—
其他南米諸國	一八	一五	一三	一四	一九

埃及	二五	五四	二	三	七
喜望峰殖民地及ナタル	一五	一六	一八	一三	一六
其他亞弗利加諸國	五	三	二	一	一
濠太剌利	四一	四五	三五	三六	五四
新西蘭	四	三	二	三	三
布哇	一	三	一	三	四
其他諸國	―	―	一	―	三
合計	二、一六一	一、九三四	一、五三三	一、四七八	一、七八八

木製玩具國別輸出額最近五ヶ年對照表（單位千圓）

國別	昭和四年	同三年	同二年	昭和元年大正十五年	大正十四年
中華民國	三一	二八	二四	三	二四
關東州	六五	六四	四二	三八	三三
香港	一〇	六	七	五	八
英領印度	一八	二一	一九	三三	二五
海峽殖民地	二一	一六	三三	三〇	二八
蘭領印度	四一	三七	三七	四七	四四
佛領印度支那	一	四	八	一四	八
比律賓諸島	一九	三二	四三	四一	一七
暹羅	三	五	三五	一〇	五
其他亞細亞諸國	―	―	―	―	一
英吉利	二四	三三	三〇	四六	三〇
佛蘭西	二	四	四	九	九
獨逸	四	三	四	二	二
白耳義	―	一	一	―	一
伊太利	二	三	六	三	二
墺地利	―	―	二	一	一
和蘭	二	二	二	一	―
瑞典	二	二	―	五	一
西班牙	―	―	―	一	二
丁抹	一	一	―	―	一
土耳其	―	―	―	―	―
其他歐羅巴諸國	―	―	―	―	―
北米合衆國	二〇九	一七二	一八一	九六	九四
加奈陀	二四	三二	二〇	三二	二四

墨西哥	三	一	一	一	一
玖馬	一	—	二	一	一
其他北米諸國	六	一	—	一	一
秘露	二	一	三	三	五
智利	二	二	七	七	三
亞爾然丁	一三	一四	一三	六	八
伯剌西爾	三	一	一	二	四
ウルグアイ	四	—	—	—	—
其他南米諸國	一	一	九	六	九
埃及	二	—	一	一	—
喜望峰殖民地及ナタル	六	一	三	七	六
其他亞弗利加	一	—	—	—	—
濠太剌利	二九	一九	一三	一四	一四
新西蘭	三	二	一	四	五
布哇	六	二	七	六	六
其他諸國	—	—	—	—	—
合計	六〇〇	四七九	五七九	五三一	四七九

其他ノ玩具國別輸出額最近五ヶ年對照表（單位千圓）

國別	昭和四年	同三年	同二年	昭和元年 大正十五年	大正十四年
中華民國	五四	五五	二三一	四一〇	三六
關東州	七七	六五	一六二	二〇五	一八四
香港	二〇	一一	一三三	五九	六四
英領印度	一五三	九二	三五一	二四三	二七一
海峽殖民地	五一	二六	二三四	一五五	二八一
蘭領印度	一六四	一〇四	二二五	一三九	一八一
佛領印度支那	—	一	七〇	一九	三
比律賓諸島	二九	二	一三八	一六〇	一三三
暹羅	一三	三	二五	九	一四
其他亞細亞諸國	三	一	五	五	四
英吉利	二六三	一九六	四八〇	四五九	五〇四
佛蘭西	二三	一五	三二	四〇	五三
獨逸	四八	四二	七〇	三五	三九
白耳義	一	四	一〇	一四	一九
伊太利	一四	七	一六	一九	一九

墺地利	一	一	一	一	一
和蘭	一五	一三	一五	一二	七
瑞典	九	八	一七	一五	一五
諸威	一	一	一	一一	一
西班牙	七	一	二	一〇	六
丁抹	二	一〇	三	一三	三
土耳其	五	一	一	一	三
其他歐羅巴諸國	五	一	一	一	一
北米合衆國	九七八	八三七	一、五五八	一、五八五	一、四九〇
加奈陀	七〇	六七	一八	八七	一〇七
墨西哥	三	八	四	一七	九
玖馬	七	三	七	一三	二八
其他北米諸國	三	四	九	一〇	九
秘露	三	一	一〇	一五	一九
智利	一	三	七	一五	一〇
亞爾然丁	二九	一九	三二	三五	四八
伯剌西爾	二	一五	三	一六	一八

ウルグァイ	一九	一	一	一	一
其他南米諸國	一一	一五	二九	一九	二四
埃及	六	四	一四	一六	一一
喜望峰殖民地及ナタル	四	三	五六	三	一八
其他亞弗利加	四	一	三	一	一
濠太剌利	七六	七一	一〇四	一七三	一三三
新西蘭	一三	一〇	三	一〇	三
布哇	一六	三	三	一一	一五
其他諸國	一	一	四	二	一
合計	二、二五四	一、七七〇	四、三三〇	四、三〇六	四、二五五

昭和五年種類別國別玩具輸出額一覽表（單位圓）

國名	セルロイド製	布帛製	金屬製	陶磁器製	ゴム製	木製	其他ノ玩具	合計
中華民國	六五、四五四	四、八八七	一三、一三三	四、四四二	一七九、一三一	二二、九一三	三六、四二三	四三六、二六一
關東州	一六、三九二	一四、三〇五	七九、一七一	二〇、〇三六	六二、七八二	五三、七九一	七四、八七八	三二一、三五五
香港	三八、〇八六	一、〇〇四	七四、三三三	六二四	一〇七、〇一〇	六、五七一	一四、〇九五	一四一、八一三
英領印度	三六二、四九〇	一八、七五四	二〇四、一七三	四二、一二六	三四七、五三三	一二、九二四	八一、二八七	一、〇六七、三八七
海峽殖民地	一四、九二八	五、二八八	九三、四九五	一、二八〇	四六、五六八	一七、三〇九	五三、九三二	二三二、七九九

蘭領印度	一〇〇、七六二	一〇、一三七	一七二、六〇一	三、五六二	二四、七一六	四二、三〇二	一二八、二七二	六七二、三八二
比律賓	四四、五三三	四、七六八	八一、九七〇	四、七四五	五一、〇三七	一七、六六一	三〇、一五八	三二四、八六一
暹羅	二四、四九八	五、八五三	二二、一五八	四九一	九九、八六五	四、三八三	八、三七四	一六五、六三三
其他亞細亞諸國	五、一一三	一、〇四九	四、〇四三	九〇七	七、一一三	四四六	三、一七三	二一、八五三
英吉利	五七四、一九一	一三五、九二七	二〇八、一九一	五四、六三一	二二九、九四三	五九、一八七	四二六、五四六	一、六七八、七一六
佛蘭西	一三二、四三〇	一一、四四三	三、二六八	一、五〇五	三、五四六	三、〇四五	二一、八九〇	一七七、一二七
獨逸	一五七、三七八	二六、八三三	八、八二一	三、八九六	二六、六三一	三、〇〇九	四一、三五〇	二六七、八九八
白耳義	三、九九三	六、五五九	二、〇九一	二、七六五	一四、二八五	二、三八三	四、〇五〇	四六、一四六
伊太利	一九二、六七四	一〇、六四〇	一、八〇一	五四五	一六、六一七	四、六八八	一六、九二三	二四三、八九八
瑞西	一、一〇〇	—	—	—	—	一五	一三	一、一三八
墺地利	七、二七三	一、五七三	—	二二	—	—	一〇五	九、一六二
チエツコ	二、八九九	一三二	八〇	—	一、二〇二	—	三七	四、四五〇
和蘭	九三、二七四	七、六二八	八、一五九	四、八五一	二五、三三六	四、三〇九	一九、一〇五	一六三、六七二
瑞典	一八、九二九	一七、〇七三	四、三三九	七一四	五、六六八	一、四四〇	四、四六八	五二、五三〇
諾威	二、四三八	五一〇	六五五	—	四四一	四三	六六五	四、四六二
露西亞	七三	—	—	—	—	—	—	七三
波蘭	—	—	—	—	—	—	—	—

西班牙	五六、四九六	五二〇	一、四五七	—	七九〇	一八〇	三、五三六	六三、九八九
丁抹	三七、五一九	一一、一九一	九、九九〇	二一九	一一、七九三	二、七七七	三二、四三四	八五、九二三
希臘	二七、六八九	三〇五	二、〇九八	六	一〇、九三九	一七八	一、六九三	四二、八七八
土耳古	一九、二五二	二、一三〇	八二五	—	四、六九九	—	四、三四二	三一、二四八
葡萄牙	七、三七五	—	三〇	二五	三五三	—	—	七、七八三
其他歐羅巴諸國	一、九五一	三〇一	一、一三五	一九四	一、六八〇	二一〇	二、五〇九	七、九八一
北米合衆國	一、四三四、八一〇	三四九、三三一	一六九、一九七	二四一、七四二	三九、九七九	二二四、二三六	七四〇、四八五	三、四六九、七七一
加奈陀	一六四、八四九	三〇、一七〇	四五、〇九七	六、五二八	四〇、六四九	一九、九七九	九三、九五七	四〇一、一二九
其他北米諸國	三八、三四一	二、四三三	一〇、〇七六	九三五	一〇、一二九	六、六二七	一一、三九〇	七九、九三〇
墨西哥	九七、一八五	三、一〇三	九、六一九	四、九三九	六、三四三	三、一六一	六、八八六	一三一、二三七
玖馬	二五、七〇九	七三二	一、四三四	九八	五、七八四	八〇二	四、四七〇	三九、〇三八
秘露	三〇、一四二	二〇二	五、一一四	六三八	七、二九〇	二、四九五	一、九三五	四七、八一六
智利	四七、六三六	二、七八八	六、四八四	一〇三	八、四六六	三、一一一	一、四九六	七〇、〇八三
亞爾然丁	八五、一三八	七、五三九	一、八五九	三五一	七二、一一三	三、一三四	三二、二五四	二〇二、三八七
伯剌亞爾	一二九、六五〇	三、六六二	七、二一七	一四〇	四、二一八	二、七七七	五、五七〇	一四三、二三四
其他南米諸國	九〇、一三〇	一、〇〇五	六、二二一	二八八	二二、四七五	三、八〇三	一六、四三五	一四〇、四四七
埃及	二〇、四〇八	一六一	一〇、六〇八	四七一	三〇、一四五	二、二五一	九、三三〇	七三、三六四

喜望峯殖民地及**ナタル**	一〇七、七八七	五、五七七	五、七〇九	三八六	一九、五九四	五、〇三八	一一、一九五	一五五、二八六
其他亞弗利加諸國	四、一六七	八六五	七三一	—	五四五	六〇	三、七七二	一〇、一四〇
濠州	一〇八、二七二	二六、三五二	八〇、六三九	一三、〇五四	三二、九二八	一三、七二五	六六、五〇八	三五〇、四七八
新西蘭	二五、九七九	五、三〇七	七、九〇三	一、一九三	五、八六三	三、四一四	一一、四三二	六一、〇九〇
布哇	三、二三三	一、五七七	二、一六二	一、五四七	一、三〇八	五、〇九八	二〇、五三三	三五、五三七
其他諸國	七三〇	—	三六	一〇	一、七五一	五一六	一、一六二	四、六一六

二、港別輸出狀況

本邦玩具ノ港別輸出狀況ヲ見ルニ**セルロイド**玩具、金屬玩具、**ゴム**製玩具、ハ横濱港ヲ首位トシ、布帛製、木製玩具、其他ノ玩具ハ神戸港ヲ第一位トシ横濱港之レニ次ク、獨リ陶磁器製玩具ノミハ生産地タル名古屋港第一位ヲ占メ横濱、四日市、神戸ノ順位トス、大阪港ハ陶磁器玩具以外ノモノハ常ニ第三位ヲ占ム、即チ**セルロイド**製玩具ハ東京方面ノ生産多ク、從ツテ本品ハ總輸出額四百四十二萬三千圓中横濱港ヨリ輸出スルモノ三百四十二萬圓約七割七分ニシテ神戸港ヨリノ輸出ハ六十九萬四千圓即チ一割五分トシ、大阪港ハ僅ニ二十二萬八千圓約五分ニ止マリ、其他名古屋、四日市ノ兩港ヨリ若干ノ輸出ヲ見ル。

布帛製玩具ハ主トシテ大阪市ヲ中心トシテ生産セラルモノタルヲ以テ之レカ輸出港トシテハ神戸港第一位ヲ占メ横濱港之レニ次キ大阪港ハ第三位トシ其他名古屋港ヨリ若干ノ輸出ヲ見ル。

金屬製玩具ハ總輸出額百四十七萬七千圓中横濱港ヨリスルモノ七十二萬五千圓約五割弱ヲ第一位トシ神戸港ヨリスルモノ五十二萬七千圓即三割五分第二位トシ、横濱港ハ二十萬九千圓即一割四分之レニ次キ其他名古屋、門司兩港ノ順位トス。

陶磁器玩具ハ總輸出額四十一萬九千圓中名古屋港ヨリスルモノ十八萬二千圓約四割三分ヲ占メ首位タリ、之レ畢竟スルニ同市ヲ中心トシテ主タル生産地タルヲ以テナリ、横濱港ハ十一萬圓ノ輸出ニシテ總輸出額ノ約二割六分ヲ占メ第二位ニアリ、其他ノ輸出港ニハ神戸大阪ヲ凌駕シテ四日市七萬三千圓ニ上リ神戸ハ四萬三千圓大阪ニ至リテハ僅ニ六千圓ヲ算スルニ止マル。

次ニ**ゴム**製玩具ハ總輸出額二百四萬九千圓中横濱港ヲ主トシ、百十二萬七千圓約五割五分ヲ占メ、神戸港之レニ次キ遙ニ下リ六十萬圓ヲ輸出シ大阪ハ三十一萬圓ヲ輸出ス其他ノ諸港ニ至リテハ特ニ記述スル程ノコトナシトス。

木製玩具ハ總輸出額五十五萬八千圓中神戸港ノ二十六萬三千圓約四割七分テ第一位トシ、横濱港ノ十六萬一千圓即二割八分之レニ次ク其他ノ諸港中名古屋、大阪、四日市ヲ主タルモノトス、之レ要スルニ本品ノ生産地カ主トシテ名古屋ヲ中心トシテ逐年生産增加シツツアル關係ニアルモノナルヘシ其ノ他ノ玩具ニ至リテハ神戸港ヨリスルモノ最モ多ク總輸出額二百三萬圓中九十六萬三千圓約二割八分ヲ占ム。

玩具港別輸出額（昭和五年度）

港別	**セルロイド**製	布帛製	金屬製	陶磁器製	**ゴム**製	木製	其他ノ玩具	合計
横濱	三、四二〇、九八五	三二一、三二八	七三五、一七九	一一〇、七〇一	一、一二七、九三八	一六一、三七八	七〇九、三八一	六、五六六、八九〇
神戸	六九四、三八一	三九二、九五五	五二七、六八〇	四三、五八二	六〇〇、二七二	二六三、九二〇	九六三、〇二八	三、四八六、八一八
大阪	二二八、一九九	一七、七二三	二〇九、〇二三	六、五二〇	三二九、九三〇	四〇、一一八	二九二、六一〇	一、一二四、一二一

長崎	六	一	二九八	二	一九	四	六五	三九五
門司	八	―	六、六〇五	二、〇七三	六三	三三九	六七〇	九、七五八
名古屋	二七、四七六	一六、〇四八	八、四四六	一八二、七三〇	八四	六三、〇一五	三三、五〇一	三三一、〇六〇
下關	―	―	―	―	二	―	―	二
四日市	五二、四一〇	六五〇	三七八	七三、五六六	―	三〇、〇六八	三一、八七八	一八八、九五〇
萩	―	―	―	―	―	六六	―	六六
計	四、四二三、四六五	七三九、七〇三	一、四七七、五七二	四一九、一九七	二、〇四九、〇八七	五五八、九一三	二、〇三二、一二四	一一、六九九、〇五九

三、其他ノ輸出狀況

本邦ヨリ滿洲方面ニ輸出セラルル經路トシテハ全滿洲輸入組合聯合會ニヨリ本邦品ヲ紹介スル方法ヲ辿リ居ルアリ、同聯合會ハ南滿洲鐵道株式會社及關東廳トノ共同ノ法人組織ニヨリ滿鐵ノ貿易館ハ滿洲奧地個人ノ百貨卸店ヲ經營シ、滿鐵ハ之レニ補助ヲ與ヘ經營費ノ全部又地方費ヲ負擔スルコトモアリ、聯合會ハ在滿本邦商人ニ對シ爲替資金五百萬圓ヲ無利子ニテ貸付ケ內地商人ノ信用ヲ保證シ居レリ。

尙神戶ニハ神戶港ニ入港セル艦船ニ本邦商品ヲ賣込ム目的ヲ以テ組織セラタル組合二アリ。

一、神戶部艦船商業組合（神戶市海岸通三丁目）

組長　田畑太郎　神戶市筒井町一ノ九ノ二

組合員數　三百十五名、別ニ助手（商店ノ番頭ニ當ルモノ）百四十九名

二、兵庫部艦船商業組合

組長　小笠原吉輔　神戶市兵庫三石町三丁目八二ノ二

組合員數　六十九名、別ニ助手三十三名

前記ノ艦船商業組合員ノ販賣スル玩具仕入問屋ハ生產地又ハ輸出港ノ問屋ノ第二三流ヨリ仕入セラルルモノトス今主ナル仕入問屋ヲ擧クレハ左ノ如シ。

東京市淺草區藏前南町　高島留次郎
大阪市松尾町通瓦屋町　松井榮一郎
同市松尾町末吉橋詰　山本柳吉
神戶市三ノ宮町二丁目　宮崎商店

第三節　輸入狀況

玩具ノ輸入統計ヲ見ルニ大日本貿易年表ノ示ス所ニ據レハ明治三十三年ニ初メテ七萬八千圓ノ輸入ヲ示セルモ、恐ラク此ノ以前ニ於テモ數年前ヨリ輸入アリシモノト推知セラル、爾來二、三年間ハ年々四萬圓程度ノ輸入ナリシモ三十七年日露戰爭開始セル當年ニハ輸入半減シ僅カニ二萬圓ノ輸入ヲ見タルノミナルモ、平和恢復後即八年ヨリハ漸次輸入增大シ六萬七千圓ヲ示シ、同四十年ニハ遂ニ十萬圓ヲ突破シ同四十三年ニハ十二萬九千圓ニ達シ最高記錄ヲ示スニ至リタリ、降リテ大正年間ニ至リテハ內地玩具工業殊ニ**セルロイド**工業ノ隆盛ニツレ**セルロイド**玩具モ極メテ進步ノ跡ヲ示シ、海外輸入國品ト比較シ敢テ遜色ナキニ至リ漸次輸入玩具ヲ擊退シタルモノニシテ統計表面ニハ年々輸入漸

減ノ歩調ヲ辿リ居ルコト次表ニ示ス如クニシテ、大正八年ハ僅ニ三萬八千圓ノ輸入ヲ見ルノミ、爾後大日本貿易年表ニモ終ニ削除セラルルニ至リ遺憾ナカラ明細ニ知ルヲ得サルモ尚若干ノ外國製玩具ノ輸入アリ。

玩具累計輸入表

（大日本外國貿易年表ニ據ル）

年次	價額
明治三十三年	七八、四二八圓
同　三十四年	四三、六九八
同　三十五年	四八、三四一
同　三十六年	四四、七三六
同　三十七年	二二、六八二
同　三十八年	六七、〇五五
同　三十九年	七〇、七二五
同　四十年	一〇七、八一三
同　四十一年	八二、六五七
同　四十二年	七六、六一八
同　四十三年	一二九、八二八
同　四十四年	九二、七八八
大正元年	八一、五四五
同　二年	九八、〇六八
同　三年	七二、八五〇
同　四年	二一、〇五二
同　五年	四二、〇九一
同　六年	四三、九四二
同　七年	五九、五五〇
同　八年	二七、二一七
同　九年	以下大日本貿易年表ニ掲示セラレサルニ至ル
同　十年	

今試ニ最近二ケ年ニ於ケル外國玩具ノ國別輸入狀況ヲ見ルニ昭和三年ニ於テハ總輸入類ハ僅ニ三萬圓内獨逸ハ一萬七千圓ヲ占メ第一位トシ、英、米共ニ五千圓臺ニシテ第二位ニアリ、其他佛蘭西ノ九百圓伊太利ノ三百圓ヲ主タルモノトス、而シテ昭和四年ニ於テハ前年ニ比シ三千三百四十七圓ノ輸入減退ヲ示シ二萬七千圓ニ止マリシト雖、依然トシテ獨逸ハ第一位ヲ占メ一萬四千圓ノ輸入ヲ見、英吉利四千九百圓、合衆國四千圓之レニ亞キ佛國及伊太利、瑞西、何レモ前年ニ比シ著シク增大ヲ示セリ。

最近二ケ年玩具國別輸入表

國別	昭和四年	同　三年
中華民國	一四五圓	一九七圓

關東州	一〇六	一一〇
香港	—	—
英領印度	三〇	三九
海峽殖民地	—	一七二
蘭領印度	—	二〇九
英吉利	四、九八七	五、四〇一
佛蘭西	一、五三九	九〇九
獨逸	一四、四八八	一七、七五二
白耳義	—	—
伊太利	六一四	三〇七
瑞西	九一八	九三
チエツコ	一〇三	—
和蘭	八	一〇
瑞典	二	—
合衆國	四、〇二一	五、三〇二
加奈陀	四四	三四
埃及	六〇	—
濠洲	六	—
不詳	二二	五
合計	二七、〇九三	三〇、四四〇

第四章　取引事情

第一節　取引條件及商慣習

一、取引單位

玩具取引單位ハ大略左ノ如シ。

1、箇　比較的高價ナルモノ、子供用自動車ノ如キモノ。

2、打　各種玩具ヲ通シテダース單位ノモノ多シ。

3、哥　グロス單位ノモノハ一般ニ安物ノ玩具トス、セルロイド玩具ノ一、二吋ノ小型ノモノ金屬玩具中所謂流シ物ノ小サキモノ薄ゴム製品即風船ノ如キモノ。

4、組　セツトモノハ重ニ陶磁器玩具、茶器ノ如キモノ又ハ砂遊ヒノ金屬玩具ノ如キモノ。

二、標準物又ハ格付

玩具ニハ特ニ標準物又ハ格付トイフヘキモノナシ。

强テ言ヘハ**セルロイド**玩具ノ如キハ四吋以上ノモノハ一定ノ檢査ヲ要シ、合格品ニハ組合ノ檢査票ヲ貼付ス。

第二節　契約取極ノ方法及場所

直輸出商ト海外輸入商又ハ生產業者ト海外輸入商タルヲ問ハス本邦內地商ト需要地ニ於ケル輸入商トノ一般取引ハ電報又ハ手紙ヲ以テス。

支那上海方面ハ本邦ニ於ケル生產業者又ハ輸出業者カ上海ニ於ケル支那商ト直接取引ヲ爲ス場合ハ、同地方ニ出張シ見本品ヲ展示シ契約ヲ爲ス場合アリ、因ニ大阪玩具商ハ他ノ雜貨商ト共ニ每年一、二回上海貿易調査所陳列室（上海貿易調査所ハ大阪市役所產業部附屬ノ一種ノ取引機關ニシテ主トシテ大阪商人關係ノ輸入商品ヲ陳列シ一般ノ縱覽ニ供スルモノトス）又ハ他ノ場所ニ見本ヲ陳列シ豫テ通知ニヨリテ集合シタル卸賣商又ハ小賣商ハ見本ニヨリテ單ニ口頭ヲ以テ注文ヲ爲ス、然レトモ正式注文ハ出張員カ歸國ノ上大阪川口ノ支店又ハ代理店トノ間ニ契約ヲ取リ交ス、又支那人百貨店中ニハ店員ヲ本邦ノ輸出港（神戶、大阪）ノ客棧ニ出張セシメテ契約セシムルモノアリ。

元來大阪貿易商ト大阪川口支那商トノ取引ハ邦商ヨリ見本ヲ携ヘテ支那客棧ヲ歷訪シ、又ハ川口ニ居ル支那商カ大阪市內ノ邦商ヲ歷訪シテ口頭ヲ以テ巨額ノ（注文約定）ヲナス、此ノ際一片ノ書面ヲ徵スルコトナク、唯口約束ニ止マルノミ手附金ヲ交付スルコトモナシ、邦商ハ又豫メ彼等ノ信用狀態ニ就キテ精細ニ調査スルコトナク、唯支那商カ平常邦商ヲ訪ヒ面識ヲ重ネ賣買取引ヲ重ヌルニ隨ヒ漸次之カ信用狀態ヲ知リ得ルノミ、又大阪商ハ時々彼地ニ渡航シ彼等本店ノ狀態ヲ知リ直接取引ヲナス者モアリ、從來代金ノ不拂等ノ事實ハ比軟的ニ少ナシト雖、時トシテハ彼等中華商カ一朝窮境ニ陷リ支拂ヲ停止シ、本國ニ歸還スル如キコトアランカ其ノ損害ハ相當ニ大ナルモノアリ、大阪ニ於テハ雜貨取引ノ支商人ハ三ケ月拂又ハ內金ヲ受取リ年三回ノ決濟トナセル者モアリ、多クノ場合常ニ商品ノ貸越トナル。

歐米トノ取引ニ於テハ最初ニ取引スル場合ハ大低先方ノ店員カ本邦ノ生產地、又ハ輸出港ニ來リ直接現品又見本ヲ實見シテ取引ヲ契約シ行ク場合アリ、此ノ場合我當業者中ノ各生產業者又ハ問屋ハ右出張シ來リタル外人店員ノ宿泊セル旅館ニ見本ヲ持參シ一定ノ數量及期限ヲ附シ取引ス可キ品ヲ契約スルモノトス。

相互ノ信用調査ハ興信所或ハ關係者ノ取引銀行又ハ從來取引アル他店等ニ就キ調査スルモノトス。

第三節　仕入方法

問屋カ仕入ヲ爲スニハ先ツ賣行良行ノ見込アル見本玩具ヲ適宜製造業者ノ提示セル見本中ヨリ選定シ製造業者ニ注文ヲナス、而シテ其ノ賣行狀況ニ依ツテ、第二、三回ノ追注文ヲ行フ、又問屋カ海外市場ヨリ蒐集セル見本品ニヨリテ製造業者ニ注文ヲナス場合モアリ、問屋カ製造者ニ見本ヲ提示シテ之レカ製造ヲ委託スル場合ハ大低問屋專屬ノ製造業者ニ注文ス、製造業者カ見本ヲ携帶シテ問屋ヨリ注文ヲ受クル場合ハ一般ノ製造業者ニ之レカ製造ヲ依賴スルモノトス、第二回以後ノ追注文ハ單ニ製品ノ番號ニ依ツテ仕入ヲ爲ス而シテ製品ノ納入期ハ製品ノ種類、數量、加工ノ難易等ニ從ヒテ數十日乃至ハ數ケ月ノ相違アリ。

間接取引ノ場合即チ生產地ノ問屋又ハ製造業者ヨリ大阪（川口）在留ノ支那商、又ハ輸出港ニ於ケル輸出商（支那商、外國商館、邦人輸出商）ヲ經由シテ輸出セラルル場合ハ輸出商カ見本ヲ携ヘテ問屋又ハ製造業者ヲ訪レ之レカ製造ヲ

依賴スルコトアルモ、普通ノ時ハ生産地問屋又ハ製造業者ハ自家店員ニ見本ヲ携帶セシメ輸出商ヨリ注文ヲ受ケルモノトス、直接輸出ノ場合ハ其ノ仕向地ノ何處タルヲ問ハス、海外輸入商ハ在外支店、邦人貿易商又ハ輸入國ノ貿易商ナレハ比較的近接セル地方ヘハ直接彼地ニ店員ヲ派遣セシムルカ又ハ從來取引アリシ取引商ト商談セシムルカノ方法ヲ採リ文書又ハ電報ヲ以テ爲スヲ普通トス。

第四節　商品受渡ノ時期及場所

大阪ニ於ケル輸出商カ大阪川口支那商ト取引契約ノ場合ハ勿論、我生産業者又ハ輸出商カ支那上海ニ出張シ契約シタル場合ニシテ大阪川口關係ノモノハ大阪ニ於テ現品ノ受渡ヲ行フ、此ノ場合概ネ持込渡ニシテ賣主タル邦商ヨリ支那商ノ店舗又ハ倉庫若ハ稅關迄持込ミテ受渡ヲナスモノトス、其ノ際支那商ハ現品ヲ檢査シ秤量ヲ要スルモノハ自己ノ衡器ヲ以テ自ラ之レヲ秤量シ以テ受渡ヲ了スルモノトス。

東京地方ノ者カ支那上海ニ着荷セル場合ニハ船會社倉庫ニ於テ倉出シニ際シ受渡シ、又ハ契約者營業所迄運搬シテ受渡ス場合モアリ、本品ノ需要時期ハ舊正月前トスルヲ以テ上海地方ハ十一、十二月頃荷渡スルモノ多シ。

歐米方面ヘノ取引ハ受渡ノ時期ハ契約次第ニヨリ注文ヲ受ケテヨリ三ケ月乃至六ケ月以內ノ荷渡契約ヲ爲スヲ普通トス、受渡場所ハf、o、bノ契約卽買手側指定ノ店迄ノ運搬費ヲ賣手側ノ負擔トシ同所ニ於テ受渡ス又契約ニヨリ買手側指定ノ港ニテ受渡ヲナスモノトアリ。

c・i・f・取引ノ受渡場所ハ普通稅關倉庫ヲ以テ場所トス。

現物取引ノトキハ買手ノ店又ハ倉庫渡トス。

地方ヘ輸送スル商品ハ鐵道停車場(又ハ汽船波止場)カ受渡ノ場所トス。

第五節　代金支拂ノ時期及方法

輸出業者ヨリ外國輸入業者ニ取引セラルル場合、又輸出港問屋ヨリ在留外國商館ノ手ヲ經テ輸出セラルル場合ノ取引ニ於テハ共ニ荷物發送ト同時ニ荷爲替手形ヲ振出スヲ常トシ期限ハ普通六十日拂トス。

大阪川口支那商ノ對在支本部商トノ取引ハ他ノ雜貨類ノ取引ト同樣十五日、三十日ノ二回トシ六十日後拂約束手形ヲ振出スコトアリ、川口支那商ニハ北支ノモノ南支ノモノノ二樣アレトモ南支商ハ普通上海東洋莊ノ本支店關係又ハ代理店關係ナルヲ以テ支那人舊來ノ商習慣ニヨリ節期拂又ハ年末決濟ノ方法ニ依ルモノ多シ中ニハ着荷後一ケ月又ハ二ケ月後ニ送金スル向モアリ。

支那百貨店ヘノ取引ハ同百貨店ヨリ店員ヲ本邦ニ出張セシメテ直接或ハ在本邦代理店ヲ通シテ購入スル場合ハ仕入代金ヲ代理店ヲシテ支拂ハシメ代理店ト支那百貨店(上海)トノ勘定ハ隨時決濟ス。

又本邦生産業者又ハ輸出業者カ支那百貨店ニ見本品ヲ持參シタル際注文ヲ受クル場合ハ、出張員ト取引關係ニアル邦商ハ代理的行爲ヲ執リ、荷渡後代金ノ支拂ヲ受ク、而シテ一流百貨店ハ一流銀行ト取引アルヲ以テ卽日拂ノ銀行小切手ヲ振リ出スヲ得ルモ其他ノ者ハ支那錢莊發行ノ支票(五日又ハ十日付)ヲ以テ支拂フモノトス。

對米輸出ノ場合ニ於テハ米國商館ノ日本ニ在ル本店、支店カ米國ニ輸入スル場合ハ D/A 手形期限六十日乃至九十日ヲ普通トス。

其他本邦輸出商ト在米國商館トノ取引ノ場合ニハ信用狀ヲ發行シテ之レニヨリテ決濟スルヲ普通トス。

南米トノ取引ノ場合ニハ南米ニ於ケル邦商ト我生産業者又ハ輸出商ト直接取引ノ場合多ク船荷證券引換拂トシ信用狀發行ノ場合又ハ内金前拂等ヲ要求スル向モ無キニシモ非ス。

南米在留邦商ニハ現金取引ト稱シテ賣渡シテ後一ケ月位ノ支拂猶豫ヲ與ヘ居ルモ、普通九十日位ノ延取引トシ、中ニハ百二十日乃至百八十日位ノ掛賣リモアリ。

第六節　數量及品質檢査ノ方法、時期、場所

本品ハ輸出ノ場合、内地卸賣ノ場合共ニ品物ノ包裝個數ハ積荷狀ニ明示セラレ居ル故其ノ外見ヲ確メル事ハ容易ナリ、其内容數並品質ノ如何ニ至ツテハ一々開包シ檢査スルヲ要ス、然シ遠隔ノ地ニ在ル賣買兩者カ現場ニ立合檢査ヲスルコト不可能ナルヲ以テ其ノ場合ノ檢査ハ買手側ニノミ委任シ居ル狀況トス、卽輸入業者カ自己店内又ハ倉庫内ニ於テ現品ヲ適宜開函檢査スルモノトス。

比較的ニ近距離ノ場合ニ於テ萬一數量及品質ニ相違アリタル場合ハ直チニ賣手側ニ通知シ、兩當事者立合ヒ取調ノ上解決シ原因事情ヲ調査シ互ニ適當ナル解決ヲナス。

c・i・f・取引ノ場合ハ海上保險ニ關スル損害等ノ如ク時効ニヨリ要求カ容レラレサルコトアルヲ以テ、着荷次第ナルヘク早ク稅關倉庫ニテ檢査スルヲ必要トス。

米國方面ハ汽船會社埠頭又ハ倉庫ニテ商品ヲ受取ル場合ノ如キハ即チ受渡ノ時期及場所ト云フ可ク、夫レ以外ニ特殊ノコトナシ、着荷ノ際ノ檢査ハ買主ノ權限ニ屬ス。

第七節　危險ノ負擔ノ關係及**クレーム**

一般ニ輸出玩具ノ輸出港ヨリ海外ノ華客ノ手ニ入ル迄ノ危險ハ德義上輸出商ニ於テ之ヲ負擔ス、即チ取引商品ニ付テ充分檢査シ、完全ナル商品ヲ輸出スルモ萬一荷造方法ニ欠點（**ボール**函ノ大キ過キル爲メ）等アリテ運送中破損ヲ生スル場合ハ其個數ニ對シ輸出商ハ破損品ノ價額ノミナラス其ノ物ニ對シ華客先ニ於テ支拂ヒタル稅金ヲモ加算シテ損害賠償ニ應スル事トス、（但シ電球等ノ場合ニハ最初ノ契約ニ基キ例令ハ到着ノ際三分迄ノ破損ハ客先ノ負擔トシ夫レ以上ハ貨主ノ負擔トスル約束モアリ）。

又彼ノ地ニテ荷揚ノ際波止場或ハ稅關構内ニテ外函カ破損シ居ルコトヲ荷扱人或ハ荷受人本人ニテ發見セシ場合ニハ其ノ荷物ヲ引取ラスニ直チニ船會社及保險會社ニ立會ヲ請求シ其ノ上ニテ函ヲ開キ、中味ノ破損アルトキハ夫レニ對シ苦情ヲ申込ム事トナリ居レリ、右ノ際其ノ責任カ船會社或ハ保險會社ノ責任ニ屬スルカハ兩社立會ノ上事故直チニ判然スルモノトス、破損ノ程度ニテ荷物ヲ引取リシ上ニテ**クレーム**スル事トナレハ稅金ヲ支拂ハネハナラス其ノ際ハ勿論稅金ヲ含ミタル金額ノ**クレーム**ヲ申込ム事ヲ得、全破損セル場合ハ波止場ニテ品物ヲ破棄スルカ或ハ競賣ニシテ其ノ賣上高ト保險ノ價額トノ差丈差引キシテ殘額ノ請求ヲスルモノトス。

若シ荷主ノ不注意ニテ外函破損ノ儘ニテ自分ノ倉庫ニ取入レシ場合ハ責任ハ自分ノ負擔トス、尙又**クレーム**スルニハ荷揚ハ何日間トカ期日カアル筈トス。

一般玩具取引ノ場合ニ輸出商社カ華客ノ注文ヲ入手シ之ニ基キ甲ニ或ル玩具ヲ注文シ若シ甲カ約束日限内ニ納入ナササル場合ニ於テ、先方華客先トノ契約期間ニ餘裕アレハ直チニ乙ノ製造家ニ再注文ヲ發シ甲トノ契約ヲ破棄スルコト

アリ、然レトモ既ニ日限迫リ餘裕ナキ場合ハ華客先ニ交渉シテ日限ヲ更ニ延期セシムルコト必要ナリ、此際場合ニヨルト先方華客先ニ對シ契約不履行ノ爲メ罰金ノ申込ニ應スルベク餘儀ナクセラルル場合アリ、又ハ場合ニヨツテハ華客先ニ於テ彼ノ地ノ市場ニテ在庫品ヲ仕入レ輸出商トノ最初ノ契約値段ト新タニ仕入セシ直段トノ差金ヲ輸出商ニ支拂ハシムルコトモアリ、商品ニ瑕疵或ハ破損アル場合ハ輸出商即注文引受者ノ責任トスルコト。

第八節　貸倒等ノ危險率

玩具ノ對支取引ハ主トシテ支那慣習ニ依ル支拂方法ニヨル右慣習ハ多少貸倒レヲ生スルモ最初ニ相手方ヲ充分調査シテ取引ヲ爲スカ故ニ其ノ割合ハ極メテ尠ナシ、又買辨名儀ニヨリ取引シタルモノハ責任ハ買辨ニ於テ負フモノトス、對米其他諸國ノ取引ニハ大低信用程度ヲ調査シ取引ヲ開始シ、荷爲替手形ヲ以テ決濟セラルルカ故ニ損害又ハ危險ハ實際アラサルモノト見テ差支ナシ、但シ相手方カ破產、倒產等ノ爲メ手形不渡トナル場合ハ例外トス、然レトモ斯カカル場合ハ極メテ稀ナリトス。

第九節　包裝方法

包裝材料ハ紙、段**ボール**紙、藁、木綿等ヲ主タルモノトシ玩具ノ種類ニ應シテ種々雜多トス、一般ニ安物ノ細カキモノ例ヘハ**セルロイド**玩具ノ極メテ小サキモノ又ハ金屬玩具ノ所謂流シモノノ細カキモノハ一哥入ノ紙箱五十箱ヲ包裝セルモノアリ又ハ稍大形ノモノハ一打入ノ紙箱百箱ヲ一箱トシテ包裝セルモノ等アリ。**セルロイド**玩具以外ノモノハ一個ヲ紙箱ニ入レタルモノ又ハ多數ノ紙箱ニ入レシモノヲ更ニ木箱ニ包裝スルヲ常トスルモ、地方ニヨリテハ運賃及輸入稅(本稅及附加稅又ハ重量稅)ノ關係上容積ニ對シ徵收セラルルヲ以テ、斯ル場合ニハナルヘク多ク詰込ム主義ヲ採リ紙箱ニ容レス單ニ紙包ノママ木箱ニ容レルコトヲ希望スル向モアリ、然レトモ本邦ニテハ未タ餘リ此ノ方法ヲ採ラサルモノノ如シ、木箱ノ大小ハ内容玩具ノ容積及重量ニ依リ一定セス、普通十才ヨリ十四、五才迄ノモノ最モ多シ。

第十節　價格及其構成內容

本品ノ取引ハ普通c・i・f値段ニ依ルモノニシテ、其ノ內容左ノ如シ。

1、原　價(f・o・b・輸出港)

其內容、**イ**輸出商ノ製造所ヘ支拂フヘキ價格、(**ロ**)輸出業者ノ手數料(普通五分見當少ナクトモ三分)、(**ハ**)箱代及包裝材料(普通三圓乃至五圓見當)、(**ニ**)積出運搬費其他(普通一箱一圓見當)。

2、海　上　運　賃

東京―上海間	一噸(容積)ニ付七圓五十錢	
橫濱―桑港間	同(1)普通玩具米貨	三弗六十錢
	(2)**セルロイド**玩具	四弗
	(3)高級玩具	十弗
日本―南米(**ヴエノスアイレス**)	四十才噸ニ付　邦貨	三十五圓
日本―紐育	**セルロイド**玩具百封度ニ付	九十仙

パナマ經由運賃　一般玩具　同　七十仙
一噸ニ付　十弗五十仙

3　海上保險料

東京―上海間　百圓ニ付二十錢
日本―桑港　價格ノ千分ノ三乃至十五
日本―南米　百圓ニ付邦貨四十錢位

第十一節　取引上ノ機關、組合及團體

本邦ニハ玩具取扱ニ關スル特殊ナル機關ト云フ可キモノ無シ、支那上海ニハ東洋莊ト稱スル支那商ノ團體アリテ大阪關係ノ對支貿易品主トシテ本邦雜貨ヲ取扱フ、此ノ團體ハ一種ノ組合組織ナリ、而シテ大阪方面ノ玩具商ハ年ニ一、二回上海ニ出張員ヲ派遣シ大阪市役所產業部附屬ノ在上海貿易調査所ノ陳列室(又ハ他ノ場所)ニ於テ携帶セル見本ヲ陳列ス、此ノ場合ニハ同調査所ヨリノ通知ニ依リ主トシテ前記東洋莊ニ屬スル卸賣又ハ小賣商人同所ニ參集シ右見本ニ依リ注文ヲ爲ス、從テ同所ハ一種ノ取引機關ト見ルヲ得可シ。

當業者ノ組合トシテハ重要物產同業組合法ニヨル東京玩具卸商同業組合、東京玩具製造同業組合、大阪玩具同業組合ノ如キト重要輸出品工業組合法ニヨル東京輸出**セルロイド**玩具工業組合、大阪輸出**セルロイド**玩具工業組合、大阪**セルロイド**生地工業組合、名古屋輸出樂器工業組合等ノ如キモノアリ、其他輸出玩具問屋ノ協會又ハ原料商ノ團體、**セルロイド**生地業者ノ團體アリ。

東京玩具卸商同業組合

本組合ハ明治四十一年九月十七日設立セラレ目下組合員數百二十三人ニシテ組合ノ地區ハ東京市、荏原郡、北豐島、南足立、南葛飾、南多摩、北多摩、西多摩、豐多摩ノ一市八郡トシ、本組合定款ノ定ムル所ニ依レハ組合員和親協力一致シテ營業ノ發達ヲ圖リ弊害ヲ矯正シ信用ノ保持ト利益ノ增進ヲ以テ目的トス、本組合ハ玩具卸賣營業者ヲ以テ組織ス。

東京玩具製造同業組合ハ舊金屬玩具製造同業組合ニシテ現在ニ於テハ百四十名ニヨリ組織セラレ、金屬玩具製造業者九十九名、一般玩具五名、木製玩具四名、樂器三名、紙製三、布製二、籐製一、玩具關係**ブリキ**印刷者十一名玩具關係各種製作所九名其他十三名ヲ包含ス。(組合人名省略ス)

(折込第一、第二入ル)

製品検査合格證票

小證票

自四吋
至八吋 ノ玩具ニ貼付

中證票

自八吋半
至十六吋 ノ玩具ニ貼付

大證票

十六吋以上ノ玩具ニ貼付

外装證票

大

LUOID TOYS MANUFACTURERS ASSOCIATION

PASSED

ELLULOID TOYS

CTION BUREAU JAPAN

LULOID TOYS MANUFACTURERS ASS

BY THE TOKYO CELLULOID TOYS MANUFACTURERS ASSOCIATION

PASSED

CELLULOID TOYS

INSPECTION BUREAU JAPAN

大

外裝證票

小 證

自四吋
至八吋 ノ 玩

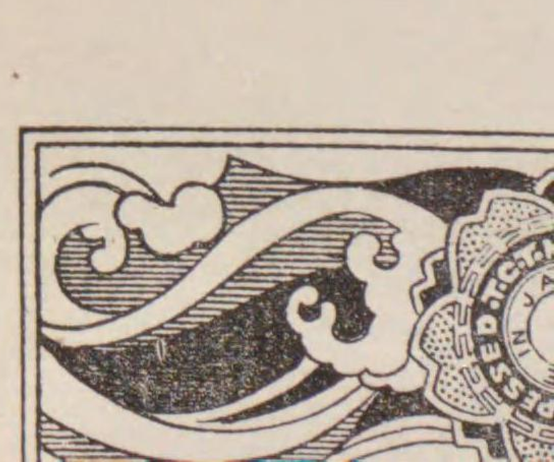
中 證

自八吋半
至十六吋 ノ 玩

大 證

十六吋以

ニ貼



THE TOKYO CELLULOID TOYS MANUFACTURERS ASSOCI

PASSED

小

IMPERIAL LIBRARY

製品検査合格証票

小証票

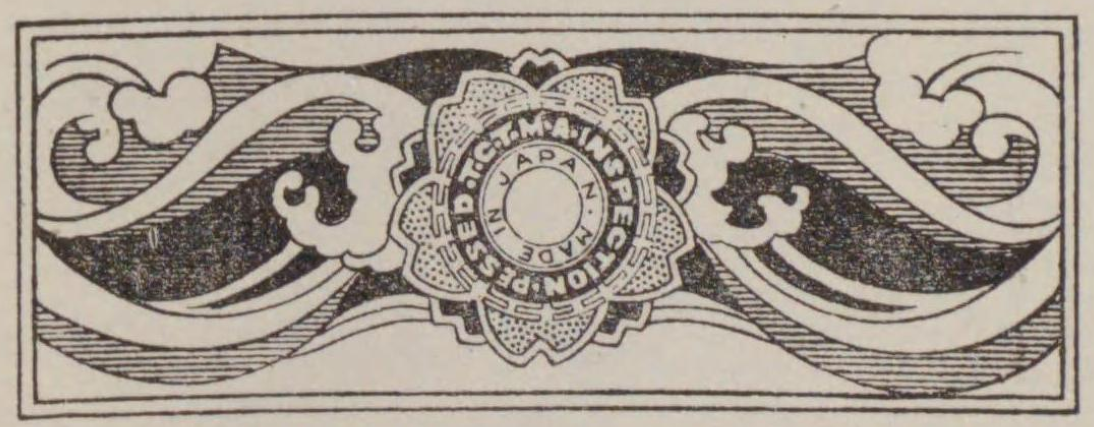
自四吋至八吋ノ玩具ニ貼付

中証票

自八吋半至十六吋ノ玩具ニ貼付

大証票

十六吋以上ノ玩具ニ貼付



櫛用証票

外装証票

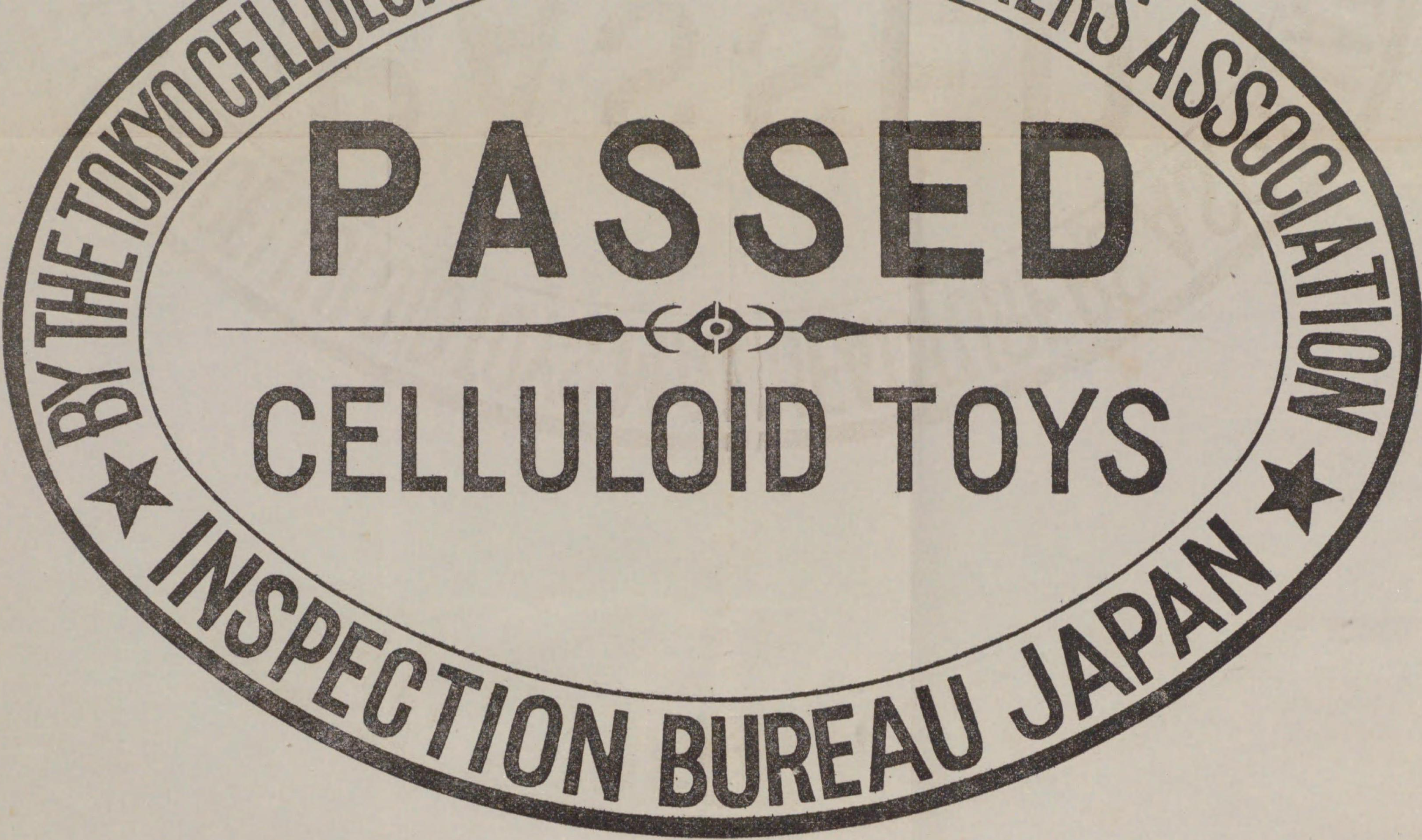
大

小

自四吋
至八吋

外裝證票

大



中
自八吋半
至十六吋

大
十六吋

小

櫛

東京輸出セルロイド玩

外裝證明申

品名		仕
數量		
外裝種類		
個數		
經由地		
在貨場所		
外裝證明料	圓　錢	
出張料	圓　錢	
合計	圓　錢	

上記ノ收容品ハ検査合格
致候間外裝ニ付御證明相

昭和　年　月　日　申請人

本申請ニ基キ昭和　年　月　日

備考

東京輸出**セルロイド**玩具工業組合

外装證明申請書

		仕向先	價格		開函
名					
量					
類					
數					
地					
所					
料	圓 錢				
料	圓 錢				
計	圓 錢				

記ノ收容品ハ檢査合格品ニ相違無之輸出
候間外装ニ付御證明相成度申請候也

和 年 月 日 申請人

基キ昭和 年 月 日 ニ於テ證明ヲ了ス

檢査員

東京輸出**セルロイド**玩具工業組合

檢査申請書

第 號

昭和 年 月 日

申請人

品名	品番 #	製造人	
生地		檢査手數料	圓 錢
數量	哥 打 個	出張料	圓 錢
打重量	匁 分	出張旅費	圓 錢
價格	圓 錢	計	圓 錢
價格計	圓 錢	檢査場所	

上記之通リ檢査相成度候也

檢査成績表

品名		合格證紙貼用數	包裝一個 打 個入 打 個入 個
數量	哥 打 個		
合格數	哥 打 個	檢査着手	月 日午前後 時 分
不合格數	哥 打 個	檢査終了	月 日午前後 時 分
不合格區分	第 號 打 個	檢査員	助手
	第 號 打 個	備考	
	第 號 打 個		

東京輸出セルロイド玩具工業組合

外裝證明申請書

品名		仕向先	價格		開函
數量					
外裝種類					
個數					
經由地					
在貨場所					
外裝證明料	圓　錢				
出張料	圓　錢				
合計	圓　錢				

上記ノ收容品ハ檢查合格品ニ相違無之輸出致候間外裝ニ付御證明相成度申請候也

昭和　年　月　日　申請人

本申請ニ基キ昭和　年　月　日　ニ於テ證明ヲ了ス

備考		檢查員

東京輸出

檢

第　號

品名	
生地	
數量	哥　打
打重量	匁
價格	圓
價格計	圓

上記之

檢

品名	
數量	哥　打
合格數	哥　打
不合格數	哥　打
不合格區分	第　號　打
	第　號　打
	第　號　打

東京輸出セルロイド玩具工業組合製品檢查施行細則

第一條　製品檢查ヲ受ケントスルモノハ所定ノ用紙ニ記入調印シ檢查手數料及現品ヲ添付シ檢查所ニ之ヲ持參スヘシ

第二條　左ノ場合ハ理事ニ於テ審查シ已ムヲ得サル事由アリト認メタルトキハ其ノ工場又ハ店舖ニ於テ出張シテ檢查ヲ行フコトアルヘシ

一、相當ノ月額數量ヲ有シ集合檢查所ノ位置ヲ距ルコト十町以上ノ場所ニ工場又ハ製品ヲ常置スル倉庫又ハ店舖ヲ有スルモノニシテ事由ヲ具シ申出タルトキ

二、前項ノ距離十町以內ト雖モ受檢數量巨額ニ上リ一般ノ受檢人ニ對シ受檢上甚タシキ支障ヲ生セシムト認メラルル場合

第三條　相當ノ月額受檢數量ヲ有スルモノハ檢查料ヲ前納シ置キ受檢ノ都度差引勘定ヲナスコトヲ得

前納金ハ不足ニ至ラサル前ニ於テ必ス之ヲ補塡スヘシ

前項ノ補塡ヲ怠リ又ハ月額受檢數量ノ減少ヲ來シタル場合ハ前納金ノ取扱ヲ停止ス

第四條　受檢品ニハ毎品ニ記號ヲ付スヘシ

但毎品ニ記號ヲ付シ能ハサルモノ又ハ其ノ意匠ヲ損スル虞アルモノニ就テハ最小ノ容器又ハ包裝上ニ表示シテ之ニ代フルコトヲ得

第五條　檢査ハ總テ其全部ニ付之ヲ施行ス

但總數ノ三分ノ一以上ノ毎品檢査ヲナシタル後檢査員ノ見込ヲ以テ殘餘ノ製品ニ付簡易檢査ヲナスコトヲ得

右ノ場合ト雖モ全部ニ對スル檢査料金ヲ徴收ス

第六條　檢査事務ハ毎年四月一日ヨリ十月末日迄ハ午前八時ヨリ午後五時迄十一月一日ヨリ翌年三月末日迄ハ午前九時ヨリ午後五時迄トス

第七條　大祭祝日及本組合創立記念日十二月三十日ヨリ翌年一月五日迄及第一及第三日曜日ハ檢査事務ヲ休業ス

第八條　取引上急ヲ要スル場合ハ第六條及第七條ノ規定ニ拘ハラス檢査ヲ受クルコトヲ得

此ノ場合ト雖モ檢査時間ハ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於ケル檢査手數料ハ普通料金ノ二倍トス

第九條　檢査員ハ職務上必要ト認ムルトキハ工程中其工場ニ就キ隨時下檢査ヲナスコトヲ得

第十條　第二條ニ於ケル出張檢査ニ付テハ檢査員一人一回ニ付出張料金一圓五十錢ヲ徴收ス

受驗場所本組合ノ地區外ナルトキハ前項ノ外所要ナル實費額ヲ徴收ス

但横濱市大阪市及神戸市ニ於テ書記又ハ檢査員派出所ヲ設ケタル場合ハ同市内ニ限リ地區内ノ規定ヲ準用ス

賦課金徴收規定（東京輸出**セルロイド**玩具工業組合）

第一條　本組合賦課經費ハ等級割トシテ過去一ケ年ニ於ケル製造額及其ノ製造設備ヲ基準トシ一等ヨリ八等ニ分チ左表ノ如ク徴收ス

賦課金徴收等級別表

等級	一ケ年製造額	賦課金月額
一等	三十萬圓以上	二十五圓
二等	二十萬圓以上	十五圓
三等	十萬圓以上	十圓
四等	五萬圓以上	七圓
五等	三萬圓以上	四圓
六等	一萬圓以上	二圓
七等	五千圓以上	一圓
八等	五千圓未滿	五十錢

第二條　前條ノ決定ハ毎年度定時總代會ニ於テ之ヲ爲ス新ニ加入シタル組合員ニ對スル定時總代會開催迄ノ賦課金徴收ノ査定ハ前條ノ規定ニ從ヒ理事之ヲ爲ス

第三條　賦課金ハ毎月一回組合事務所及ハ共同檢査所ニ對シ納付スヘシ

第四條　賦課金ノ納付ヲ怠リタル組合員ニ對スル手續ハ定款ノ規定ニヨル

第五條　月ノ中途ニ於テ加入又ハ脱退シタル場合ト雖賦課金ハ凡テ其ノ一ケ月分ハ徴收スルモノトス

大阪輸出**セルロイド**玩具工業組合ノ事業トスル處ハ組合員ノ製品其ノ原料材料及製造若ハ加工ノ設備ニ對スル檢査並

取締ヲナスコト
取引價格ノ協定又ハ生産ノ調節ヲナスコト
組合員ノ委託ニヨリ原料材料燃料等作業上必要ナル物品ヲ共同ニ購入シ組合員ニ供給ヲナスコト
組合員ノ委託ニヨリテ其ノ製品ヲ共同ニ販賣スルコト
組合員ノ委託ニヨリ加工ヲナスコト
組合員ノ委託ニヨリテ荷造運搬及保管ヲナスコト
組合員ノ發明ニ付保護ヲナスコト
組合員共同ノ利用ニ供スヘキ諸般ノ製造若ハ加工ノ設備ヲナスコト
海外市場ノ調査販賣並販路擴張ニ關スル施設ヲナスコト
加工用型ニ關スル取締及協定ヲナスコト
製品原料及材料若ハ製造及加工改善ニ關スル試驗及研究ヲナスコト
職工ノ教育講習講話ヲナスコト

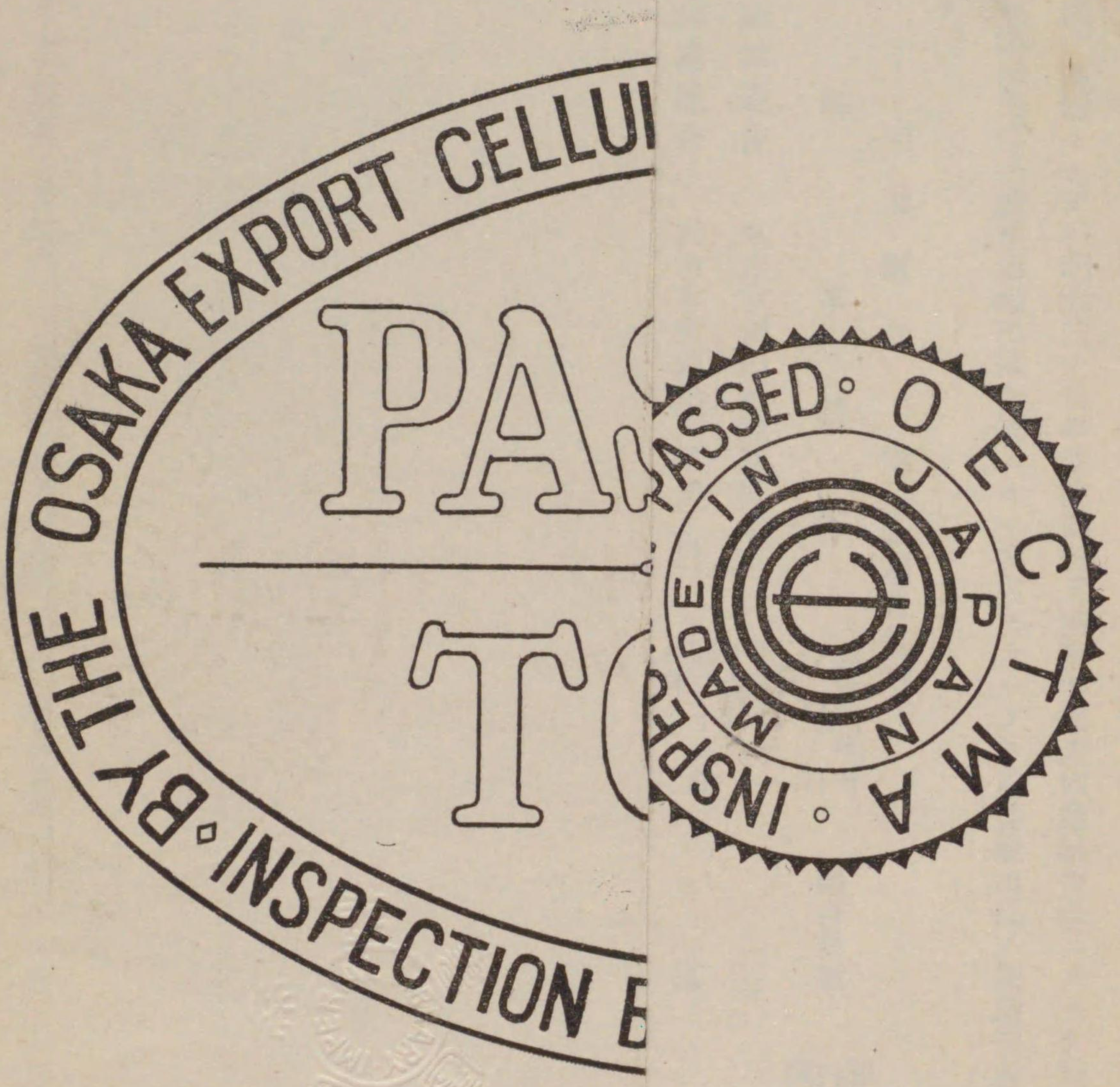
製品檢査ハ合格不合格ニ區別シテ之ヲ行ヒ合格品ニ對シテハ合格證ヲ貼付ス
本組合ニ於テ行フ檢査標準ハ大正七年農商務省訓令第十七號ニ準據シテ行フ
製品檢査ノ手數料ハ査定標準價格ノ千分ノ五ヲ徴收ス
但シ組合員ニ非サルモノニシテ本組合ノ製品檢査ヲ受ケムトスルモノニ對シテハ其ノ千分ノ十五ヲ徴收ス
前項ノ査定標準價格ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

セルロイド玩具中直徑四吋ヲ超ユル玩具ハ昭和三年十二月商工省令第十六號、改正重要輸出品取締規則第一條第七項ニ**セルロイド**製品中櫛、長又ハ直徑四吋ヲ超ユル玩具ハ一般**セルロイド**製品ト同樣ニ重要輸出品檢査標準（昭和三年七月商工省訓令第五號）ニヨリテ左記各項ニヨリテ檢査ヲ施行スルコトニナリ居レリ。

一、變形又ハ變色ノ虞アル生地其ノ他ノ不良ノ生地ヲ使用シタルモノ
二、生地カ製品ノ大ニ比シ薄キニ過クルモノ
三、形態正シカラサルモノ
四、甚シク瑕疵アルモノ
五、裝飾物ノ脱落シ易キモノ
六、接合部ノ離レ易キモノ
七、仕上不良ナルモノ
八、離脱シ又ハ溶解シ易キ彩色ヲ施セルモノ
九、輪櫛ニシテ長六寸未滿ナルモノ
一〇、櫛ニシテ齒、齒元又ハ齒先ノ甚タシク不揃ナルモノ
一一、玩具ニシテ其ノ彩色有毒ナルモノ
一二、玩具ニシテ彈力乏シキ接續用護謨紐又ハ不安全ナル附屬品ヲ使用シタルモノ
一三、前各號ノ一ニ該當セサルモ實用ニ適セスト認ムルモノ

（折込第三入ル）

（外 檢査合格證紙雛形）


BY THE OSAKA EXPORT CELLUL
INSPECTION B
PA
TO
PASSED · OECTMA
INSPEC
MADE IN JAPAN

(外裝證紙雛形)

BY THE OSAKA EXPORT CELLULOID TOYS MANUFACTURERS ASSOCIATION

PASSED TOYS

INSPECTION BUREAU JAPAN

(檢査合格證紙雛形)

INSPECTION PASSED · OECTMA

MADE IN JAPAN

玩具ノ當業者間ノ團體トシテハ明治三十三年法律第三五號重要物産同業組合法ニヨリテ設立セラレタル左記ノ同業組合並大正十四年法律第二八號重要輸出組合法ニヨリ設立セラレタル重要輸出品ノ製造業者ニヨリテ組織セラレタル左記工業組合アリ。

同業組合一覽（昭和五年現在）

名稱	事務所	設置認可年月日	組合員數	組合地區内製造販賣額	組長
東京玩具卸商同業組合	東京市神田區豊島町十三	明治四十一年九月	一三三	一三、〇六〇	倉持長吉
東京翫具製造同業組合	同市本所區松井町三丁目	同三十九年九月	一七四	一、六〇一	北川末吉
大阪翫具卸商同業組合	大阪市東區神崎町五四	大正三年八月	四九二	四、五八六	新東綱三郎
大阪セルロイド同業組合	同市東成區猪飼野一一四一	同三年十一月	三八二	三、九九六	浦山律
箱根物産同業組合	神奈川縣小田原町幸一丁目二一	明治四十二年十一月	四三四	一、二八二	山田吉兵衛

工業組合ハ組合員ノ製品其ノ原料若ハ材料又ハ製造若ハ加工ノ設備ニ對スル検査其ノ他必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設、組合員ノ營業ニ關スル指導、研究調査、其他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スモノニシテ、組合員ノ委託アリタルトキハ組合ハ其ノ製品ノ加工若ハ販賣又ハ組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ。

工業組合一覽

名稱	事務所	設立認可年月日	出資總額	理事長
東京輸出セルロイド玩具工業組合	東京市淺草區瓦町二六	昭和二年二月	五六、〇〇〇圓	藤安藤五郎

大阪輸出セルロイド玩具工業組合　大阪市東成區東小橋八五　昭和二年八月　三〇、〇〇〇　小山勝之助

名古屋輸出樂器玩具工業組合　名古屋市中區松元町一ノ三九　同　二年十一月　三一、〇〇〇　堀田吉三郎

尙名古屋市ニ於テハ準則組合トシテ同市ニ於ケル製造業者及一般問屋約四十名ヨリ組織セラレタル名古屋玩具商組合（名古屋市中區南武平町四丁目二十一番所在）アリ本組合ノ目的大略次ノ如シ。

一、組合員ハ協同一致德義ヲ重ンシ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持シ斯業ノ發展ヲ計ルコト

二、貿易向品ヲ製出シ海外販路ノ擴張ヲ計ルコト

三、時代ニ適應スル新規ノ考案者ニハ相當ノ褒賞ヲ與フルコト

四、物品ニ依リ信用保全上販賣價格ヲ一定スルコト

五、右ノ外組合ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル諸般ノ施設ヲ爲スコト

次ニ生地仲買業ノ團體並主ナル業者ヲ擧クレハ左ノ如シ。

セルロイド生地仲買業十日會

東京市外日暮里町谷中本九九八　石川勇
同　市外尾久町上尾久一八二〇　石崎又四郎
同　寺島町二六〇一　石川定次郎
東京市下谷區金杉上町四〇　石川長司
東京市外龜戸町五ノ二〇　稻垣道輔

同　同　龜戸町一ノ一九〇　若泉伍市
同　同　吾嬬町大畑六二四　川戸巳之助
同　淺草區小島町八　根本福藏
同　市外吾嬬町請地一一〇二　久保田嘉藏
同　同　龜戸八ノ三一　矢崎包茂
同　同　町五ノ二〇五　小淵深志
同　同　寺島町二五八二　青木政最
同　同　亀戸町八ノ二　酒井藤藏
同　同　寺島町九三五　鈴木善藏

東京**セルロイド**原料商八日會

東京府下日暮里町金杉一四一二（會長）沼田長治
同吾嬬町木ノ下二八五（副會長）佐藤健治
同　龜戸町五丁目二七二（會計）田中勝定
同　同　町四丁目二一四（幹事長）增子貞
同　寺島町請地一二四七　稻毛福次
東京市本所區向島小梅町二五三　伴傳吉

同　府下亀戸町五丁目二一九　館岡辰藏
同　日暮里旭町三丁目三九二　内田作次郎
同　三河島字高畑五一四　増淵威夫
同　三河島町町屋三九三　近藤新市
同　本田町澁江三六　森野喜作
同　日暮里町元金杉一八一四　棚橋重藏
同　本田町上木下川三一四　増子三左エ門
同　三河島町町屋六六二　及川庄七
同　寺島町請地一二四七　渡邊新十郎
同　三河島町字新堀八九六　館岡章吉
同　町町屋一（遠藤眞一方）　高橋貫吾
同　亀戸町五丁目二四〇　長島數太郎
同　三河島町二九七七　則崎峯吉
同　尾久町赤土六〇九　山田長兵衛
同　三河島町一二二　山村仁藏
同　亀戸町五丁目三六　増子吉兵衛
同　日暮里町日暮里四二五　小谷野亀太郎

東京府下吾嬬町木ノ下八二五（佐藤方）　齋藤請二
同　瑞江村増田橋二七八一　水島辰五郎
同　吾嬬町請地三三〇　板倉ヤス
東京下谷區竹町一〇　田中セノ
同　淺草區永住町一二七　木澤ウメ
府下三河島町蓮田一四一　沼田ヒツ

東京輸出玩具問屋協會

日本橋區馬喰町一丁目　豊田屋商店
同　同町　三丁目　萩村商店
淺草區小島町一六　合名會社 風間商店
日本橋區横山町一ノ二　株式會社 山初商店
淺草區旅籠町三　萬綱商店
同　小島町一丁目　合名會社 相場商店

第十二節　金融關係

玩具業者ト銀行業者トノ金融上ノ關係ハ一般他ノ商品ト同樣ノ關係ニ置カレ各産地ニ於ケル當該地方ノ銀行業者ト關係アル事ハ勿論トシ輸出業者ハ横濱正金銀行、臺灣銀行、朝鮮銀行、第一銀行、三井銀行、三菱銀行、住友銀行ト取

引關係ヲ有シ輸出先トノ關係ニアリテハ上海香上銀行、**チヤーター**ド銀行等ノ如キ各外國銀行ト取引關係アリ。

輸出向玩具ハ多クノ場合需要者ノ注文ニヨリテ製造ヲ開始スル關係上、現品ヲ需要者ニ引渡シタル際ハ、其ノ月末或ハ一定ノ勘定日ニ現金拂ヲナスコト他ノ一般商品ト同様トス、又海外直輸ノ場合ハ輸出荷爲替手形ニ依ル概シテ輸出向玩具即**セルロイド**玩具ノ如キモノニハ有力ナル資本金ヲ擁シテ直輸出ヲナスモノアルモ、小資本ニテ製造スルモノ尠カラサレハ此ノ如キ比較的小資本ノモノニ於テハ一時問屋筋又ハ輸出商ヨリ機械又ハ型其他ノ設備等資本ノ融通ヲ仰ク、金屬、陶磁器、木製、綿布帛、紙、其他ノ玩具製造業者ニシテ直輸出ヲナスモノハ極メテ尠ナク、從ツテ一、二大資本ノ輸出向陶磁器玩具製造業者ヲ除キ他ハ一般ニ輸出貿易商又ハ問屋筋ヨリノ資金ノ融通ヲ仰ク次第トス。

今試ニ本邦會社統計ニ據リ我**セルロイド**業諸株式會社ノ公稱資本金（拂込資本金、積立金、純益金、配當金其他ニツキ査スレハ左表ノ如クニシテ概シテ前年度ヨリモ純益金ニ於テ增進シ居ルヲ見ル、尙同業ノ合資會社ノ出資額其他ニツキ調査スルニ次表ノ如クニシテ昭和四年ニ於テ大イニ增資セラレタルヲ認ム。

セルロイド業諸會社公稱資本其他ノ調査表（單位圓）（株式會社ノ部）（會社統計表ニヨル）

	昭和四年	同三年	同二年	同元年
社數	一七	一七	一三	一三
公稱資本金	一五、〇九五、〇〇〇	一四、八六五、〇〇〇	一三、五二五、〇〇〇	一三、六〇〇、〇〇〇
拂込資本金	一三、六五九、〇〇〇	一三、六二四、〇〇〇	一三、三二四、〇〇〇	一三、〇二二、五〇〇
社債額	—	—	—	—
積立金	三、九〇九、七四六	三、四三二、八四一	二、九三〇、八四二	二、六三三、九〇四
純益金	一、六九六、七六一	一、九〇四、五五九	一、八五九、〇七九	一、三七〇、〇九五
配當金	八六一、八〇〇	八六七、三三三	七一九、〇〇〇	八六一、二六七
純損金	六四、二八五	二三四、四二二	九六、三六七	一八、九九二

セルロイド製造業出資額其他ノ調査表（單位圓）（合名會社ノ部）（會社統計表ニヨル）

	昭和四年	同三年	同二年	同元年
社數	四	一	四	三
出資額	一六五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	三七七、五〇〇
積立金	—	—	五、七〇〇	三、二五〇
純益金	二、一六三	—	八、三三八	三三、〇〇五
配當金	—	—	二、五〇〇	六、七六九
純損金	五、二〇七	一、〇五六	—	一四、二四八

更ニ銀行業者以外ニシテ玩具業者ノ金融機關トシテハ特ニ著シキモノナキモ、滿洲方面ノ取引ノ際ニハ前述セル如ク南滿洲鐵道株式會社及關東廳、大連市役所ノ組織セル全滿洲輸入組合聯合會アリ、此ノ機關ハ支那奥地個人ノ百貨卸店ノ經營ニ對シ補助費ノ全部又ハ地方費ヲ負擔スルコトアリ。

第十三節　倉庫關係

倉庫關係ハ前述セル如ク元來本品ハ輸出商館又ハ海外輸入業者ノ注文ニヨリテ製造セラルモノナルヲ以テ、**ストツク**

ヲ生スル事ナシ、然レトモ製造兼問屋ハ往々ニシテ注文流レノ商品、又ハ他ノ種類ノ商品ト混合スル場合ノ如キ際ニ使用スル倉庫樣ノモノノ設備アルヲ以テ、特ニ自宅以外ニ倉庫業ノ倉庫ヲ使用スルモノナシ、勿論税關ノ倉庫モ使用スルコトナシ但シ汽船ノ出帆ノ都合如何ニヨリ貨物ノ停滯ヲ來スコトアリ、斯カル際ハ一時船舶業者ノ倉庫ニ保管セラルル事アリ、

第十四節 運輸狀態

本邦輸出玩具中横濱港ヨリ輸出セラルルモノハ前述セル如ク總輸出額ノ五割强ヲ占ム、之レ畢竟スルニ東京市ヲ中心トシテノ生産最モ多キニ因ル、從ツテ右生産會社ヨリ東京市内ニ於ケル問屋迄ノ運搬ハ自家用ノ手車又ハ運送會社ノ荷馬車、**トラツク**時トシテ少量ノ場合ハ自轉車、**リヤカー**等ヲ使用スルヲ常トス、而シテ東京問屋筋直輸出ノ場合輸出商渡シノ場合ハ秋葉原驛ヨリ鐵道便ニ依リ横濱或ハ大阪神戸等ニ運送ス。

神戸港ヨリ輸出セラルルモノハ總額ノ約三割大阪港ヨリ輸出スルモノ九分五厘兩港共ニ是等ノ輸出港附近ノ生産業者ヨリ問屋ニ一旦引取ラレ而シテ貨車ノ便ニヨリ大阪港又ハ神戸港ヨリ輸出セラルルモノトス。

第四章 各府縣別取引狀況

一、東京府

東京府ニ於ケル玩具ノ生産額ハ別表ニ示ス如ク各種玩具合計四百八萬圓中**セルロイド**玩具ノ百八十九萬三千圓約四割六分ヲ最高生産額トシ護謨製玩具ハ百三十九萬九千圓約三割四分ヲ第二位トシ金屬玩具ハ六十五萬四千圓即約一割五分木製玩具ハ十三萬六千圓約三分其他紙製玩具ハ僅ニ二萬圓ノ生産ヲ見ル陶磁器玩具ハ去ル昭和元年ニ八千餘圓ノ生産額アリシモ近年ハ全ク生産ヲ見ス專ラ**セルロイド**、護謨、金屬ノ各種ヲ主タルモノトシ而モ各種トモニ逐年增進ノ模樣ナルモ、獨リ護謨製玩具ハ近年幾分不振ノモノノ如シ、然レトモ一方木製玩具ハ近年著シキ增加ヲ示シタル跡顯著タリ、其他紙製玩具ハ大阪方面主タル生産地ナルヲ以テ東京方面ハ振ラサルモノノ如シ。

今各種玩具ノ主要生産業者ヲ擧クレハ左ノ如シ。

護謨玩具生産業者兼問屋

所在地	店名	種類
府下日暮里	根本ゴム玩具商	人形類
本所區元町五	坂田ゴム商會	同
日本橋區小傳馬町	小林兄弟商會	同
本所區中ノ郷業平町四	三田土ゴム製造株式會社	輸出向玩具トシテハ毬トス
北千住三丁目	東京護謨工業株式會社	
寺島町殿田二九四	**カフイトゴム**工業所	

本所區元町五　坂田商店玩具部
神田區久左エ門町七　村田義次
淺草區新猿屋町八　吉本商店
日本橋區馬喰町三丁目　内田牛三郎
淺草區向柳原一ノ二六　石原三郎
日本橋區横山町二ノ一三　柴田好太郎
本所區横網町二ノ一八　藤森繁雄
日本橋區馬喰町四ノ二三　武田玄六商店
淺草區田原町二ノ二八　安田喜一郎
日本橋區本銀町二ノ一二　坂田商店
府下隅田町一三〇三　東京護謨製作所
淺草區藏前中町一〇　奧田澤田屋
神田區新石町一五　西村多吉

セルロイド製造業者兼問屋

府下王子堀ノ内七四一　東京**セルロイド**加工所
日本橋區馬喰町二ノ一三　**ローヤルセルロイド**株式會社
淺草區向柳原二ノ一　石橋千太郎

淺草區新旅籠町一　永峰**セルロイド**工業株式會社
日本橋區南元町二二　荻村龜太郎商店玩具部
同　區馬喰町三丁目　倉持長吉（豊田屋）
同　區横山町一ノ二　株式會社山田初次
淺草區小島町十六　相場金次郎

金屬玩具製造業者

本所區松井町三ノ一九　北川末吉
深川區清住町二〇　長德三郎
同　區常盤町二ノ七　森下文吉
下谷區二長町五〇　山口德太郎
本所區若宮町一三四　原田才次郎
同　區押上町一九五　河野角藏
淺草區森田町六　和田錄三郎
同　區小島町七三　中村猪之吉
同　區永住町一〇五　伊藤猶藏
同　區七軒町四　神谷龜藏
同　區西三筋町一二　榎本熊次郎

日暮里町七一二　藤井正吉

木製玩具製造業者

本所區横山町六九	丸吉敬二
府下寺島町一九九七	町田棟吉
府下亀井戸二ノ五二	栗田次郎
淺草區南元町二二	齋藤徳太郎
日本橋區横山町二ノ一四	小島兒訓堂
深川區西六間堀町一五	岩崎太郎吉
本所區押上町一九五	北村松太郎

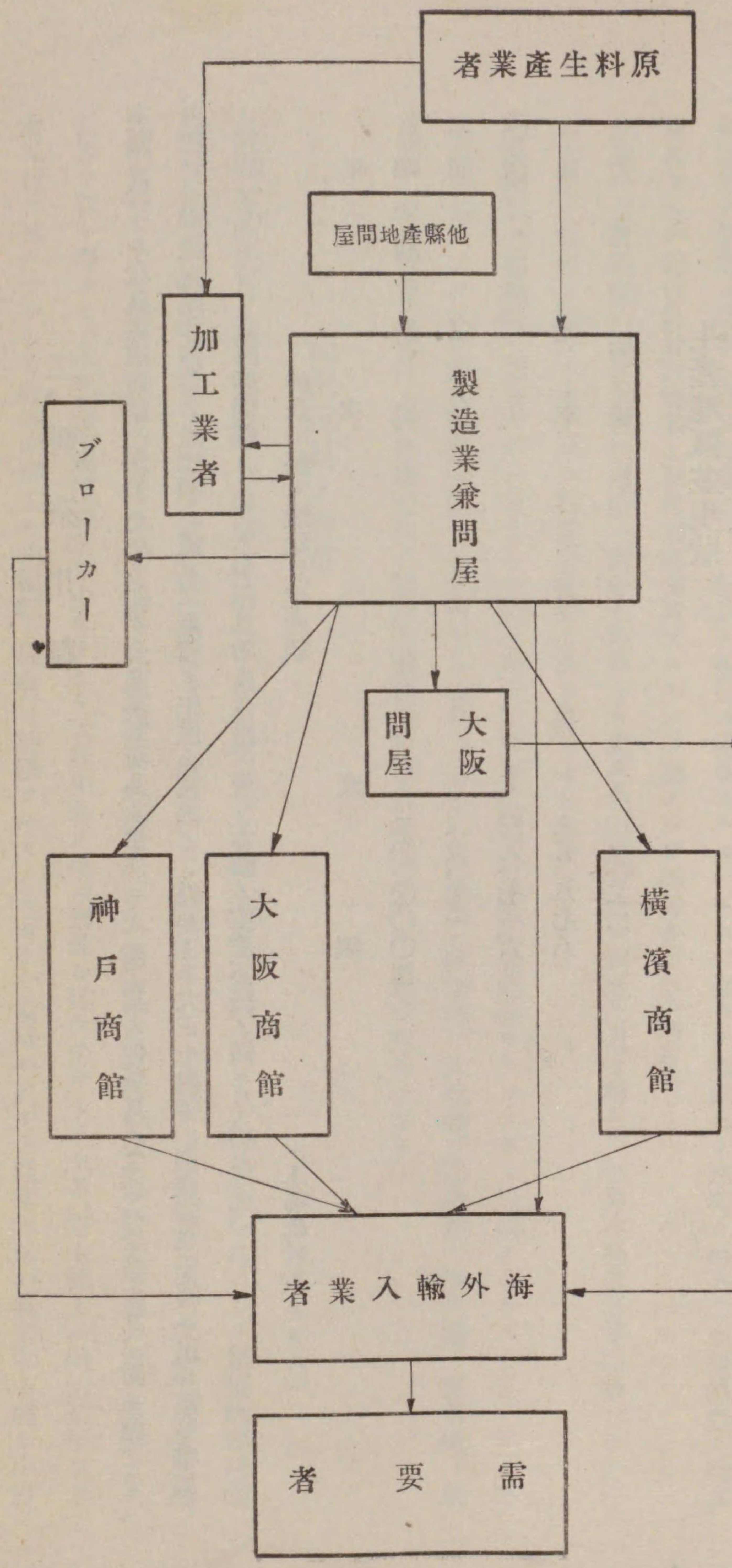
ネル、絹天玩具製造業者

淺草區南元町二二　齋藤徳太郎

東京府ニ於ケル各種玩具生産統計（工場統計表ニヨル）

	金屬玩具	陶磁器玩具	護謨玩具	セルロイド玩具	木製玩具	紙製玩具	計
昭和四年	六五四、〇五五圓	—	一、三九九、一七九圓	一、八九三、六五〇圓	一二三、八二九圓	一三、六〇〇圓	四、〇八四、三一三圓
同三年	六二五、三六七	—	一、八六六、八四五	一、四八六、一二五	七四、三二五	一二、〇〇〇	四、〇六四、六六二
同二年	五六二、一七〇	—	二、三五四、一三四	一、三一五、三三五	四〇、四〇一	二〇、〇〇〇	四、二九二、〇四〇
同元年	四七六、八四一	八、五〇〇	一、八二八、七七六	一、六七八、三六二	四一、〇〇〇	一八、三八〇	四、〇五一、八〇九
大正十四年	三一五、一八〇	—	二、五六九、五三七	六〇二、八四五	三七、八〇〇	—	三、五三五、四六二

東京ニ於ケル生産並輸出經路



二、神奈川縣

本縣ニ於ケル玩具ノ生産額ハ別表ニ示ス如ク全ク木製玩具ノ生産ニ止マリ其ノ他玩具ノ生産ハ全然ナク、而モ極メテ少額ニシテ最近昭和四年ノ生産額ハ僅ニ二萬圓ノ生産ヲ見ルノミ然レトモ大正十四年ノ生産額三千圓ニ比シ逐年増加ノ傾向アリシカ、近時靜岡縣ヨリノ木製玩具増産スルニ至リ本縣ノ生産不振ノ傾キヲ示セリ。

神奈川縣木製玩具生産額　（工場統計表ニヨル）

年次	産額
昭和四年	二〇、〇〇〇圓
同三年	三六、七一八
同二年	三八、七一六
同元年	三五、八七八
大正十四年	三、三三〇

生産地區並現狀

本縣ニ於ケル玩具ノ生産ハ現在ニ於テハ箱根物産同業組合ノ名ノ下ニ所管セラルル足柄下郡一帶即酒勾、足柄、小田原、國府津、大窪、湯本、溫泉、宮城野ノ二町六ケ村ニ亘ル木工玩具ヲ主タルモノトス、右ノ中箱根細工ノ起源ニ最モ密接關係ヲ有スル早川村ハ現今ニ於テハ唯タ木地挽ノ部落ヲ殘スニ止マリ、組合員ハ一樣ニ國道ニ沿ヒテ營業ナセ

リ、以上ノ外ニ江ノ島鎌倉ニ於テ生産セラルル貝細工ノ一部アリトス、是等ノ玩具ハ主トシテ家内工業ナレハ一家平均四人ノ職人又ハ關係人アリトスレハ八十四軒ノ製造業者六十四軒ノ指物製造業ニ附隨シテハ約千數百人者カ玩具關係業ト認メラル、尙箱根物産同業組合員以外ニ挽物製造業者六十四軒アリ、其ノ內三分ノ二ハ家庭用品、煙草入、其他箱類等ノ製造ニ從事シ殘リ三分ノ一ハ玩具ノ製造ニ從事スルモノトス、從ツテ別掲八十四軒ノ外ニ二十有餘名ノ玩具業者アレハ都合合計百餘名ノ玩具製造業者アルモノト認ムルヲ得可シ。（別掲省略）

斯業ハ材料需給ノ關係上製品搬出ノ利便上箱根ヨリ漸次小田原方面ニ新組合員ヲ增シ、事業ハ漸次不規則的ナカラ合同作業ノ傾向トナリツツアルハ斯業ノ將來ノ爲メ慶ス可キコトトス。

箱根細工カ稍組織ニ營マルルニ至リシハ明治四十二年箱根物産同業組合組織セラレテヨリ以來ノコトニシテ、年々同組合ニ加入スルモノ多ク現在ニ於テハ四百二十四名ニ達シ、販賣商、塗師職、蒔繪職、挽物職、指物職、寄木職、象嵌師、金具職等ヲ包含シ組合地區內ノ製造販賣額逐年增大シ最近ハ百十五名內外ヲ算ス。

箱根玩具ノ沿革

本品ハ挽物玩具ト指物玩具トニ區別セラレ其ノ中箱根玩具トシテ此地ニ傳ハリシモノハ挽物玩具ニシテ箱根物産同業組合ノ調査ニ據レハ慶長ノ頃ヨリ紅物挽ト唱ヘラレ一般挽物ヨリ區別セラレ、玉抜キ、四方引出、平七獨樂等カ所謂鄕土的玩具トシテ傳習製作セラレ居リシカ、挽物玩具ノ特徵トシテハ國內製品多種多樣ナル點ト生地ノ頗ル微細ナル點等ヲ擧ケ得ルモ、未タ製造規模極メテ少サクシテ大量生産ノ域ニ到達シ居ラサルモノトス、寄木細工ハ明治初年ヨリ湯元村ニ傳ヘラレシカ此寄木細工ハ箱根細工中最モ特徵アルモノニシテ、當時ハ之レヲ種寄木又ハ亂寄木ト稱シ小刀

ヲ以テ製作シ居リシモノナリ、從ツテ價格ハ低廉ナラサリシカハ一般商品トシテ取扱ハレス單ニ手藝品トシテノ狀態ニ留マリシナリ、然ルニ其後研究ヲ積ミ明治十年頃ヨリ之レヲ西洋家具ニ應用セシモ未タ廣ク一般ニ行ハルルニ至ラサリキ、之レニ相繼イテ象嵌細工ハ明治二十五年頃ヨリ獨逸機械**ミシン**ヲ使用シテ研究ヲ續ケタルモノアリ、遂ニ線鋸ヲ使用シ象嵌地板ヲ作リ、更ニ其ノ地板ヲ鉋引キシテ數枚トシ各種ノ普通指物小箱類ニ應用シ意外ノ好成績ヲ得ルニ至レリ。

其後明治三十八年頃ニ東京ノ人ニシテ有色ノ自然木ヲ以テ水彩畵ノ圖案ヲ象嵌ニ應用シタルヲ作リ出シタルカ時恰モ京都博覽會ニ出品シ名聲ヲ博シ、終ニ實用新案ノ特許ヲ得ルニ至レリ、之レト同時ニ小田原ノ人ニシテ熱心ニ研究スル者出テ象嵌細工ハ廣ク普及シ指物細工ニ一新規軸ヲ出シ世ニ顯ハルルニ至レリ。

主ナル挽物玩具製品名

入玉子、達摩十二入子、玉抜キ、輪投ケ、輪抜キ、**タラヒ**舟、網入水道具、**ラツパ**、空氣鐵砲、獨樂類各種、人形各種、車類各種、達摩落シ、卓上**マラソン**、卓上**テニス**、**シーソー**、首振リ又ハ胴振リ、**ポスト**貯金箱、動物各種、魚類各種、地球**トンボ**車、各種車附玩具、釼玉、旅行用**コツプ**、將棋類。

指物玩具製品名

汽車、電車、自動車、馬車、板人形、組木各種、秘密箱各種、貯金箱各種、積木各種、桃太郎舟車、小机、小茶器、小鏡臺、小箪笥、引抜キ**ボート**等。

箱根細工ノ現況

箱根細工カ稍組織的ニ營マレルニ至ツタルハ明治四十二年箱根物産同業組合組織セラレテヨリ年々同組合ヘ加入スル者多ク、現在(昭和四年末)ニ於テハ四百二十四名ニ達シ販賣商、塗師職・蒔繪職、挽物職、指物職、寄木職、象嵌師、金具職、等ヲ包含シ組合地區内製造額逐年增加ヲ示シツツアリ。

尙ホ詳細ハ左ニ示ス如シ。

(箱根物産同業組合調査ニ據ル)

年度別		挽物玩具(丸物) 金額(千圓)	挽物玩具(丸物) 數量(千個)	指物玩具(ヒミツ箱貯金箱) 金額(千圓)	指物玩具(ヒミツ箱貯金箱) 數量(千個)	合計 金額(千個)	合計 數量(千圓)
大正十五年 昭和元年	輸出	一五六	九七一	五一	二七四	二〇七	一、二三五
	內地	九八	三一六	五二	一三四	一五〇	四五〇
昭和二年	輸出	一六四	一、〇八九	六九	二六六	二三三	一、三五五
	內地	一〇三	三三八	五六	一二七	一五九	四六五
同 三年	輸出	一九七	一、五一五	八五	三一一	二八二	一、八二六
	內地	一八七	九二九	七二	二〇一	二五九	一、一三〇

昭和三年神奈川縣箱根物産同業組合員數及販賣金額

	玩具製造業	指物業
小田原町	一四	四七
足柄町	一六	一八
酒匂村	二	一
大窪村	三	二〇
湯本町	三三	三七
溫泉村	一五	一
宮城野村	一	一
計	八四	六二

仕向先	金額	數量
組合地區內	四二千圓	一五四、〇〇〇個
國內	一四五	七七五、〇〇〇
海外	一九七	一、五一五、〇〇〇
計	三八四	二、四四四、〇〇〇

箱根玩具ノ材料ノ需給狀況

昔時箱根連山一帶ハ各種ノ樹木極メテ豊富ナリシ關係上細工用トシテノ材料ハ充分ニ是等ノ山地ニ供給セラレアリシモ、本品ノ需要逐年增大ト共ニ殆ント何時シカ人力ノ及フ限リ伐採シ盡サレ殆ント餘ス所少ナク、現今ニ於テハ縣下阿武川ノ上流ニ僅ニ桑、楠、及雜木多少供給セラルルモ、他ノ用材ハ大部分他縣下ヨリ供給セラルニ至リ、從ツテ現在ハ有限責任箱根物產信用購買販賣利用組合ノ手ニヨリテ配給セラルル狀況ナリ、今主タル樹種並ニ產地ヲ擧クレハ左ノ如シ。

原木種類別	主タル產地
キワダ、楠、欅、欅神代、松、杉、神代杉、桂、桂神代	北海道、新潟、秋田、甲斐、靜岡
柾樹、槐、栂、青肌、桑、水草、朴、山毛欅、たも、	伊豆御殿場、
朱利櫻、唐邊木、はる木、漆、苦木、	

是等ノ雜木ハ同地方ノ茶ノ仲買人カ伐リ出シ製造家ニ販賣スルモノトス、從ツテ茶ノ出盛時季ニハ自然中止スルニ至ル弊アリ。

雜木ハ主トシテ大宮町邊ヨリ搬出ス一般ニ運賃嵩ムルヲ以テ出廻リ少ナシ一時ハ原料仕入ニ關スル利用組合ヲ設立セントスル計畫アリシモ終ニ中止スルニ至リタリトイフ。

今一二ノ製造家兼問屋ヲ擧クレハ左ノ如シ。

四番町　酒井亀吉

小田原譯南　高橋鐵造（製造販賣）

尙神奈川縣地方ヨリ貝細工ノ產出ヲ見ルモ其ノ一部ハ海外ニ輸出セラレツツアリ重ナル製造業者ハ左ノ如シ。

神奈川縣片瀨江ノ島通　渡邊(傳七)合名會社

尙右ノ外セルロイド人形ヲ東京ヨリ仕入レ單ニ之ニ衣裳ヲ着ケルコトヲ專門トシ、而シテ之レヲ輸出ニ振リ向ケルモノニシテ之亦一種ノ輸出玩具ノ製造家トモ認メラル。

神奈川縣大磯町　古賀マサ

神奈川縣玩具(木製)製造業者名

酒匂村	和田久治	(指物玩具)
足柄村	原澤義友	(挽物同)
同	立木平太郎	(同)
湯本村	露木俊郎	(同)
同	佐藤三郎	(同)
同	對木德太郎	(指物玩具)
大窪村	山谷良之助	(挽物玩具)
小田原町	佐藤傳作	(指物玩具)

神奈川縣木製玩具問屋

大窪村板橋九四一	鍵和田章介
小田原町十字二ノ三六八	鍵和田修平
湯本町湯本	田中直吉
同　同	田中庄吉
同　同	後藤汎平
同　同	小菅幸吉
同　同	對木傳八
同　塔ノ澤	箱根玩具商會
同　同	紅葉屋

三、靜岡縣

靜岡縣ニ於ケル輸出玩具ハ主トシテ木製玩具トス本品ハ古キヨリ當地方ニ發達シタル漆器木地製作ノ關係上製造セラレタルモノナリ、大正二年頃外國製玩具ノ見本靜岡市工業試驗所ニ來タルモノヲ模倣シテ製作シ販賣セラレタルニ初マリシト謂フ、其ノ當時ニ於テ木製玩具モ極メテ幼稚ナリシモノニシテ、一般ニ需要セラルルニ至ラサリシヲ後大正四年同地工業試驗所ニ於テ木工玩具講習ヲ催セルヲ以テ一層擴張セラレ、歐洲戰亂勃發ノ爲メ本縣特有ノ漆器ノ輸出貿易ハ杜絶スルニ至リ、同方面ニ關係スル職工ハ一時休業ノ止ムナキ狀態トナリ、之レカ救濟策トシテハ官民協力シテ木製玩具ノ製作ヲ奬勵シテ以テ米國ニ輸出ヲ試ミタリ。

爾來逐年本縣ノ木製玩貝ノ製作隆盛トナリ大正三、四年頃ハ全盛期ニシテ產額モ三十萬圓ニ上リ、大正五年ノ秋季ニハ一時輸入禁止トナリシカ翌六年再ニ解禁セラレ輸出セラルルニ至レリ、現在ニ於テハ歐洲、支那、南洋方面ニ米國ヘ輸出セラレ、製造戶數七十戶職工數三百人アリ。

最近五ケ年間生產額ヲ擧クレハ左ノ如シ。

大正十二年	七二、〇〇〇圓
同十三年	一〇〇、〇〇〇
同十四年	一二〇、〇〇〇
同十五年 昭和元年	一五〇、〇〇〇
同二年	一六〇、〇〇〇
同三年	一七〇、〇〇〇

工場統計表ニ據ラス本縣ノ回答ニヨリシモノトス

靜岡縣ニ於ケル木製玩具ハ各分業トナリ居リ生地生產業者ハ約十五名、塗專業者十數軒、金具取付業者五、六軒アリ、同地木製玩具ノ問屋ハ職人ニ仕上約半額例ヘハ仕上百圓ノ仕事ニ對シテ五十圓貸シ與フルコトトシ即チ生地代ヲ差引キ仕事ヲ授ケツツアリ是等ノ生地職工ハ日給一圓五十錢ヨリ二圓程度ノ手間賃トス。

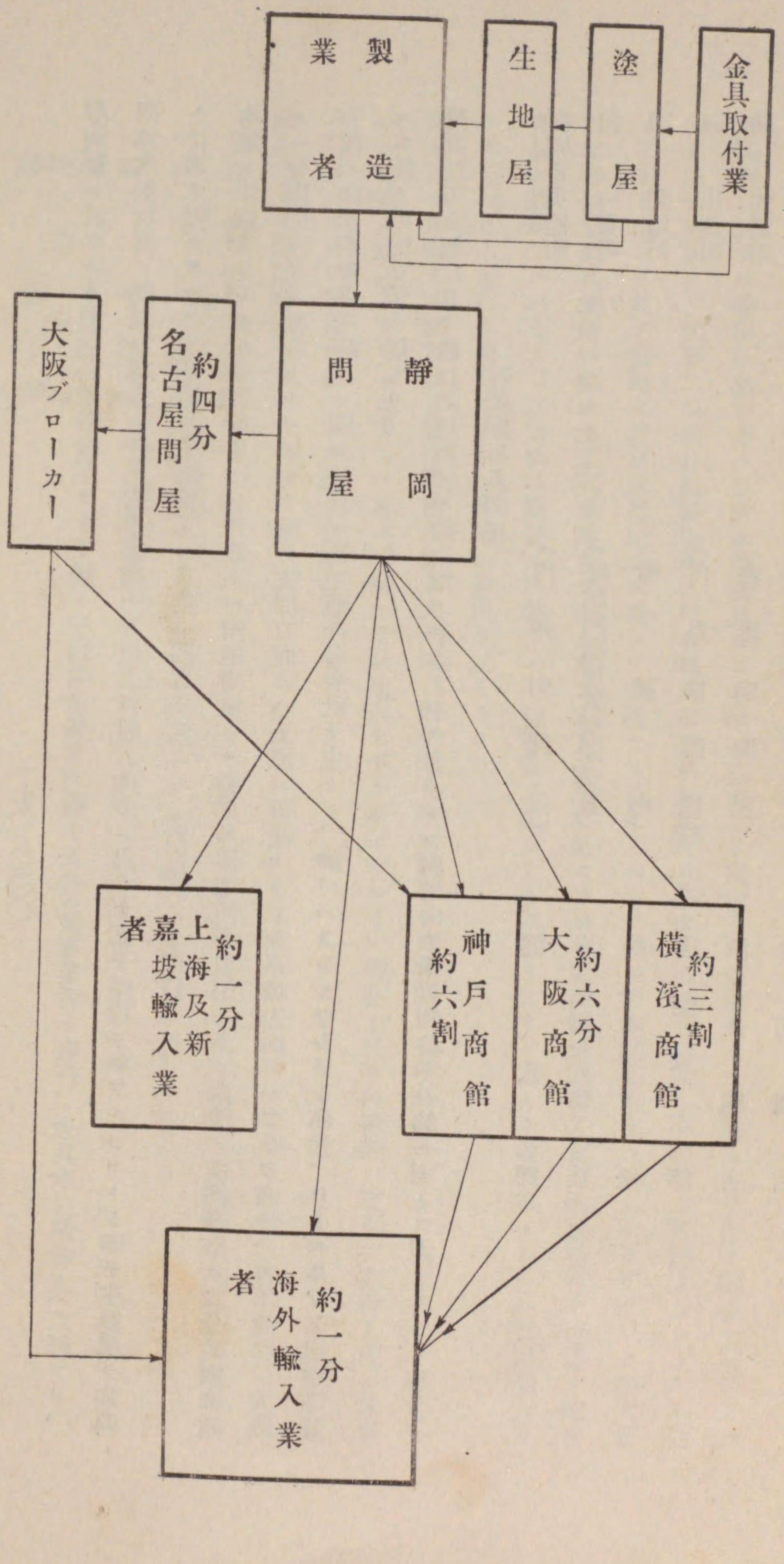
本縣ニ生產セラレタル木製玩具ハ七分通リハ同地問屋ヨリ神戶外國商館ニ取引セラル自餘ノ橫濱商館ニ二分大阪商館ニ一分取引セラル割合トナリ居レリ而テ支那方面ニハ上海ニ直輸セラレ新嘉坡方面ニハ**ブラク**商會、吉田商店、大阪方面ハ南洋商會外一軒アリ橫濱玩具一番加藤合名會社ヲ主トシ、神戶ハ**コンミツシヨン**商會、**リーベルマン**商會等最モ多額ノ取引ヲ示シ居レリ。

靜岡地方木製玩具ノ輸出問屋業者ハ約二割ノ利益アルヲ普通トシ內地向取引ノ利益率ハ約一割トス。

靜岡縣玩具問屋

靜岡市吳服町	（內外向問屋）	堀八郎
同　一番町	（輸出向問屋兼製造業者）	岩田商店
同　問屋町	（輸出向）	松本市松
同　川鍋町	（內外向問屋）	後藤專太郎
同　四番町	（內地向問屋）	酒井龜吉
同　江尻町	（問屋兼製造業者）	井田商店
同　鷹匠町	（一錢モノ內地問屋）	佐藤爲藏

靜岡縣產木製玩具ノ生產及輸出經路



四、愛知縣

愛知縣ニ於ケル玩具ハ主トシテ名古屋市ヲ中心トシテ生產セラレ工場統計表ニヨレハ昭和四年ニ於テ紙製玩具十四萬三千圓木製玩具十二萬六千圓陶磁器玩具二萬六千圓ヲ主タルモノトシ金屬玩具ハ全ク生產ナク、右ノ外當業者ノ談ニヨレハ木製玩具ハ工場法ニ依ラサル工場ノ生產高年三十萬圓見當ヲ生產ストイフ、總額トシテ年六十萬圓内外ノ生產ナル可シ輸出玩具トシテハ木製玩具ニ於テ安物ノ**ラケツト**、汽車、汽船、飛行機、箱物等ヲ主タルモノトス。

本縣ニ於ケル陶磁器玩具ハ主トシテ北米（紐育、市俄古、加奈陀）向小サキ茶**セツト**、眠人形、泥人形等ニシテ名古屋田代商店（一般陶磁器輸出業者）ノ專屬工場トモ見ルヘキ小工場四、五戸ヲ算シ、一般陶磁器ト同シ包裝ヲ以テ海外ニ仕向ケラルニヨリ統計トシテハ一般陶磁器統計中ニ含マル。名古屋港ヨリ輸出セラルル陶磁器品中約二割ハ玩具ト認メラル。

紙製玩具トシテハ主トシテ**デングリ**（花扇、**クス**玉、紙ノ花丸、）花**ツナキ**、國旗、凧、吹戻、卷笛、**インデアン**式帽子、起上リ、達摩等トシ、專ラ紙張ノ**ホデ**ノモノニ翼又ハ附屬品ヲ他ノ材料ニテ部分ヲ取リ着ケタルモノトス。

右生產業者

名古屋市花ノ木町　淺田玩具工場

愛知縣各種類別輸出玩具生產額（昭和三年）

	製造業者	數量	價額
陶製	五二人	六、五二〇、〇〇〇個	五七六、〇〇〇圓

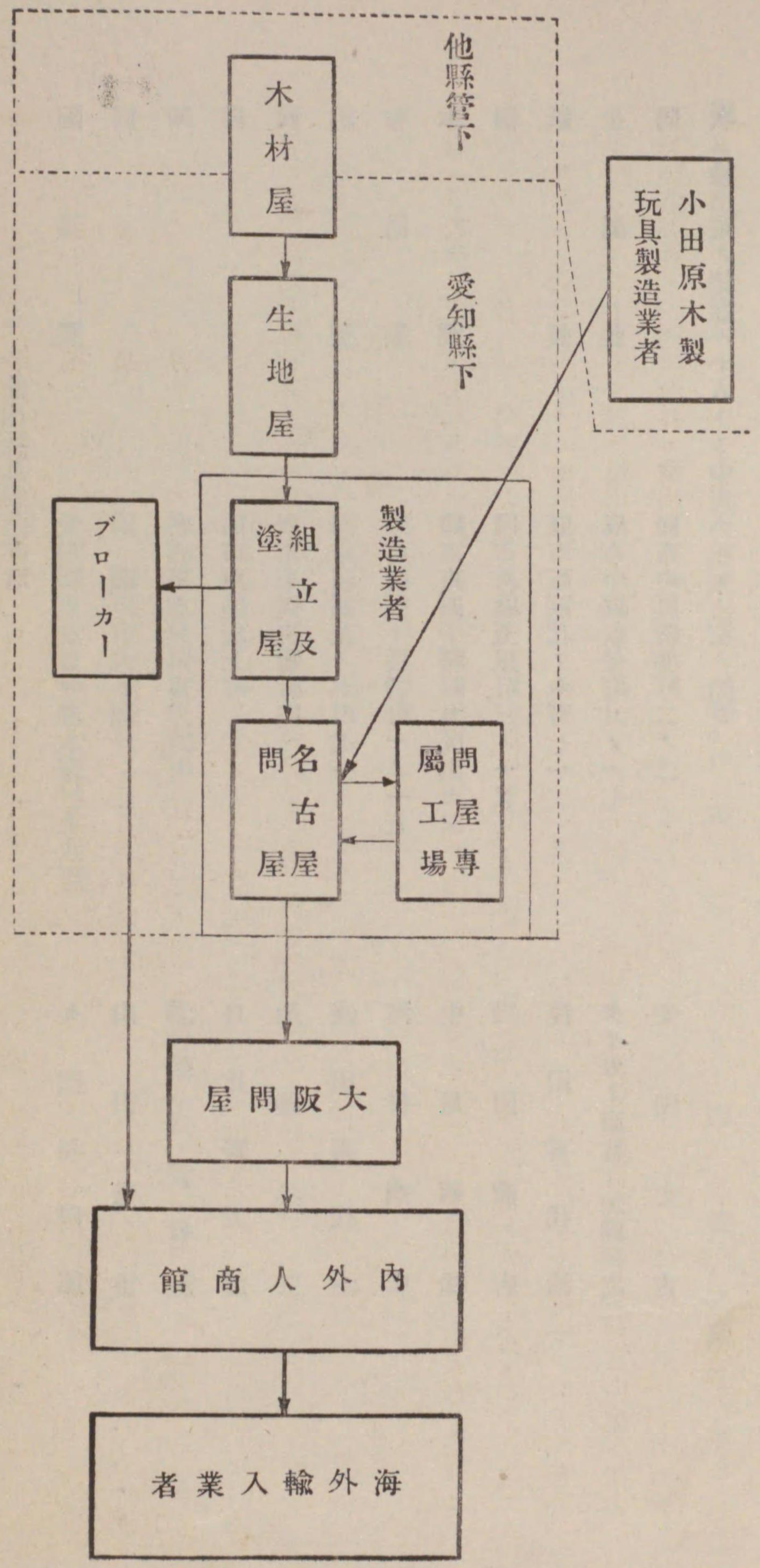
綿及布帛製	四	五四、〇〇〇	三七、七〇〇
紙製	二	六五四、九〇〇	三七、五〇〇
金屬製	三	二一七、五〇〇	二六、二〇〇
木製	三	五一、〇〇〇	一八、二〇〇
合計	六四	七、四九七、四〇〇	六九五、六〇〇

右表ハ愛知縣回答統計表ニヨルモノニシテ前掲工場統計ト多少ノ相違アリ。

取引概況

本縣ヨリ輸出セラル木製玩具ハ大體ニ於テ三樣ノ經路ニヨリテ輸出セラルルモノトス、一、靜岡縣小田原町ニ生産セラレタルモノカ名古屋ノ問屋ニ引取ラレ輸出商館ニ振向ケラルル場合、二、最初ヨリ名古屋ニ於テ生産セラレタルモノカ名古屋ノ問屋ノ手ニヨリ輸出港ノ商館ヨリ輸出セラルル場合、三、名古屋ニ於ケル玩具組合及塗屋ノ手ヨリ直チニ少數ノ小**ブローカー**ヲ經テ輸出港ノ商館ヨリ輸出セラルル場合ノ三樣アリ、其他陶磁器玩具ハ名古屋ニ於ケル輸出業兼製造業者ヨリ直接海外ニ輸出セラルル場合アリ。

木製玩具ノ名古屋地方ニ於ケル生産及輸出經路



輸出玩具製造業者

陶器製	愛知縣東春日井郡水野村上水野	久田和四郎
同	同　瀬戸市大字瀬戸	山田彦重
同	名古屋市東區東芳野町	瀬榮合資會社
同	同市東區板上町	日比野五郎
同	同市東區主税町四	加藤兵三
綿製	同市西區花ノ木町七一	淺田喜代治
布帛製	同市西區下長者町一ノ一五	河村商店
木製	同市東區千種町九反田五三	中尾福松
同	同市西區玉屋町三ノ一五	岩田商店
紙製	同市西區花ノ木町七一	淺田喜代治
金屬製	同市中區新榮町八ノ一七	タイガー商會　加藤朝之
同	同市中區新柳町二ノ三	安田丈吉

次ニ輸出業ノ總數ハ十八人トシ中主ナルモノ左ノ如シ。

品種	取引額	所在地	輸出業者
陶製	四〇、〇〇〇圓	名古屋市東區主税町三ノ六	太洋商工株式會社
同	一五〇、〇〇〇	同　同　町四ノ一七	科野商店
陶、木、布、製	一〇〇、〇〇〇	名古屋市中區武平町二丁目	加藤商店
セルロイド、ゴム、陶製	一〇、〇〇〇	同　東區前ノ町一六	宇佐見商店
セルロイド、陶製	一〇〇、〇〇〇	同　同　本町三丁目	蜂谷商會
陶製	一五〇、〇〇〇	瀬戸市	山城柳平

五、京都府

生産狀況

京都府ニ於ケル玩具ハ專ラ京都市ヨリ生産セラレ、所謂純京人形ハ年七、八十萬圓ノ生産トシ、陶器ノ都踊リ如キ內地向玩具ハ約一萬圓ヲ生産シ輸出向玩具ハ約三、四十萬圓ヲ產ス。

輸出玩具ハ主トシテ綿製、陶磁器及紙製玩具トス即昭和三年ニ於ケル綿製玩具ハ十九萬六千圓、陶磁器玩具十二萬二千二百圓、紙製二萬六千圓ニシテ合計三十四萬四千二百圓ノ輸出玩具ヲ生産ス。（府ノ回答ニヨル）

綿製玩具ハ專ラ米國**イースター**祭（三月―四月）向トシテ鷄ノ雛、家鴨、兎等ノ如キ小鳥獸ヲ綿又ハ絹天、**モヘア**ニテ作ラレタルモノ主トシテ輸出向トシテ作ラル。

陶磁器製玩具ハ所謂**ビスクドール**トシテ歐米向ニ作ラレタル眠人形ヲ主トシテ首振人形其他**セントパトリック**祭（三月二十七、八日）用ノ細カキ陶器ノ帽子、**パイプ**（胸飾用）又**インセスバーナー**等トス、本品ハ主トシテ別記**ミカド**商會ノ製作スル所トス、同商會ハ歐洲戰後ヨリ海外ニ輸出シアリシモ、近年**セルロイド**人形ノ發達ニツレ眠リ人形ハ幾分壓迫ヲ蒙リ不振ニ陷リシモノノ如シト雖、尙同商會ハ滿洲大連ニ出張所ヲ設ケ本邦ニ於ケル**ビスクドール**輸出業者トシテ活躍シアリ、又同會ハ博多人形ノ如キモ產地ヨリ仕入レ輸出シアリ、本品ハ主ニ神戶外人商館ノ手ニヨリ海外ニ仕向ケラルモノヲ大部分トシ大阪商館ヨリスル場合ハ極メテ少ナシトス。

紙製玩具ハ主トシテ米國ノ**セントパトリック**祭頃ニ使用セラルル紙製ノ帽子又ハ針金ニ絹絲ノ青色ナルヲ卷キタル**クローパー**形ノモノニテ胸飾リトスルモノ、又ハ蛇、花帽子、**パイプ**等勿論其ノ品質ヨリ見ル時ハ紙又ハ陶器製玩具ナルモ、主トシテ之等ハ一箱ニ混合シテ哥宛箱入トシ輸出ニ振リ向ケラルルヲ以テ、全體トシテハ紙製玩具統計中ニ包含セラルルモノノ如シ、如斯本品ハ主トシテ家內的手工業ニヨリ生産セラルルモノナルヲ以テ其ノ製造業者ハ所謂下職トモ見ル可キモノニシテ、斯カル下職ハ京都市內ニ約五百戶位存在ス、前記ノ眠リ人形モ亦各部分品即手足、目玉、髮ヲ下職カ造リタルモノヲ一ツノ完全ナル人形トシ取リ纒メルモノトス、是等下職ハ大低四、五人乃至二十人迄ノ職人ヲ置ク斯カカル下職ノ大ナルモノ約三十軒ヲ算ストイフ。

輸出玩具製造業者

綿製	京都市下京區河原町佛光寺	清水勝藏
同	同市下京區七條通大宮西入櫛笥南入	澁谷祐代
同	同市東山線三條一ツ南辻東入	京都玩具商會　西村兵太郎
同	同市七條大宮西入	園村駒次郎
陶磁器製	同市下京區本町九丁目野本町	**ミカド**商會
紙製	同市七條大宮西入	京都玩具商
同	同	清水勝藏
同	京都市建仁寺町五條北入	間瀨庄藏

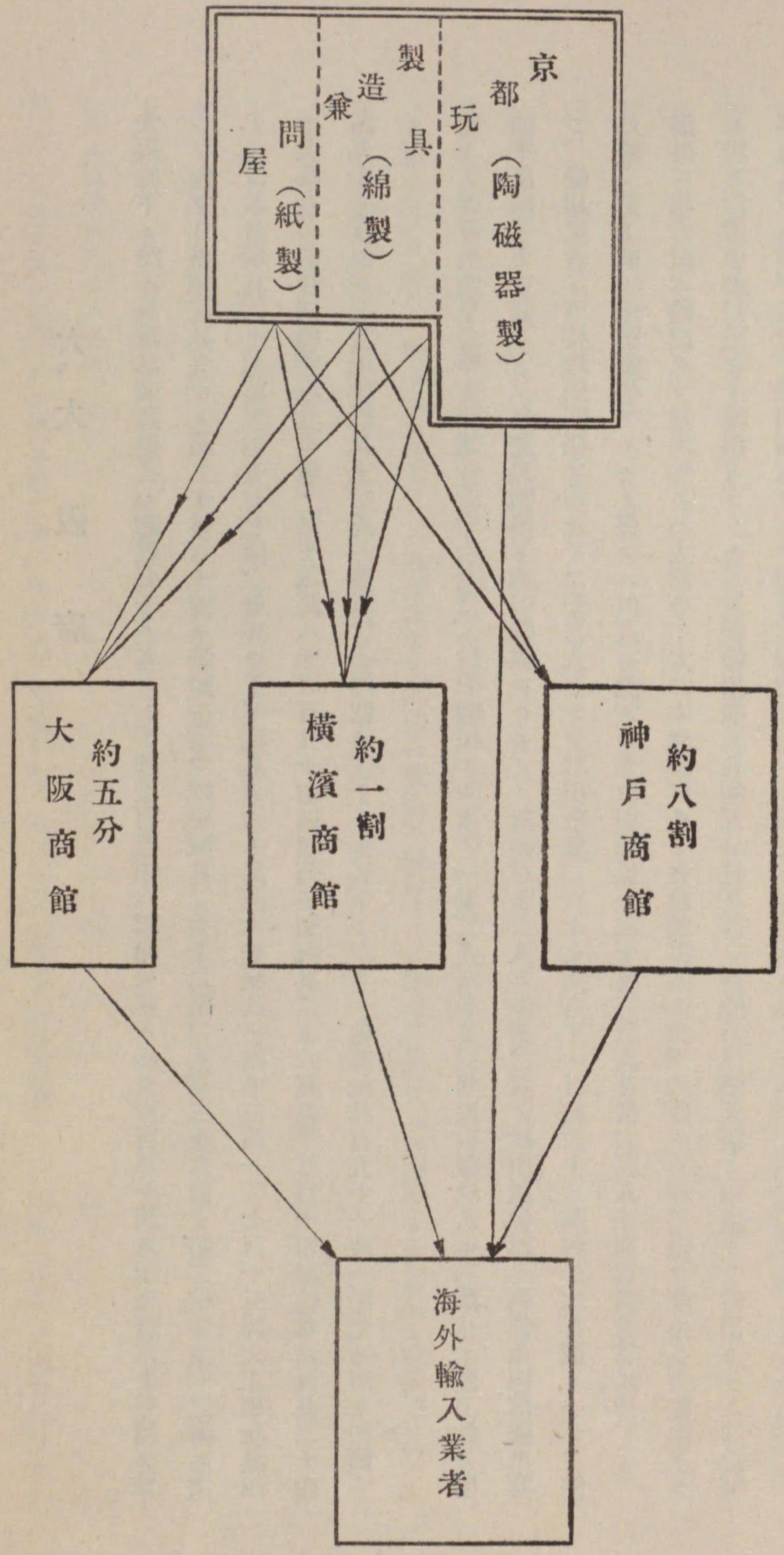
取引概況

京都府ニ於テ生産セラレタル玩具カ海外ニ輸出セラルルハ主トシテ神戶ノ外人商館ヨリ輸出セラルル場合多シ、唯タ

ミカド商會製作ニ係ル陶磁器玩具ハ海外直輸出セラルルモ一般陶磁器製品ト同一箱中ニ包裝セラレテ輸出セラルル場合多シ、從ツテ稅關ハ玩具トシテ取扱ハスシテ一般陶磁器品トシテ取扱ハレ統計モ亦陶磁器品ノ項目中ニ算セラル有樣ナリ、前記**ミカド**商會ハ滿洲方面ニハ大連ニ出張所ヲ設ケ主トシ同支店ノ手ニヨリテ輸出セラレ居ル場合多シトス、陶磁器玩具ニハ**インセスバーナー**、泥人形、伏見燒ノ如キモノヲモ輸出スルコトアリ。

紙製、綿製等ハ殆ント總テカ神戸商館ノ手ニヨリテ輸出セラル、神戸商館、中澤商會ハ專ラ北米方面ノ輸出ニ從ヒ、其他宮部末高合名會社、**ストロング**、**ウイトコスキー**、**ウインクレル**等ヲ主トスル、仕入ハ主ニ**サンプル**ニヨリテ注文ス場合多シトス支拂ハ一週間一回ノ小切手勘定多シ、然レトモ時トシテハ毎月十四日二十八日ノ勘定モアリ、神戸商館倉庫渡シトシ其ノ經費ハ凡テ問屋ノ負擔トス、洋函ハ製造業者ノ負擔ニシテ商品ノ代金中五分見當ノ函代ト見積ラル。

京都府ニ於ケル輸出玩具ノ輸出經路



六、大阪府

大阪府下ニ於ケル玩具製造業者ハ總數九十八名ニシテ總取引價額ハ昭和三年ニ於テ六百八十萬九千九百八十五圓ヲ算シ、內**ブリキ**製玩具九十九萬九千百六十圓ヲ筆頭トシ、紙製玩具、七十二萬、九百三十六圓ヲ第二位トシ、之レニ次テハ**ゴム**製玩具六十七萬五千九百七圓、**セルロイド**玩具ノ六十萬圓木製玩具ノ四十三萬一千七百十五圓火工製玩具四十九萬五千八百圓綿製玩具（雛）三十八萬八千五百九十七圓、硝子製玩具二十六萬九千五百十四圓綿布帛玩具二十四萬九千七百四十七圓土製玩具十三萬一千八百十四圓ヲ主ナルモノトシ、其ノ他雜玩具百九十一萬一千七百四十四圓トス。

而シテ此等製造業者中下受業者（加工業者）ト取引關係アルモノハ十二人ニシテ、其取引數量八十六萬八千個、此ノ價額十萬四千九百圓トシ、又產地問屋ト取引關係アルモノノ數ハ三十六人ニシテ、其ノ取引數量四十萬個十四萬圓ヲ算シ、輸出業者ト直接取引關係アルモノ二十八人ニシテ取引數量三百十七萬六千一百個四十八萬四千二百圓ニシテ、海外輸入業ト直接取引關係アルモノ僅カニ四人ニ過スシテ取引數量ハ三十萬三千八百個六萬五千四百圓ヲ算ス。

海外市場方面ニ輸出セラルルモノハ大部分、大日本**セルロイド**會社製品ニシテ。大阪或ハ神戶港ヲ經由シテ輸出セラレ居リ、就中神戶港ヨリ輸出セラルルモノ總輸出額ノ八割五分位ヲ占メ殘餘ハ橫濱大阪ノ兩港ヨリ輸出セラル、之レ畢竟スルニ神戶在住ノ輸出商ニヨリテ海外ニ輸出セラルル關係ニ歸因スルモノトス。

大阪市ニ於ケル輸出玩具ハ別記輸出商ニヨリテ直輸若シクハ商館ノ手ヲ經、又ハ華僑ノ手ヲ經テ歐米各地ニ輸出セラルルモノ多シト雖、單ニ此等ノ方法ノミニ止マラス、市內有力商人ハ之レニ滿足セス年々ニ二三十人宛自費ヲ以テ約三ケ月間南洋方面各地ヲ歷訪シ相當ノ注文ヲ取リ歸朝スル方法ヲトレリ、斯クシテ南洋方面ニ於ケル和蘭人獨逸人トノ競爭ニ相當ノ努力ヲ拂ヒ居ルモノトス。

而シテ其ノ商品ノ注文ハ各生產地ノ製造業者ニ見本其他ノ方法ニヨリテ發セラル、例ヘハ同種類ノ纏リタル現品ハ生產地製造家ヨリ直接注文ノ數量丈ケノ貨車積トシ神戶運送店ノ倉庫渡トシ、又ハ本船渡トシテ發送スルモノニシテ商品其ノモノハ自家ノ店頭ニ發送セラルルコトナシ、（幾種類モ混合スル場合ハ此ノ限リニ非ス）先發トシテ商品百箱ニ對シテ約一打ノ見本ヲ提出スルニ止マリ、神戶商館ニ於テハ殆ント何等ノ吟味檢査スルコトナクシテ海外ノ得意ニ發送スルヲ常トス、之ハ重ニ**ゴム**製玩具ノ場合ニ見受タル所トス。

一般大阪市ニ於ケル川口支那商（華僑）ノ邦品ヲ買付クルニハ、在支支那商カ大阪川口ニ支店ヲ設ケ、或ハ出張員ヲ派遣シ本邦品ノ買付ヲ行フ場合ト、單ニ大阪川口ニ於ケル支那商ニ邦品ノ買付ヲ委託スル場合トノ樣式アリ、一方邦品カ支那方面ニ玩具ヲ輸出スル場合ニハ直接在支支那商ニ賣込ム場合ト、在支那支店又ハ出張所ヲ經由スル場合、或ハ在支支那商カ大阪輸出問屋ヨリ輸入シ支那商ニ賣込ム場合トノ數種アリ。

元來支那雜貨商ハ顧客ノ注文ニヨリテ邦品ノ仕入ヲナスコトハ殆ント稀ニシテ、一般ニ見込仕入ヲナス場合多シトス、而シテ其ノ取引ハ金建（圓）ヲ常トシ商品ハ運送店倉庫渡トス。

支那人相手ノ決濟ハ每月二十八日乃至三十日手形及現金（小切手）六十日拂約束手形ヲ普通トスレトモ、北滿即大連、奉天、長春、等ノ支那人ト取引アル華僑ハ勘定日每ニ內入金トシテ三、四割ヲ其ノ月末ニ支拂ヒ三大節季（端午、仲秋、加年）ニ決濟スルモノトス。

然レトモ通常其ノ間ニ於テ更ニ第二次、第三次ノ注文取引アレハ其ノ都度ノ合計金額ノ三、四割ハ其ノ月末支拂フモ

ノトス、斯カル有樣ナレハ例年五六月頃迄ハ貸一方ニシテ上半期ノ帳尻決濟ハ行ヒ難シト雖、下半期ニ至リ注文量ヨリ勘定ノ方漸次增加シ毎年早キトキハ十一月遲クモ年末迄ニ總決算ヲ行フモノトス、斯ノ如ク支那人相手ノ取引ハ延取引ニナルヲ普通トスレトモ必ス年内ニハ總勘定行ハレ、翌年ニ廻ス如キ不信ナルコトナク、割合ニ確實味ヲ有シ居ルモノトシアリ。

大阪ニ於ケル一般玩具ヲ取扱ヒ居ル某問屋ノ如キハ**セルイロド**製玩具ニ於テハ東京方面ノ生產品五分大阪ノ生產品五分ノ割合トシ、金屬玩具モ亦東京大阪共ニ五分々トシ獨リ木製玩具ハ八分通リ名古屋產トシ其他二分ト云フ如キ割合トス。

運賃負擔ハ生產地問屋ヨリ大阪ノ輸出問屋迄ノ鐵道運賃並ニ上ケ下シ運賃ハ生產地問屋ノ負擔トス、斯ク各生產ヨリ發送セラレタル各種ノ玩具ハ一亘問屋ノ店頭ニ蒐集セラレタル後、華客ノ注文ニ應シテ各種類ノ玩具ヲ一箱中ニ混合シ華僑ニ賣リ渡ス順序トス。

大阪方面ヨリ輸出セラルル**セルロイド**玩具ハ其ノ地製造會社ヨリ直接海外ニ輸出セラルルモノハ僅ニ一分通トシ、他ハ阪神ノ商館トノ取引ニヨリテ輸出セラル。

大阪方面ヨリ輸出セラルル**ゴム**製玩具ハ大略年二十萬圓トシ、主トシテ東京方面ニ於テ生產セラルルモノ多ク大阪方面ノ製品ハ比較的ニ少額トス、本品ノ大阪ニ於ケル直輸出商モ多少アリ、某商會ノ如キハ新嘉坡方面ハ三鼎商會大阪出張所ノ手ニヨリ輸出シ孟買方面ハ**ミナボーイ**商會宛直輸シツツアリ。

尙大阪ニ於ケル輸出玩具問屋ニテ取扱フ、紙製ノ玩具ニハ大阪市及接續町村ニ於ケル家內工業的ニ生產セラルル、**デングリ**、飛行機、角形提灯、紙帽、角笛、卷笛、鳴子、花ツナキ、張リ**ボテ**、振廻シ鳥等頗ル種類多ク、其他金屬玩具ニハ**アンチモニー**ノ笛、小家具、**ピストル**ノ如キ極メテ細小ノ一箱ニ十哥入リトシ、一哥十二錢位ノモノ多數最高ハ十四、五錢ノモノ米國方面向トシテ生產セラル、其他木製玩具ニハ**ボート**、**ブロツク**(繪合)箱根玩具商會等ヨリ來ル數取リ(**パズル**)等ノ如キハ專ラ濠洲方面ニ相當輸出セラレ、綿製雛、鷄、兎、**アヒル**等ノ如キハ專ラ米國**イースター**向トシテ下半期ニ至リ多數ノ入注ヲ見ル、元來大阪製品ハ京都產ニ比シテ一見頗ル不格恰ナルモ、價格ノ低廉ナル爲メ年々相當多額ニ海外需要ヲ見ル、從テ綿製玩具ノ大阪全市ノ生產約二十萬圓ヲ算スト云フ、尙大阪問屋ニハ各專屬ノ下職十軒位ツツアリテ各問屋ヲ通算スルトキハ約百軒ノ下受職工アリト謂フ。

一般ニ大阪府川口町附近一帶ニ滯在シ居ル支那貿易商ヲ客棧ト呼稱セラレ居ルモ、之レハ單純ナル商人宿ニ非スシテ行棧ト客棧トヲ兼ネ營ム一種ノ貿易商ニシテ行棧ト呼フヲ本稱トス、行棧ニハ客商カ滯在スルニ都合ヨク各數十室ニ分割セラル、左表中六十三番館ハ約五十室、七番館ハ約四十室、百五十六番館ハ約三十室ト云フ具合ニ可成多數ノ人員ヲ收容シ得ル可能性ヲ有シ居レリ、一室ハ大低五、六坪位ノ室、家屋ハ洋館造、又ハ古キ日本造ヲ改造シタルアリ、其ノ室內ニハ一個ノ卓子及寢臺ヲ備ヘテ起臥シ、此ノ室ニ於テ商取引ヲ行フヲ普通トス、右ノ內ニハ數名ノ客商カ共同シテ一家ヲ構フルコトモアリ、單ニ同居シ居ル場合モアリ、又宿屋營業者トシテ届出テ居ル場合モアリ。

行棧ノ業務ハ旅宿ト問屋トヲ兼ネ出張者ヲ宿泊セシメ旅宿者ノ爲メ取引先ノ紹介、通譯、貨物ノ引取、運送、銀行取引其他一切ノ用件ヲ辨シ、旅客ノ不在中代理買付ヲナシ、又本國各地商店ノ買次ヲナスヲ目的トス。

行棧カ問屋トシテ取扱フ商品綿絲布類ヲ最高トスレトモ雜貨類ノ取扱高モ雜貨凡テノ種類ニ亘リ、從ツテ其取引高モ綿絲布ニ次イテ一流ノ大棧ニ於テハ年額數十萬圓ニ達シ居レリトス。

行棧ノ手數料ハ綿絲布雜貨共ニ通例百分ノ二トスレトモ客先ノ如何ニヨリテ多少ノ相違アリ、行棧ト宿泊者ノ取極メ

ハ區々ニシテ新ニ渡來シタルモノハ宿泊料ヲ無料トシ、取引高ノ幾分五厘乃至一分ヲ報酬トスル場合ヲ普通トス、日本內地ノ事情ニ通曉セルモノヨリハ月々若干ノ宿泊料ヲ徵集スルコトトシ、其ノ他心附及步合金ハ年二回又ハ歸國ノ際ニ支拂フモノトス。

大阪ニハ在留支那貿易商即チ行棧ノ外ニ有力ナル貿易團體アリ、今ヲ距ル四十年前ニ上海出身ノ在留者ヲ中心トシテ三江公所ト呼フ商團體カ設ケラレテ以來、北支出身者モ加入セルカ後分離シテ大淸北邦帛商業會議所ヲ設ケ、後大阪中華北邦帛公所ト改メ續イテ三江公所モ亦大阪中華南邦帛商業公所ト改稱セラレ、更ニ民國ノ法令ニ據リ大阪中華總商會カ設ケラレシト云フ此ノ三團體カ在留支那商ノ最モ有力ナル商團體トス。

尙右ノ外福州同鄉會、大阪中華從善會、大阪中華書報社、中國國民黨支部等アレトモ是等ハ親睦、娛樂、慈善修養等ヲ目的トシ、又政治關係ニシテ孰レモ川口貿易ニ直接關係ヲ有スルモノニ非ス。

川口貿易ニ密接ノ關係アルモノニハ上海ニ於ケル日本雜貨取扱商ノ團體ナル東莊洋貨公所アリ、之レニ對シテ大阪ニハ賣込邦商團體ノ大阪貿易同盟會アリ、同會ハ從來アリシ大阪貿易同志會、大阪輸出同盟會、北支那輸出同業會ノ三者カ各其ノ目的ヲ等シクスル關係上、終ニ大正十一年合同成立シテ新ニ組織セラレタルモノニシテ、同會ハ會員ノ賣込競爭ヨリ生スル弊害ヲ防キ取引上ノ安全ヲ期センカ爲多大ノ努力ヲ拂ヒツヽアリ、例ヘハ支那商ノ新ニ川口ニ於テ取引ヲ開始スル場合ニハ其ノ支那商ノ信用ヲ調査シテ其ノ取引ノ可否ヲ會員ニ通知シ、又支那商ノ信用ニ變化ヲ生シタル如キ場合ハ會員ニ警戒ヲ豫告スルコト、又代金ノ支拂ノ延期不當ノ値引强要ノ場合ノ如キハ會員ニ代ツテ交涉ヲ爲スコト、或ハ支那商ノ不拂ニ對シテハ權利ヲ擁護シ交涉解決ノ任ニ當ルコト等種々努力スル所大ナリ。

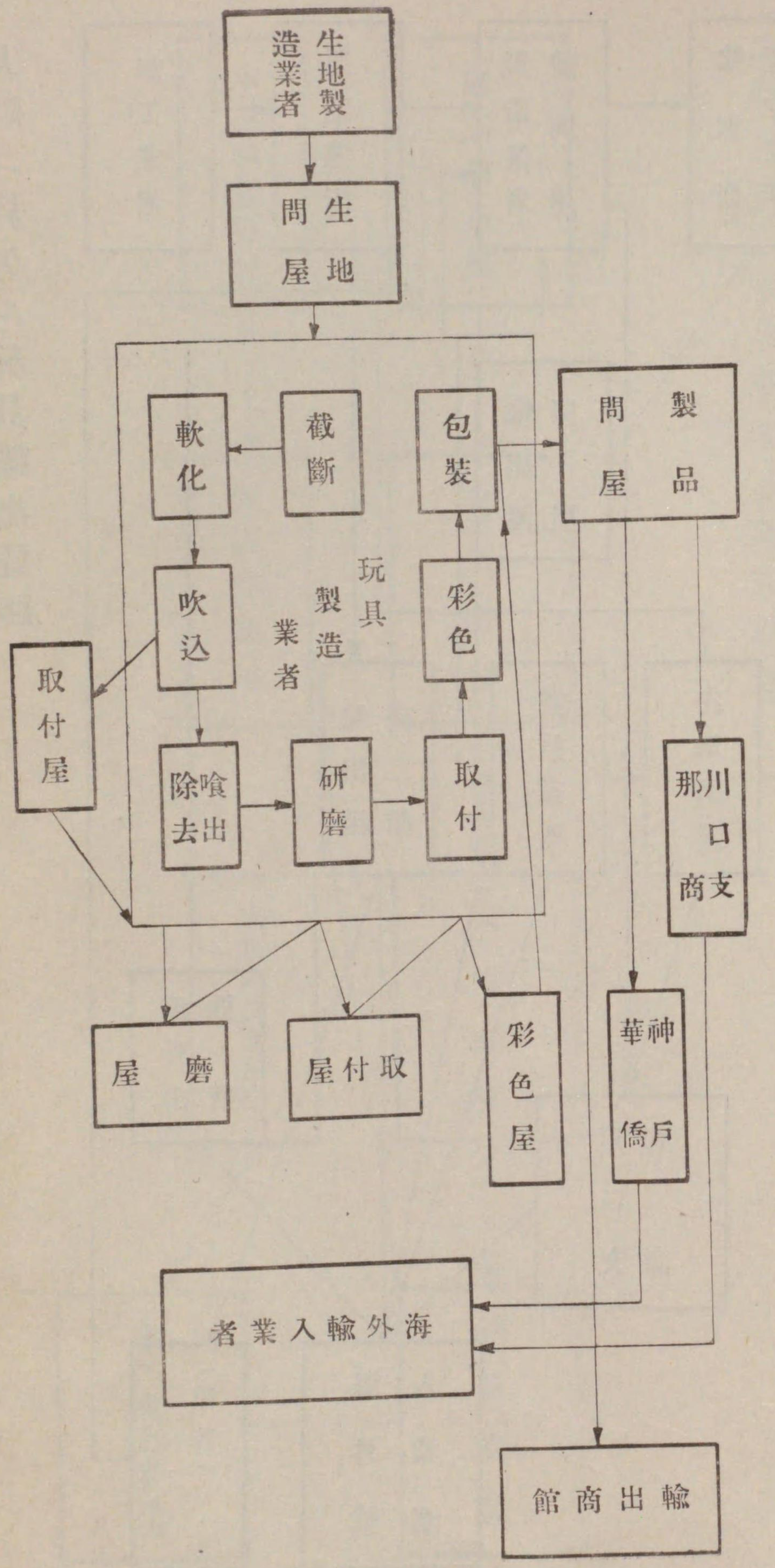
行棧調査表

（昭和四年十月末現在大阪府川口警察署調查）

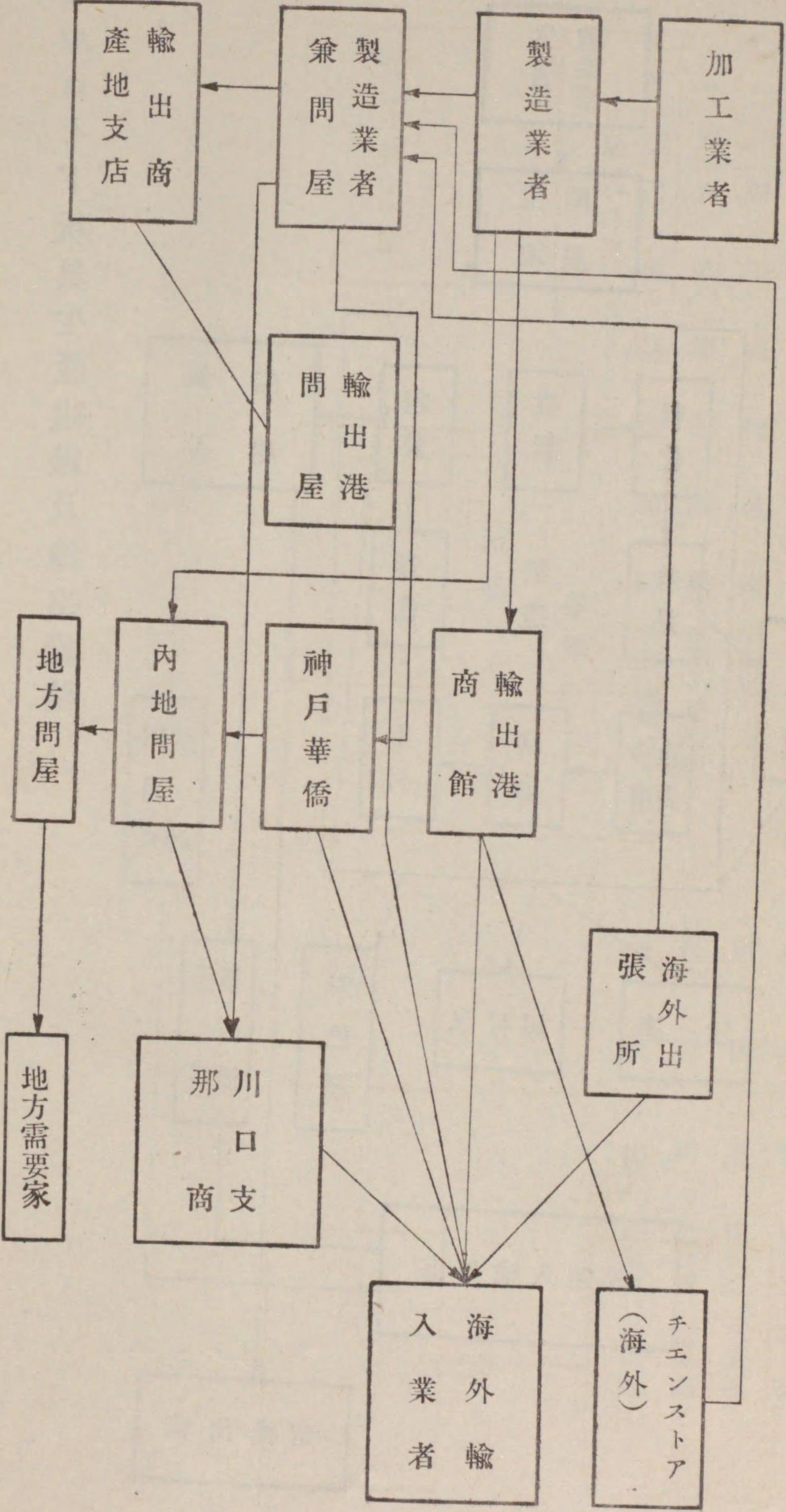
番	館商號	住所	代表者氏名	出身地
二	雙興號	大阪市西區三番町二一	高與壽	河北省、天津縣
六	同和棧	同　同　川口町二七	傅嵩山	山東省、福山縣
七	順德和	同　同　本田三番町三	玉搏九	山東省、牟平縣
一四	泰東洋行	同　同　本田二番町十七	王岐山	同
二四	振祥永	同　同　本田町通一丁目三八	顏振祥	山東省、鄒平縣
二七	安生號	同　同　本田三番町二	張鈎耕	浙江省、寧波
三〇	恒昌號	同　同　本田三番町九	林梓生	山東省、福山縣
三四	東順茂	同　同　本田三番町二三	孫佐宸	山東省、榮城縣
三九	德盛泰	同　同　本田町通一丁目四六	王樹東	山東省、牟平縣
五〇	萬義棧	同　同　本田二番町一六	王植生	山東省、蓬萊縣
五七	中東號	同　同　本田二番町一三	王錫臣	山東省、牟平縣
六三	乾生棧	同　同　本田三番町一三	李堯臣	山東省、蓬萊縣
六四	公順棧	同　同　本田町通一丁目四六	劉漢卿	山東省、黃縣

七〇	惠昌號	同	同	本田三番町三〇	葛和甫	浙江省、寧波
九五	德昌裕	同	同	本田三番町一	馬敏卿	山東省、黃縣
一一五	玉成棧	同	同	川口町十三	黃觀亭	山東省、蓬萊縣
一五六	通德源	同	同	本田一番町四	桑佐臣	遼寧省、營口縣
五〇〇	福昌信	同	同	本田町通一丁目六一	張文山	山東省、福山縣

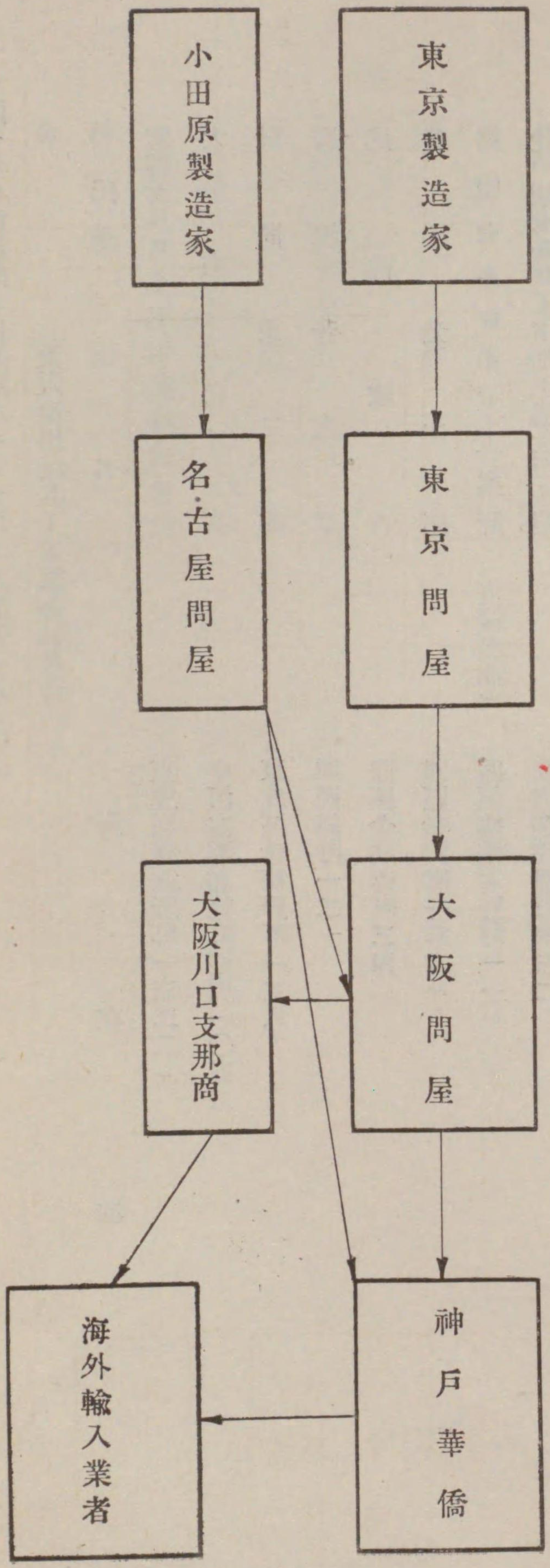
セルロイド玩具生産組織及輸出經路



大阪ニ於ケル玩具輸出經路



大阪ニ於ケル木製玩具取引經路



次ニ大阪府地方ニハ專ラ家内工業的ニ生產セラルル紙製玩具ハ重ニ紙張**ポテ**ノ鳥類ニ經木或ハ金屬ヲ以テ翼又ハ手足ヲ附ケ多少活動的ニ出來居ルモノヲ以テ大部分トス。

大阪輸出玩具工業組合員名簿

氏名	所在地
常磐**セルロイド**工業株式會社	東成區猪飼野町一三二一
大森元次	中河内郡布施町荒川一〇五二
風間東三郎	東成區猪飼野町一三八
鴨池音次郎	同區同町一三一
武内政吉	同區舍利寺町三四
曾田光十郎	同區猪飼町一四六一
筒中**セルロイド**工業所（直輸出商）	同區鶴橋木野町一一
辻戸號**セルロイド**加工場辻戸哈造	泉南郡佐野町四三二
中島正二郎	東成區鶴橋木野町三四〇
中西治三郎	中河内郡巽村伊賀ケ三七八
内藤寛一	中河内郡八尾町大信寺五〇
室榮	東成區猪飼野町一二三
土田彥二郎（直輸出商）	南區順慶町一丁目一
鈴鹿商店	東成區猪飼野町一三〇
小山勝之助（直輸出商）	東區南久太郎町一丁目二四
國際**セルロイド**工業株式會社	豊能郡庄内村大字菰江三三一
小山**セルロイド**株式會社	住吉區南加賀屋町四三一
荒木金助	東區南久寶寺町一丁目二六
木藤茂次	東成區猪飼野町一六八
東谷合名會社	西區北堀江上通一丁目一七
關深造	南區西賑町一六ノ一

昭和三年

大阪府玩具製造戶數		二三九
職工數	男	六〇八
	女	二五五
	計	八六三
種類別	金屬	四一二、六八七
	セルロイド	二一五、五六五
	ゴム	二〇七、五二一

木製	八〇、四二四
竹製	一〇、二一八
紙製	一九一、九四三
土製	九、七三三
綿製	三一、六四五
硝子製	一、九八八
其他	二四、〇四五
計	一、一八六、七六九

北區	一一九、八〇一圓
此花區	二一、五〇〇
東區	一七、八一七
西區	—
港區	二九、七一三
天王寺區	七八、六四二
南區	二七四、九二〇
浪花區	一〇〇、一〇〇
西淀川區	九六〇
東成區	三四、五五九
西成區	二六、九一六
住吉區	六、八八〇

大阪ニ於ケル**ゴム**玩具問屋

松山號（由助）	大阪市東區博勞町心齋橋筋一六　（各種**ゴム**玩具）
黑崎商店	西成區梅南通三丁目
株式會社 飯田定助	東區唐物町四丁目
宮川養吉	東區平野町堺筋
榊商店	東區松屋町
小松龜吉	東區松屋町末吉橋角

セルロイド玩具ノ主ナル製造業者

中根元吉工場	大阪市東成區野江中三町二丁目
常盤**セルロイド**工場	同　東成區猪飼野町
廣田榮吉工場	同　南區御藏跡町
小山勝之助工場	同　東成區北生野町
筒中**セルロイド**株式會社	同　小橋南之町一丁目一〇七

國際セルロイド工業株式會社　大阪府豊能郡庄内村大字菰江三三〇二

輸出トンビ紙凧製造業者

大阪市天下茶屋　若野惣兵衛

大阪ニ於ケル問屋業者

東谷合名會社	市内西區北堀江上通一丁目一七
小山定號	同　東區南久太郎一丁目二四
東谷分號	同　西區立賣堀南通四丁目一四
荒木金助商店	同　東區南久寶寺町一丁目二六
科野商店（米藏）	同　南區鹽町三丁目三一
合資會社白澤商店	同　西區江戸堀南通五丁目七
株式會社杉山商店	同　西區京町堀南通三丁目六
大阪バザー	同　東區淡路町野村ビルデング五階
竹本喜太郎	同　東區備後町五丁目
廣野熊次郎	同　南區安堂寺橋三丁目
辻吉商店	同　同
高尾松三郎	同　西區京町堀二丁目
長岡善藏	同　立賣堀

輸出業者

東谷合名會社	西區北堀江上通一丁目一七
小山定號	東區南久太郎町一丁目二四
東谷分號	西區立賣堀南通四丁目一四
荒木金助商店	東區庫久寶寺町一丁目二六
科野商店	南區鹽町三丁目三一
高尾商店	西區京町堀二丁目三
藤本ツル商店	同　立賣堀北通一丁目一九
合資會社白澤商店	同　江戸堀南通五丁目七
株式會社杉山商店	同　京町堀南通三丁目六
鴻茂詳	同　本田通二番地
永和堂號	同　川口町六三

エト3G78